

越知の教育

第58集



令和7年3月

高岡郡越知町教育委員会



は じ め に

「越知の教育」第 58 集の発行にご協力を賜りましたみなさまに、厚くお礼申し上げます。本年度は、これからの未来を生き抜き、持続可能な地域を実現していく人材の育成を基本理念とし、第 3 期越知町教育振興基本計画【越知町教育大綱】（令和 6 年度から令和 10 年度）を令和 6 年 3 月に策定し、その施策の実現に向けて取り組んでおります。

- 基本目標（1） 安心で信頼される幼児教育・保育の充実

幼稚園と保育園を統合し、本年 4 月から旧保育園の施設において「幼保連携型認定こども園おちの子」を開園しました。そして、令和元年度から休止していた「子育て支援センター」を、旧幼稚園の施設を活用して再開できました。また、非認知能力の伸ばし方について、7 月と 1 月に元岡山大学准教授の中山芳一氏を招聘し、幼児教育及び保育の質の向上に取り組みました。

- 基本目標（2） 自律して学び続けられる知・徳・体の調和のとれた生きる力を育む学校教育の充実

本年度も引き続き、越知町の指定研究として「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」の研究に小・中学校が連携して取り組み、西留安雄先生を招聘し、児童生徒が主体的に授業を進め、言語活動に重点をおいた深い学び合いの授業づくりに取り組みました。

学びの土台である温かい学級づくりでは、鳴門教育大学教授の久我直人先生から、個々の児童生徒の見取りと学校づくりの理論と実践について学びました。

タブレット等の ICT（クラウド）を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「令和の授業づくり講座（教育 DX）」の県指定を小学校が受け、6 月と 11 月に公開授業を行うなど、児童生徒が授業や家庭で自分の選択と判断での活用を進めております。また、デジタル技術を活用した基礎学力向上の事例として、昨年度から 2 年間「デジタルドリル活用実証研究事業」の県指定を小・中学校が受け、AI ドリル（すららドリル）を放課後学習や家庭学習で活用しております。

それらの取り組みを授業改善、放課後学習、家庭学習の充実に小中がつなげ、全国学力学習状況調査では、小学校は 2 教科中 1 教科、中学校は 2 教科全て高知県や全国の平均を上回りました。

- 基本目標（3） 家庭・こども園・小学校・中学校・地域・福祉が連携して越知の子どもを育む環境づくり

家庭の子育て力向上では、4月の小・中学校の入学式及び9月の就学時健診に高知県立療育福祉センターの野々宮京子チーフを招聘し、保護者向けに「子どもの行動」に着目した内容で講座を開催しました。

地域教育推進協議会では、子どもたちと一緒にあいさつ運動、仁淀川で遊ぼう大会等、多様な体験の場を設定し、「越知の子は越知のみんなで育てる」という連帯意識のもと、「子どもたちに最もよい環境づくり」を目指して取り組みを計画していただき、6月にどろんこ運動会、2月にみんなの運動会を開催しました。8月の仁淀川で遊ぼう大会は台風の影響により残念ながら中止となりました。

第5回中学生議会では、中学3年生が4班に分かれて職場体験等を通じて感じて考えた質問と町活性化対策を提案していただき、町政参加への意識向上につなげております。

- 基本目標（4） 自然、文化、歴史を通して生涯学び続けられる環境づくり

公民館活動では、1月に新春囲碁・将棋大会を開催、地区公民館は、運動会・カラオケ大会・ペタンク大会・盆踊りなど、地域におけるコミュニティ活動の中心であり、住民同士の繋がりを深めるための重要な活動の拠点となっております。

文化活動では、各サークルの活動を支援し、今年第61回越知町文化祭の期間（11月2日～5日）において、越知町文化推進協議会を中心とした「越知町文化祭」と「越知中学校文化発表会」とのダブル開催、そして、笑いで元気なまちづくり事業として「越知町笑いの日 2024」吉本お笑いライブを開催し、多くの町民のみなさまに楽しんでいただきました。また、淀家萬月さんの寄席等をあったかふれあいセンターや各地区公民館等に出向き12回開催しました。

北海道滝上町との交流事業は12年目となり、7月に滝上小の児童が越知町を訪問する夏の交流、2月に越知小の児童が滝上町を訪問する冬の交流ができました。また、滝上町トランポリン協会からトランポリン1台を寄付していただき、11月に滝上町の指導者のもと小学生全学年が体験しました。中学3年生の国内英語研修は、8月に東京のグローバルゲートウェイで英会話のみの体験を1日半しました。

社会体育では、町民スポーツ祭や小学生野球越知新人大会の開催、総合型地域スポ

ーツクラブや少年スポーツクラブ、スポーツ推進委員の活動等が計画どおり実施できました。高知ファイティングドッグスの選手等による小・中学校の授業や部活動への運動支援は、延べ 42 時間実施し児童生徒から好評を得ております。そして、小学生野球越知新人大会では、52 チームが参加のもと越知バッファローは初優勝となりました。また、1 月のピッタリロードレースでは、今回も小学校が学校行事で参加していただき商店街を走るコースで開催し、164 人の参加があり沿道からたくさんのご声援をいただきました。

本の森図書館では、子どもたちへのおはなし会、こども園へ出張読み聞かせ、乳幼児へブックスタートとして本と木のおもちゃをプレゼント、新小学 1 年生にセカンドブック、新中学 1 年生にサードブックとして本をプレゼントしており、成長期に応じた本や読書に子どもたちが興味を持つような工夫や活動をしております。そして、図書館への来館が難しい方へ出張図書館を令和 4 年秋から開始し、当初は月 10 ヶ所（9 地区）から本年度は月 21 ヶ所（16 地区）と広がっております。また、図書館協議会（委員 5 人）を設置し、11 月に協議会を開催し様々な意見をいただきました。

横倉山自然の森博物館では、昨年度は NHK 連続テレビ小説「らんまん」放送の影響もあり、入館者数 16,864 人となり 11 年ぶりの 1 万人超えとなりました。本年度は入館者数 10,000 人を目標に企画展、観察会及び講演会を開催し、9,500 人程度の見込みとなります。また、全国のコウモリ愛好家で組織されているコウモリの会主催の「コウモリフェスティバル」が 9 月に博物館を主会場として 2 日間開催され、県内外から延べ 314 人が来館されました。今後も横倉山への導入施設、そして越知の子どもたちの学習の場として、関係機関と連携し、来館者の増加につなげていきたいと思っております。

これからも越知の教育の発展のため、関係各位のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和 7 年 3 月

越知町教育長 織 田 誠

目 次

各校の研究

- 子どもにとって最もふさわしい生活の場を保障し、
生きる力の基礎を養うとともに、
子どもの最善の利益を守る…………… 認定こども園おちの子… 1

- 自ら学び、豊に考える子どもを育む
～自立的・自立型の学習者の育成～…………… 越知小学校…………… 19

- 生徒が主体的に学び、考えを深める授業づくりと
支持的基盤のある集団づくり…………… 越知中学校…………… 52

町教育行政

- 教育委員会機構図…………… 85
- 令和6年度越知町教育行政の教育の方針…………… 86
- 学校教育…………… 91
- 社会教育…………… 100
- 地域教育…………… 102
- 社会教育関係事業…………… 105
- 教育相談所…………… 122
- 社会体育…………… 124
- 横倉山自然の森博物館…………… 129
- 越知町少年育成センター…………… 137
- 越知町連携推進部会…………… 149
- 研究賛助会員…………… 158

各校の研究

認定こども園おちの子

研 究 同 人

園長	田村 香	会計年度任用職員	小崎 りえ
副園長	吉本 ちあき		井上 直美
主任保育教諭	大崎 三佳		北村 恭世
保育教諭	大原 真奈美		田邊 千春
	岡田 理香		大原 香代
	原田 公		寺岡 麻未
	高橋 亜由美		片岡 香
	西田 沙耶花		徳弘 小夜
	北平地 みゆき		金子 奈々葉
	山下 美穂		田中 なつみ
	岡林 美佳		山崎 留美
	西森 愛未		西本 由美
	和田 亜子		(子育て支援センター)
	西川 彩乃	会計年度任用職員	大原 真由美
	堀内 葉月	(調理員)	齋藤 京子
	刈谷 絵里奈		
	吉村 里美		
	能勢 亜梨沙		
	國澤 あみ		
	中平 真紀		
	(子育て支援センター)		
調理員	原田 峯香		
	篠原 有紗		
	大原 圭		

1. 保育方針

〈教育の理念〉

子どもにとって最もふさわしい生活の場を保障し、生きる力の基礎を養うとともに、
子どもの最善の利益を守る

〈めざす子ども像〉

- ① 健康で安全な生活ができる子
- ② 友だちを大切にし、思いやりのある子
- ③ よく見、よく聞き、よく考えて行動できる子

〈教育の重点目標〉

- ① 子どもの「楽しい」や「やりたい」などの意欲を大切にする
- ② 社会を生き抜く力の基礎となる非認知能力「自分を高める力」「自分と向き合う力」
「他者とつながる力」の育成を目指す

〈保育の基本姿勢〉

- ① 一人一人の心に寄り添う保育
- ② 一人一人をよく理解し、その子にあった援助を工夫する
- ③ 家庭との連携を大切にし、保護者と共に育てる保育

〈一日の流れ〉

※月 く 金 曜 日	7:30	開園	必要に応じて長時間保育
	8:30	登園	健康観察 所持品の始末 連絡帳出しなど
	9:30	あそび	午前のおやつ（0・1・2歳児）
			自ら選んで遊ぶ活動 クラスや園全体で行う活動 課題をもって取り組む活動
	11:30	昼食	手洗い 昼食準備 昼食 歯みがき
	13:00	午睡	午睡準備（排泄 着替え） 午睡
	14:30	起床・あそび	身支度（排泄 着替え） 自ら選んで遊ぶ活動
	15:15	おやつ	おやつ準備 おやつ 降園準備
	16:00	降園	部屋まで迎え（0・1・2・3歳児）
			正門まで迎え（4・5歳児）
	18:30	閉園	必要に応じて長時間保育 又は一時預かり保育（17:30まで）
※土曜日			1号認定は休園日 2・3号認定は自由登園（必要に応じて12:30まで）

〈クラス編成〉 (令和6年)

年齢	0歳児	1歳児	1歳児	2歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
クラス	ひよこ	りんご	もも	みかん	いちご	りす	いるか	きりん	8クラス
園児数	12	7	7	12	14	21	20	22	115名
男	7	3	3	4	5	13	8	13	56名
女	5	4	4	8	9	8	12	9	59名

〈園行事〉

月	各月の行事
4	おこまり保育 入園式 家庭訪問 総合避難訓練 園小連絡会
5	園小中委合同避難訓練 春の遠足 フッ素洗口説明会（4歳児） 内科健診 歯科検診 交通安全教室 クラス懇談会（幼児組） 検尿
6	愛園作業 プール開き 誘拐防止教室 芋植え 起震車体験 もぐもぐモーニング（5歳児）
7	夕涼み会 プール参観
8	特別保育 プール納め
9	祖父母参観 就学時健診（5歳児）
10	運動会 秋の遠足 親子野球教室（5歳児） 横倉山探索 園小交流（5歳児）
11	マラソン始まり 文化祭出品 福祉大会 園外散策 文化事業 防火パレード 芋掘り 内科健診 歯科検診 総合避難訓練
12	お店屋さんごっこ サンタ来園 園小交流（5歳児）
1	おめでとう会 不審者対応訓練 新入児面接
2	豆まき 生活発表会 個人懇談（5歳児） クラス懇談会（2歳児） 小学校一日入学 園小交流会（5歳児）
3	お別れ遠足 卒園式 おこまり保育（年長児）

※ 誕生会・避難訓練・なかよしひろば…毎月・園庭解放…毎月

※ 安全点検 …奇数月

※ 身体測定…年間4回（幼児組） 年間6回（乳児組、3歳未満児）

※ バス散歩…年間計6回（幼児組）

※ A L T 訪問…毎月（4・5歳児）

2. 研究への取り組み（幼児教育研究協議会資料）

（1）研究にあたって

本園は、今年度4月より保育園から幼保連携型認定こども園になった園である。3歳児21名、4歳児19名、5歳児22名の計62名で、各クラス1人ずつ担任・副担任・支援員をおき教育保育にあたっている。近隣には小中学校があり、園小中それぞれ1校である。以前より、互いの公開授業・公開保育に参加して見合うことや小学校とは年間3回の交流活動を行っており、その都度打ち合わせをし、昨年度の反省も踏まえながら活動している。毎年子どもの姿が違ふ為、反映できる部分など話し合いを重ねる中で教諭同士の関係性もでき、交流の打ち合わせや振り返りでは気になる子の姿も伝え合っている。

今年度5月、小学校のスタートカリキュラム授業を園から2名が参観し協議にも参加した。また、小学校の運動会総練習に招待してもらったことで、子ども達は小学校への期待を膨らませ、園に帰ってきてからも、かけっこをしたり1年生の課題でもあるフラフープを真似て楽しんだりする姿に繋がった。その後、6月に行われた5歳児園内研修の協議に小学校教諭2名の参加があり、遊びの様子だけでなく植物の栽培活動や小学校の生活科についての話もでき、よりお互いを知ることができた。今回植物栽培の話をする中で、園小での取り組みに共通した課題が含まれていることも分かった。そこで尚一層、園と小学校との相互理解の促進に繋げていく為に、どのような取り組みをしていくとよいのか考えることにした。

（2）研究の取り組み

月	日	曜	内容	活動・取組	場所
4	30	火	スタートカリキュラム公開授業	1年生の公開授業参観・研究協議	小学校
5	1	水	園小連携部会①	テーマ・活動内容など	小学校
6	5	水	こども園公開保育	5歳児公開保育参観・研究協議	こども園
7	29	月	園小中合同研修会	菅原裕子先生「子どもの心のコーチング」	町民会館
9	17	火	交流活動①打ち合わせ	ねらい・日程確認・グループ決めなど	小学校
10	16	水	交流活動①・振り返り	フラフープで仲良くなろう	小学校
11	29	金	こども園公開保育	5歳児ブロック別研修会	こども園
12	2	月	交流活動②打ち合わせ	ねらい・日程確認・グループ決めなど	小学校
12	17	火	交流活動②・振り返り	昔遊び	小学校
1	14	火	園小連携部会②	今年度の成果と課題を持ち寄る	小学校
1	28	火	交流活動③の打ち合わせ	ねらい・日程確認・グループ決めなど	小学校
2	19	水	交流活動③・振り返り	1日入学・おもちゃフェスティバル	小学校
3	4	月	園小連絡会	年長児引継ぎ	小学校

(3) 研究事例

こども園で6月に5歳児公開保育を実施

研究協議には小学校から2名参加(1年担任と校長先生) 子どもの気付きの部分の見取り方や園での活動内容を伝えることができた。野菜や植物の栽培活動について話し合い、お互いを知るきっかけになる。他にも保育内容を伝えていく方法を考えた。

●そこでドキュメンテーションを作成し見てもらったり、小学校の生活科の授業内容を教えてもらったりする事にした。

(生活科指導案・教科書参考)



(4) 研究内容

《夏野菜を育てよう》 栽培活動のねらい・内容(月案から抜粋)

- ★夏野菜の苗を植えるための土作りを行い、育てるために必要な準備があることを知ったり、植えることを楽しみにしたりできるようにする。
- ・草花や野菜の成長を楽しみにしながら世話をし、変化に気付いて関心をもつ。
- ・栽培物の生長に関心をもち、収穫を楽しんだり給食で調理してもらい食べたりする。
- ・夏野菜の生長に気付き、収穫を楽しみにする気持ちを育てながら、食への関心を高めていく。

小学校教諭に見てもらったドキュメンテーション

こども園での活動紹介

《夏野菜を育てよう》

栽培活動のねらい・内容(月案から抜粋)

- ★夏野菜の苗を植えるための土作りを行い、育てるために必要な準備があることを知ったり、植えることを楽しみにしたりできるようにする。
- ・草花や野菜の成長を楽しみにしながら世話をし、変化に気付いて関心をもつ。
- ・栽培物の生長に関心をもち、収穫を楽しんだり給食で調理してもらい食べたりする。
- ・夏野菜の生長に気付き、収穫を楽しみにする気持ちを育てながら、食への関心を高めていく。

園での取り組み	今年 栽培活動のねらいまでに育ってほしい姿
苗の植え付け グループごとに夏野菜の苗を植えるが体験し、地域の商店(おもしろ)に買いに行つた。(自分達が選んだ) 今年度はナス、ピーマン、トマト、オクラを栽培している。 ・当分の間の1つとして毎日子どもたちがジョウロを握り、水やりをしている。(友達と協力し合う) (水は葉っぱにかけずに、土にかけます) ＜子どもの気づき＞花が咲いた、実がついた、実の色が赤くなってきた。	・自分の役割をわきま ・自分の力で責任を持って水やりをする。 ・自分の役割をわきま ・自分の力で責任を持って水やりをする。
収穫体験 大きくなった野菜を収穫し、調理員さんに持っていき調理してもらおうとお願いする。「おいしくつくってください(収穫を喜び、自分の野菜で食べる)」 いくつ収穫できたかをクラスの前でみんなが分かるように実を飾り、野菜の姿と形を合わせながらパネルを作る。 調理員さんは子どもたちが楽しく食べることができるよう、イラスト付きのメニューをくれた。 ＜子どもの気づき＞トマトが赤くなった・ナスが大きくなって実が赤い (日々観察することで、大きさをや色などから収穫時期が分かるようになる) 調理員さんに持って行って見よう!	・自分の役割をわきま ・自分の力で責任を持って水やりをする。 ・自分の役割をわきま ・自分の力で責任を持って水やりをする。
給食に自分たちが収穫した野菜が調理されて出てくる。(サラダに入っていた、カレーの汁にトマトを添え!) 採りながら楽しく食べる。 子どもたちが園を歩く。 ＜子どもの気づき＞ ここにもあったよ!おいしい、すっぱい! 調理員さんへ感謝を伝える! ＜子どもの気づき＞自分たちが育てたことで、食べてみようとする気持ちが芽生えている。(給食)	・自分の役割をわきま ・自分の力で責任を持って水やりをする。 ・自分の役割をわきま ・自分の力で責任を持って水やりをする。

野菜の苗を植えてみよう! 町の自然館に行き、野菜の本を借りたり、見たりする。(自然の恵み) ＜子どもの気づき＞花が一つ、葉もあるね おもしろい野菜やこんな花が咲く、葉の色などいろいろなきずきがある。	自然の恵み 自然の恵み
野菜を育てよう! 収穫した野菜は給食さんに調理してもらったが、本を見たことで野菜の半分以上は調理を待つことができた。 そこで調理してもらった子どもたちと一緒に野菜を育ててみることにした。 ＜子どもの気づき＞ 葉、白いね 葉を植えてみるかな?	自然の恵み 自然の恵み
ピーマンの葉を育てよう! ＜子どもの気づき＞葉からも育つかな? 葉を植えてみるかな? 葉を植えてみるかな?	自然の恵み 自然の恵み

【園児の取り組み】

子ども同士で話し合いや協力して取り組める機会を作っています。子ども達の気づきから給食や学びに繋がっていくので、子ども一人の気づきで終わらずには、給食や給食の半で学びを深めている姿を大切にしています。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の活用】

子どもの様子、写真に幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を当てはめる事で、子ども達が学んでいる、経験している事を小学校の先生にも分かりやすく!

【子どもの姿】

- ・どのような経緯で野菜を植える事になったのか
- ・育てていく中での気付きや言葉
- ・収穫後の取り組み(調理して食べる、図書館で調べるなど)

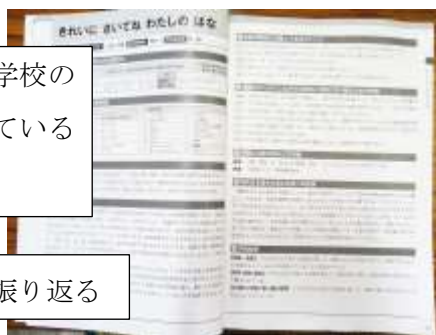
ドキュメンテーションを読んだ教諭の感想

- ・このような資料を見させていただくとどのように1年生で引き継いでいけばよいのかがよく分かります。こども園での活動の中で育ってきている姿を小学校では、どの教材、どの教育活動でさらに伸ばしていくのか考えていきたいと感じました。活動した時の子ども達の反応や言葉などカードなどで小学校に少し持ち上がってくることができたら、それを使って学習を重ねていけそうです。(可能ならば・・・ですが)
- ・幼児期の体験活動のすばらしさを感じます。活動を通しての子ども達の気付きや育った姿を生かせるようにまた連携させて下さい。資料提供もありがとうございます。
- ・野菜の栽培からでなく、土作りから始まり、食育、調べ学習、観察、種取り、また栽培とずっと繋がっていて素晴らしい活動だと思いました。
- ・更に広げるとしたら、今回選ばれなかった野菜についても調べたり(来年への意識づけ)、秋以降に育つ野菜について計画してみたり(季節によって栽培できる野菜の違いを知る)のもよいのではないかと思います。

小学校の指導書と照らし合わせてみると・・・

園の活動と小学校の活動は繋がっている部分がある。

育てた植物を振り返る



小学校1年生の教師用指導書

自分達で世話をする。

成長の様子や変化に気付く。



小学校2年生の教師用指導書



「きれいにさいてね わたしのはな」

学校での活動は・・・(教師用指導書「せいかつ(上)」からの抜粋)

◆単元の目標

アサガオなどの植物を育てる活動を通して、植物が育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、育てる植物に合った世話の仕方や、植物が自分と同じように生命をもっていることや成長していることに気付き、植物への親しみをもち、大切にできるようにする。

(5) 考察

園での活動から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を知ってもらうため、園で制作しているドキュメンテーションを小学校に届け、教諭に回覧等してもらうことで、園での学びの基となる活動の姿や成長の相互理解に繋がっていくのではないだろうか。

(6) まとめ

- ・越知町では毎年、園小中の公開保育や授業に互いの教諭が参観し合っているが、なかなか協議にまで参加することが難しかった。しかし今年度、午後からの研究協議に小学校教諭2名が参加していただけたことにより、園の子ども達の見取り方や気付きを協議の中で共有することができた。また、植物の栽培について園と小学校の生活科での様子を伝えあうこともでき、子ども達への理解が深まった。今後も引き続き、できる限り保育の場面を参観してもらい、引継ぎをよりスムーズに行えるようにしていきたい。



- ・今回は、栽培活動だったが、それ以外にも交流授業などを通じていろいろな活動を伝えあう場や情報交換ができる場を持てるように継続していく。話し合いの回数や時間を増やすことは難しいが、打ち合わせや振り返りの時間などを利用して、日々の活動や保育のねらい等も知ってもらい、相互理解ができることを増やしていきたい。
- ・年長が小学校に園での取り組みを伝える方法として、ドキュメンテーションを利用した。一歩踏み込んだアプローチをした事で、意見やアドバイスをもらったり、園の取り組みにプラスしたりして双方からの応答ができた。今後も仕事量を増やすのではなく、普段作っている物を利用し言葉の情報交換だけでなく互いが分かり合えるよう、ドキュメンテーションを活用していきたい。この研究では相互の理解について探っていった。これを機に園側が小学校の理解に努め町単位での統一した教育方針で子ども達が育っていけるよう目指していきたい。



3. 研究への取り組み（令和6年度ブロック別研修）

（1）研究にあたって（研修目標の設定理由）

- ・子ども達は元気で活発な姿はあるが、友達との関わりの中で、自分の思いを言葉で伝えることが苦手だったり、人の話を聞けなかったりするため相手の思いが分からずに、問題にぶつかっても解決できない子どもが増えたように感じる。
- ・遊びには興味があるものの遊び込めず、すぐにやめてしまったり、また自信がなく友達に自分の思いを発信できずにいたりする姿がある。



自分の興味・関心をもって、友達と関わりながら色々な経験をする中で共有・共感できる体験を重ねたい。また、保育者や仲間に認められることで自信をもって発信する力をつけてほしい。

（2）研究の取り組み

4月…子どもの姿から良さや課題を考案	10月…2歳児園内研修と協議
5月…今年度の研修目標の設定	11月…3・4・5歳児クラス公開保育と協議
年間計画の作成、親育ち支援研修	12月…1年間の振り返り（研修目標に基づいた成果と課題の振り返り）
6月…5歳児園内研修と協議	
7月…3歳児園内研修と協議	2月…13ブロック交流会への参加
9月…1歳児園内研修と協議	

（3）研究内容と子どもの姿の変容

《3歳児》子どもの姿を受けて（環境構成と援助）

- ・保育者間でクラスの子どもの様子を伝え合った際に、ストローを重ねて使っていることを聞き、太さの違うストローを数種類用意した。
- ・忍者ごっこで作った敵を、初めは床に置いて倒していたが、高さを出すために台を置いたり、忍者屋敷のような家を作ったりして倒すスペースを用意した。
- ・アイス、ケーキ屋さんの前に机を用意し友達と一緒に作れる十分なスペースの確保をした。
- ・子ども達の作った物を認め、作る過程（使う素材、子どものアイデアなど）も知らせて、友達の作った物にも気付けるように関わった。

子どもの変容



- ・忍者ごっこで大小のストローを組み合わせて吹き矢を試し、やってみる姿があった。
- ・自分で敵を作って遊びたいという気持ちに変わっていった。
- ・友達が作ったアイスやケーキを保育者や友達と食べ、一緒に楽しむ姿に繋がった。
- ・“私も（僕も）作ってみる！”という気持ちにつながり真似して試してみたり、自分なりの工夫を取り入れたりしながら作るようになった。

《4歳児》子どもの姿を受けて（環境構成と援助）

- ・子どもがピザのトッピングをイメージしやすいよう、ケント紙や和紙を色別に分けて設置した。
- ・作ったピザをレンジで焼こうとする姿があったため、窯を作った。
- ・自然物（どんぐり・松ぼっくり・数珠玉）を使いやすいように種類に分けて置いた。
- ・廃材を素材別に分けて見やすいように設置した。
- ・順番を待たないと座れない事があったため、製作コーナーの場所を広げた。

子どもの変容



- ・町内散策で体験したピザ作り体験を振り返り思い出しながら、具材に見立てた素材や秋の自然物をトッピングしたり出来上がったピザを焼いたり、ピザパドルを作ったりして、お店屋さんやレストランごっこ遊びが深まっていった。
- ・友達とイメージを共有しながら遊ぶ姿が多く見られるようになった。
- ・作りたい物が形になる喜びを共に感じることができ、それを見た他児にも興味が広がった。

《5歳児》子どもの姿を受けて（環境構成と援助）

- ・「お店屋さんには看板がある」と看板作りが始まり、子ども達同士で店の名前や飾りたい物を決めた。
- ・友達とイメージを共有できるように話し合う場を作った。
- ・子ども達のイメージが広がるように声をかけ、必要な物（キラキラの紐・キャラクターを描いた紙等）を用意した。
- ・友達同士で一緒に書いたり作ったりできるように大きめの画用紙を用意し、スペースを作った。

子どもの変容



- ・好きなキャラクターを決めることで共通のイメージがもてたり、同じ場で一緒に書くなどの友達との関わりを楽しんだりする姿があった。
- ・文字を書く、飾りをつけるなど個々で行うことも多かったが、自分の得意なことを生かし同じ目的に向かい看板作りが出来た。
- ・作った物を認め周りにも伝えることで自信になり、方法を伝えることで、最後まで自分でやってみようとする姿に変わった。

- 前日の姿
- ・連日の雨で園庭で遊ばず、室内遊びが続いたため、体を動かして遊びたい子どもが多かった。
 - ・忍者がやっつける悪者を、段ボールや画用紙、毛糸などを切って段ボールに貼って作り、忍者になって手裏剣を投げたりストローで吹き矢を作って遊んだりしていた。
 - ・段ボールを丸めたケーキに飾り付けをすることを楽しんで作り、友達に食べてもらっていた。
 - ・自分の好きな役になってままごとをしたり、お弁当を作っておでかけをしたりしていた。

本日のねらい（◎）と内容（・）

◎身の回りのことを自分でやってみようとする。

- ・遊んだ後の片付けや手足の汚れに自分で気付いて着替えたり、きれいにしようしたりする。

◎色々な素材に触れ、好きな物を作る楽しさを味わう。

- ・画用紙やシールなどの身近な素材に触れ、切ったり貼ったり、試してみたりする。
- ・保育者や友達と、自分で作ったものを使って遊ぶ。

◎保育者や友達と一緒に遊んだり、関わったりしながら好きな遊びを楽しむ。

- ・保育者や友達と一緒に、しっぽ取りなどで体を動かしながら簡単なルールのある遊びをする。

- ・保育者や友達と、土や泥、水に触れる中で自分のやってみたいことを試したり、思い思いの物を作って遊んだりする。

生活の流れ

8：30

登園
好きな遊びをする

- ・保育者や友達と挨拶をする。
- ・持ち物の始末を自分でしようとする。
- ◆一人一人と挨拶を交わしながら、健康状態の把握をする。
- ◆自分で荷物の始末をやろうとする姿を見守りながら認めたり出来ないところは一緒にやったりする。

9：00

好きな遊び
・しっぽ取り
・製作遊び
・砂、泥遊び
・ままごと 等

- ・保育者や友達と一緒に好きな遊びをする。
- ★必要な遊具や用具を自由に使えるように用意しておく。

11：00

片付け・昼食の準備

- ・保育者や友達と一緒に片付ける。
- ◆子ども達が片付けをしている姿を認め、褒めながら保育者も一緒に片付ける。
- ◆また明日も遊びたい、という気持ちで片付けができるように言葉をかける。

11:20 給食

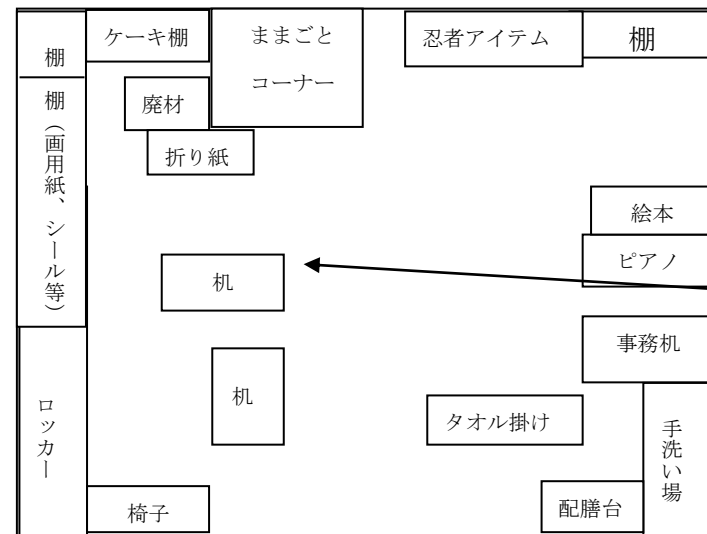
12:50 午睡

14:30 起床

15:15 おやつ

16:00 降園

3歳児 りす組 11月29日（金）



（室内）

保育者や友達と一緒に遊ぼう

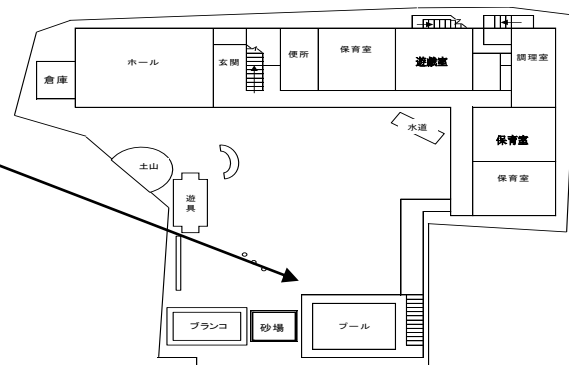
- ・土をすくってざるに入れてさら粉を自分で作ろうとしたり、保育者と作ったりする。
- ・コップやお椀に土と水を入れて混ぜ、飲み物に見立てて保育者に飲んでもらうのが嬉しい。
- ・土と水を混ぜて泥を作り、感触を楽しんだり、丸めたり工夫して遊ぶ。
- ・友達と遊ぶ中で自分と 생각이違う時に、自分の思いを通そうとしていざこざが起こる。
- ・保育者や友達と一緒に鬼ごっこやしっぽ取りをする中で、逃げたり鬼になって追いかけたりすることも面白い。
- ・自分の好きな役になって友達と一緒にごっこ遊びをする。
- ◆一人一人の楽しんでいる様子や感じていること、気付きに共感したり、その場で一緒に作ったりしてじっくり遊べるようにする。
- ◆友達の遊びに興味をもっている様子を受け止め、保育者が誘ったり、一緒に「いれて」と言ったりしながら、遊びに入るきっかけを作っていく。
- ◆思いが衝突した時には保育者が仲立ちとなり、互いの気持ちに寄り添い、相手の気持ちに気付けるようにそれぞれの気持ちを代弁しながら丁寧に関わっていく。
- ◆相手に思いが伝わらず困っている時には保育者が仲立ちをして、伝え方（言葉）を知らせたり相手が気付くように働きかけたりして上手く伝えられるようにする。
- ◆友達と一緒に遊ぶ楽しさが感じられるよう、友達の様子を知らせたり一緒に遊んだりする。
- ◆安全に配慮しながら子ども達が体を動かして遊べるようルールを確認していく。
- ◆友達とイメージを共有しながらごっこ遊びを楽しめるように言葉のかけ方を工夫し、保育者も一緒になって遊ぶ。
- ★ざる、お皿、コップ、スプーンなど道具を自分で選んで遊べるように、準備しておく。
- ★水を使えるように、タライに溜めておく。
- ★明日もまた遊べるように、出来上がった物を置く場所を用意しておく。

・幼児の姿 ◆保育者の援助 ★環境構成

作って遊んで楽しもう

- ・身近な素材や道具を試してみようとする。
- ・保育者や友達が自分と異なる素材や道具を使っていることにも関心をもち、自分でも試したり使ったりしてみようとする。
- ・冠やブレスレット、忍者アイテムやケーキなど、自分の作りたい物を形にすることを楽しむ。
- ・はさみやテープ、ボンドなど、用具の使い方のルールに気を付けながら使おうとする。
- ・ダンボールを丸めてケーキを作ったり、友達に食べてもらったりすることが嬉しい。
- ◆自分なりに作っている様子を見守りつつ、援助が必要な場面ではさりげなく手伝うようにする。
- ◆子ども達の「出来た！」の声に反応して作った物を認めたり、使っている素材、友達の作った物にも気付けるように声を掛けたりしていく。
- ◆子ども達の自分で作りたい気持ちを大切にしながら、難しい部分は保育者が一緒に作り、やり方を伝えていく。
- ◆保育者も一緒に作る中で、一人一人の気付いたことを言葉にしたり、友達のしていることを知らせたりしながら、同じ場で遊んでいる子ども達の関わりがもてるようにする。
- ◆必要な材料や用具を提案したり、アイデアを出したりしながら子どものやってみたいこと、試したいことを形に出来るようにしていく。
- ◆道具の取り扱いや思いのすれ違いで言い合いになった時は、子ども一人一人の思いを受け止め、保育者が互いの気持ちを聞き、言葉で伝えられるように援助する。
- ◆椅子に座ってハサミを使うこと、ボンドの使い方等の約束事や用具の使い方も知らせていく。
- ★子どもがイメージしやすいように様々な素材で大きさや形の違う物を用意し、（画用紙、シール、ペン、テープなど）じっくりと作ることができるスペースを確保しておく。
- ★広告紙や不織布など、子ども達が扱いやすい大きさにしたり、選ぶことができるように種類を構えたりして、分かりやすいところに出しておく。

（園庭）

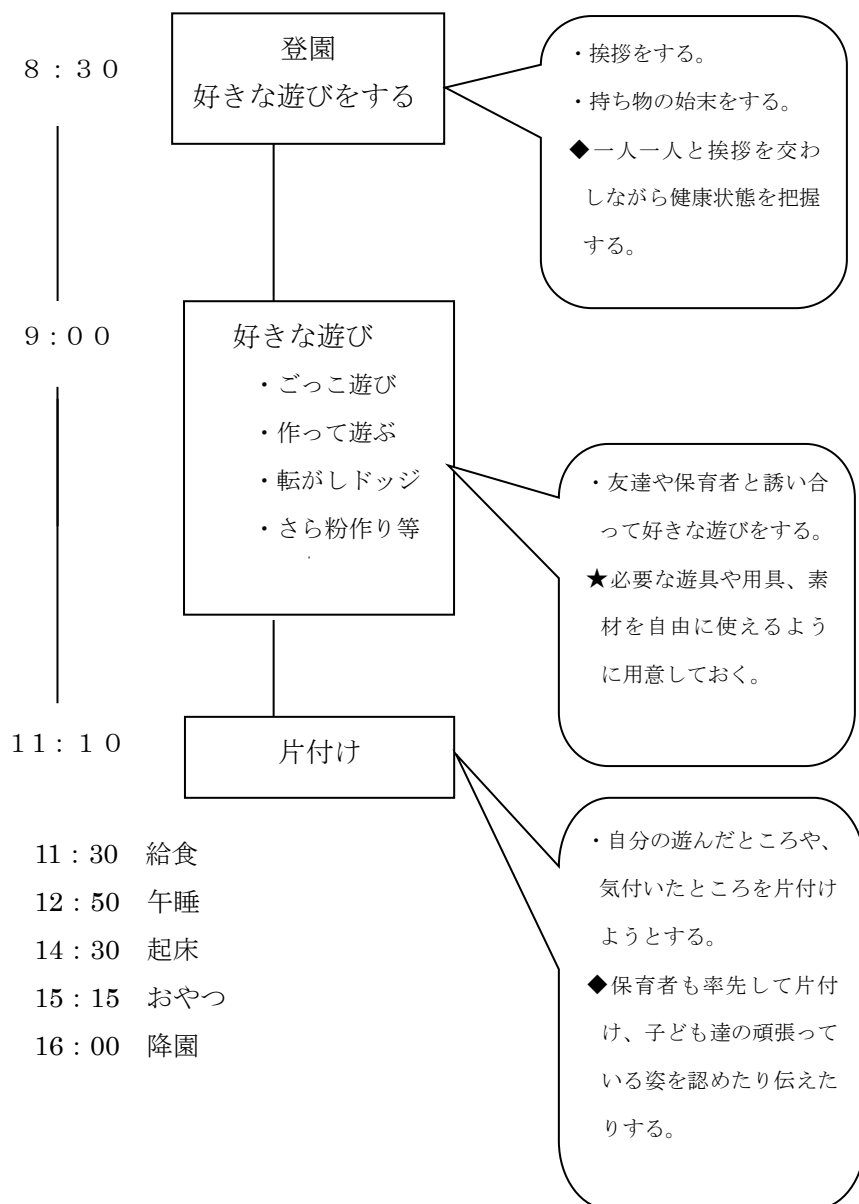


- 前日の姿
- ・絵本や図鑑を見て作りたい動物のイメージを友達や保育者に話しながら、廃材を使って作っていた。
 - ・作ったピザを、釜で焼く為にピザパドルを作ったり「ピザいりませんか？」とピザ屋さんごっこを楽しむ姿があった。
 - ・数珠玉でネックレスやカチューシャを作り、出来た物を身につけてごっこ遊びを楽しんでいた。

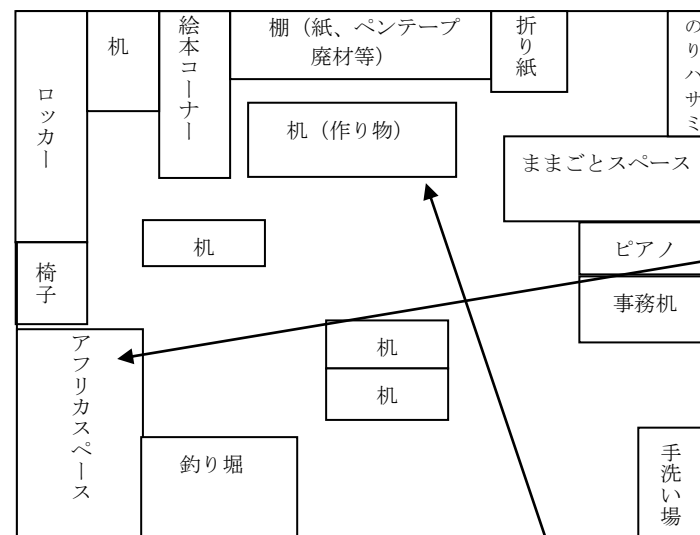
本日のねらい（◎）と内容（・）

- ◎身近な素材や秋の自然物を使ってイメージした物を作り、表現することを楽しむ。
- ・お店屋さんごっこの物作りを楽しむ
- ◎友達や保育者と関わりが深められるよう、一緒に物作りや簡単なルールのある遊びをする。
- ・気の合う友達と誘い合って転がしドッジをしたり、さら粉作りや遊具で遊んだりする。
 - ・自分の思いや考えを相手に分かるように伝えたり、友達の思いを聞こうとしたりする。

生活の流れ



4 歳児 いるか組 1 1 月 2 9 日 (室内)



～友達と一緒に～

- ・友達と一緒にお店屋さんごっこの品物作りを楽しむ。(剣巻き、ピザ、ケーキ、カチューシャ、ネックレス、魚、動物等)
- ・自分が見た物や、調べた物を思い出しながら作る。
- ・出来た物を身につけたり、飾ったりして見せ合う。
- ・友達と動物や品物を作ることが楽しい。
- ・友達のしている遊びを自分の遊びに取り入れて楽しむ。
- ・友達と教え合いながら作ることを楽しむ。
- ・自分で作ることが出来ない子もいる。
- ・物の貸し借りやイメージしている物が違うことで、言い合いになる。
- ・友達と一緒にさら粉作りや泥団子作りを楽しむ。
- ・友達と一緒にルールのある遊びを楽しむ(転がしドッジ、かくれんぼ)
- ◆保育者も作る物のイメージが膨らむように友達がしていることを伝えたり、一緒に作ったりしながら遊びを楽しみ、必要に応じて言葉掛けをしていく。
- ◆友達と関わりながら遊ぶ姿を見守り、その姿を認め、保育者も一緒に楽しむ。
- ◆相手に思いが伝わらず困っている時には、自分の思いや考えを言葉で伝えられるよう保育者が仲立ちをし、援助する。
- ◆泥団子や、さら粉作りを友達と一緒に試したり、上手く作れるように教え合ったりしながら、保育者も一緒に楽しむ。
- ◆遊び方やルールに思い違いがあった場合には、子どもの思いを受け止め、どのようにしたら楽しく遊べるか話し合っ解決できるようにする。
- ★素材の種類や大きさごとに廃材を置いて想像しやすいようにしておく。(空き箱や、トイレットペーパーの芯や容器等)
- ★必要な材料を用意する。(ふるい、ボウル、スプーン、入れ物等)
- ★自分の物が分かるように名前を書いた入れ物を用意しておく。

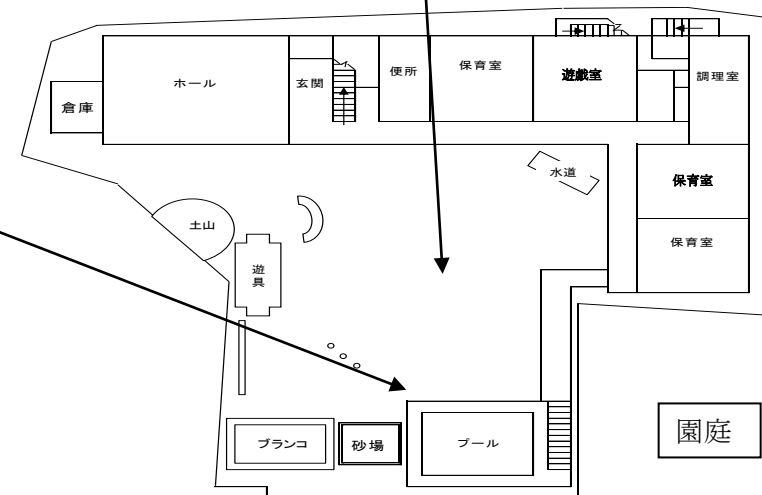
- ・幼児の姿 ◆保育者の援助 ★環境構成

～物作りを楽しもう～

- ・剣巻きを保育者や友達に教えてもらいながら作る。
- ・町内散策で体験したピザ作りを思い出しながらピザを作る。
- ・数珠玉とストローを使ってアクセサリーを作る。
- ・廃材を使って自分のイメージした物を作る。
- ・友達が作っているのを見て真似をしたり、作り方を教えてもらったりして作る。
- ◆子ども達が取り組んでいる姿や、工夫したところを認めていきながらイメージが膨らんでいくようにする。
- ◆自分の作りたい物を上手く作れない子どもには出来ない所を手伝ったり、アドバイスをしたりする。
- ◆アイデアを伝えたり、気付きを共有したりしながら友達と繰り返し楽しむ姿を見守る。
- ◆色々な素材を使い、楽しんで作る姿を見守る。
- ◆周囲の子の作った物を見ることで興味を広げ、作った作品を使って遊んだり大事にしたりする気持ちを認める。
- ◆子ども達が作った物を認め、褒めて自信に繋げていく。
- ★それぞれの遊びが混ざらないように、場の環境を整える。
- ★子どものイメージが表現しやすいように様々な大きさや形の素材を用意し、じっくり作事ができるスペースを確保しておく。
- ★子ども達の表現や工夫を認め、興味をもっている子どもが仲間に入れるように、遊具や用具の数、種類を見直して環境の再構成をする。

～体を動かそう～

- ・戸外で友達とかくれんぼや、転がしドッジ等の簡単なルールのある遊びを楽しむ。
- ・友達と鬼ごっこをして走ることを楽しむ。
- ◆保育者も遊びに入りながら、楽しく遊べるような雰囲気作りをしていく。
- ◆子どもから出てくる言葉を取り上げ、子どもの意見を尊重し、一緒に遊びが進められるようにしていく。
- ★安全に遊べるように周りに危険な物はないか園庭の環境を確認しておく。



前日の姿

- ・友達と一緒にひらがなや絵などを描いて、お店屋さんごっこの看板作りをしていた。
- ・友達と一緒にどんぐり転がし台に釘を打ったり、当たりの場所を決めたりしてどんぐりやビー玉を転がして遊んでいた。
- ・広告紙の紙を丸めてカップケーキを作り、ボンドを使って自然物をトッピングする子や、レストランに食べ物を注文して友達と一緒にごっこ遊びを楽しんでいた。

本日のねらい（◎）と内容（・）

◎共通の目的に向かって、友達と一緒に考えたり、工夫したり、遊ぶ楽しさを味わったりする。

- ・友達と一緒にお店屋さんごっこの商品や看板作りをする。
- ・ルールを確認したり、パスをしたりしながらドッジボールをする。

◎秋の身近な自然に親しみ、遊びに生かす。

- ・友達と一緒にどんぐり転がしを作ったり、自然物を使い食べ物にトッピングをしたりする。

生活の流れ

8：30

登園

好きな遊びをする

9：00

好きな遊び

- ・ごっこ遊び
- ・お店屋さんごっこ
- ・ドッジボール
- ・泥団子作り

11：10

片付け

11：30 給食

12：50 午睡

14：30 起床

15：15 おやつ

16：00 降園

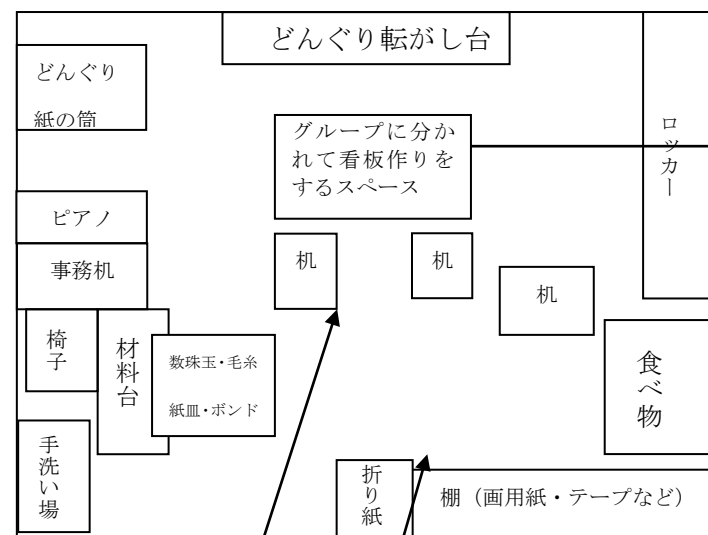
- ・挨拶をする。
- ・持ち物の始末をする。
- ◆ホワイトボードに今日の予定を掲示しておき、子ども達が見て、確認できるようにする。

- ・友達と誘い合って好きな遊びをする。
- ◆昨日までの遊びの続きができるような環境を整えておく。

- ・自分の遊んだところや、気付いたところを片付けようとする。
- ★事前に片付けの時間を知らせておく。

5歳児 きりん組 11月29日（金）

（室内）



～お店屋さんごっこに必要な物を作ろう～

- ・自分のイメージした物や必要な材料を選び、お店屋さんの商品を本物らしく作ることが楽しい。
- ・友達と字を教え合ったり見せ合ったりしながら、お店屋さんの看板作りや飾り付けをする。
- ・レストランやマクドナルドごっこ遊びの物作りなど、友達と一緒に表現することを楽しむ。
- ・友達と意思の食い違いや言葉が足りないことでいざこざになる。
- ◆子ども達が作りたい物を選んで作れるように用具や材料を用意しておく。（ボンド・大きさの違う画用紙・セロテープ・キラキラ紐）
- ★それぞれの遊びの場が保てるように位置を考え、作った物で遊びの続きができるようにスペースを確保する。
- ★机にシートを敷いたり、お店の雰囲気を出したり、ごっこ遊びができるように環境を作る。

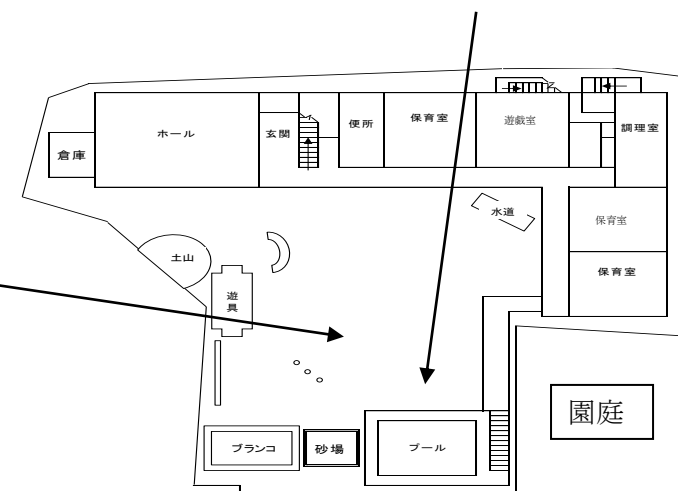
～体を動かして遊ぼう～

- ・友達を誘い、人数やメンバーの組み合わせを考えてドッジボールをする。
- ・友達や先生を狙ってボールを投げたり、逃げたり、パスすることを楽しむ。
- ・負けたくない気持ちから自分の有利な判定をしたり、友達といざこざになったりする。
- ◆いざこざが起こった時には、自分の思いを伝えようとする姿を見守ったり、言葉を足したり、周りの子にも意見を聞きながら声掛けをする。
- ◆悔しい気持ちに共感しながらも、「大丈夫、当てて中に入れるよ」と励まし気持ちの切り替えができるようにする。
- ◆他のクラスとも連携をとり、園庭でルールのある遊びを安全に楽しめるようにする。
- ★自分達でラインを引いて遊びを始められるように、すぐ取り出せる所にライン引きを用意し、ボールなども使いやすいうように準備しておく。

・幼児の姿 ◆保育者の援助 ★環境構成

～自然物を使って遊ぼう～

- ・どんぐり転がしをどうやって作るか考え、一緒に作ろうとする。
- ・ゴールの場所を決めたり、釘を打ったりすることが面白い。
- ・どんぐり転がしなどでできたもので友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
- ・泥を使いどんぐりをのせたクッキーや泥団子を作ることが面白い。
- ・友達と材料になるものを探し、イメージしていることを伝え合いながら作って遊ぶ。
- ・互いのしたいことを伝え合い、折り合いをつけながら遊びを進めていこうとする。
- ・遊びに必要なルールや決まりを友達と話し合って作り、一緒に楽しむ。
- ・うまくいかず諦めそうになったり、雑になったりする子どももいる。
- ・牛乳パックで作ったケーキに、どんぐりや自然物をトッピングすることが面白い。
- ◆同じ場で友達と会話を楽しみながら製作する姿を認め、友達同士を繋いでいく。
- ◆必要な材料や用具を保育者も一緒に考え、アイデアを出し合いながら子どもの思いが実現できるようにしていく。
- ◆友達のしている遊びに刺激を受け、自分の遊びに取り入れたり、試したり工夫したりして遊ぶ。
- ◆相手に思いが伝わらず困っている時には、保育者が仲立ちをし、気持ちの整理をしながら言葉で伝えられるようにする。
- ◆友達の意見に流されたり、伝えることが苦手な子どもも自分の思いを出せるよう、保育者があえて「どうしたいか」を聞いて、自分の思いを言葉にすることや、友達に思いを聞いてもらう経験ができるようにする。
- ★自然物に興味をもてるように、絵本を置いたり、写真を貼っておくなど環境作りをする。
- ★友達と遊びの場を作れるように自然物（どんぐりや葉っぱ、千日紅など）や大きめの段ボール、クギ、かなづち（石）などを用意しておく。
- ★大きなタライにサラ粉を集めておいたり、友達同士で話をしたり関わりがもてるように準備しておく。



（４）公開保育を行って

- ・子どもの遊ぶ姿から「何を楽しんでいるのか」を掘り下げ保育を見てもらうことで、自分では気付けない子ども達の様子や、保育者の援助がどのように子ども達に響いているのかを知ることができ、各年齢での大切にしたい育ちや一人一人の内面を丁寧に考える機会となった。
- ・楽しんでいること（場面）をもとに、各領域のねらい及び内容にあてはめて考えることで、今したいと思っていることや興味をもちそうな遊びを考えることができ、日々の環境設定を深めていくことが出来た。
- ・教材においても色々なクラスの園内研修を見たことで、年齢に合った教材の大切さや子どもに必要な遊び場・材料等、環境構成の大切さを子ども達の姿から考えて用意することができた。

（５）保育者の意識や保育実践の変容

- ・研修を重ねたことで、各クラスの様子や担任の思いや願いが分かり、取り組みへの士気が上がった。また、他の保育者や各学年の環境構成を見ることで参考になったり、素材選びの引き出しが増えたりして、子ども達一人一人に対しては、深く楽しんでいることや友達関係などを理解することが出来るようになった。
- ・子どもを見るポイント（事実・表情・言葉・視線）に注目し、内面を推し量りながら、子どもの姿を言葉にして共感するとともに、保育者も一緒に遊びを楽しみ一人一人の思いを受け止めていく言葉かけを大事にするようになった。
- ・子ども達の興味・関心を探りながら一緒に遊ぶ中で自由に選択して遊べるよう環境を整えたことで、好きな物を作ったりそれを使って遊んだりする姿が見られ、子どもが遊び込めて遊びが広がる大切さが分かったので、環境構成の工夫を行った。
- ・保育者同士の連携（協力・話し合い・共有）が、子ども達の遊びや育ちにおいて改めて大切だと感じ、意識するようになった。
- ・無理な目標設定をせず、子どもの姿や発達に応じた具体的な環境や関わり方が大切だということが分かり、さらに子どもをしっかり見ていくようになった。



(6) 課題と要因

- | | |
|--|--|
| ・ 子どものしたい遊びと保育者が経験させたいことの不一致やバランス、遊びの広がり | ⇒ ・ 子どもが興味をもつことや生活経験の違い
・ 保育者の思いが先行し見通しをもつ難しさ |
| ・ 満足して遊び込めるような言葉がけ
(心が満たされない子どもの姿) | ⇒ ・ 保育者が子どものイメージしている事や求めていることを感じ取る難しさと、言葉で表現する力の弱さ |
| ・ 遊びの変化に応じた臨機応変な環境の再構成
(必要に合わせた材料の用意や友達と一緒に
する場作り) | ⇒ ・ 環境構成の考案不足で、子どものイメージに近い素材準備の対応が遅れ、意欲のタイミングを逃す |
| ・ 子ども自身の認められる経験が少ない
心が不安定で素直に受け止められず、友達
にも向きにくい | ⇒ ・ 色々な事を体験する場や、安心感や満足感が得られるような経験が少ない |

(7) 来年度に向けて

① 子どもの姿から、さらに伸ばしていきたい力

- ・ 年齢や発達に合わせて環境を整える中で、自分のしたい遊びを十分に楽しみながら考えたり工夫したりして、満足するまでじっくり遊べるようになる。
- ・ 興味や関心のある遊びを通して友達との関わりを深めながら、共有・共感できる体験を重ねていく。
- ・ 自分の思いを言葉で伝えたり、相手の思いを聞いて受け入れたりしながら、認め合える友達関係を築いていく。
- ・ 安心できる保育者との信頼関係により、子どもの興味があることや好きなことから成功体験を積み重ね、自信をもったり自尊感情を味わったりしていく。

② 研修体制・保育実践・保育の質に関すること

- ・ 園全体でなくても部署や担当、乳児組や幼児組など意見の出しやすい環境を設定し、一人一人の興味関心の理解や各年齢でどのようなことを経験させたいか、教材や子どもの見取り方などの共通認識を目指す。
- ・ 子ども達の興味を記録し見直していくことで、自ら試したり考えて楽しく学んだりしていけるような意図的な環境作りをし、遊びが広がっていくようにする。また、子どもと一緒に思い切り遊びながら楽しさを共有し、友達の良さに気付きながら互いに認め合える関係を築くことができるような、保育者の援助や環境構成を考えていく。
- ・ 他園の公開保育などで子どもへの声の掛け方や環境構成、協議のまとめ方などを、参考にしたり取り入れたりして、学ぶ機会を多くもつようにする。

4. 今年度の取り組み

(1) A L T 訪問 (4・5 歳児組)

以前から5歳児が取り組んできたA L T 訪問だが、今年度から4歳児にも導入。色や動物などの名詞を学んだり、歌付きの手遊びを教えてもらったり、クリスマスなどの季節のイベントも取り入れながら、時間の短縮と分かり易い内容を取り扱うことで、4歳児なりに楽しんで取り組むことができ、5歳児へと繋げていく初めの一步となった。



(2) バス散歩 (3・4・5 歳児組)

保育園が認定こども園となり、幼稚園施設が子育て支援センターとして利用されるようになったことから、支援センターの活用方法の一つとして幼児組が年6回程度バスで遊びに行っている。天候や感染症などで取り止めることもあるが、広々とした場所で目新しい遊具を楽しむ姿があり、子ども達にプラスになっているのを感じている。今後も可能な範囲で子育て支援センターを活用していきたい。



(3) 園の研修 (中山先生・久我先生)

これまでも保育園・幼稚園共に様々な研修に取り組んできたが、I T 社会となってきた今、非認知能力の研修に加え今年度からドキュメンテーションについても中山先生の研修を受け、多忙な保護者に対して日々の子どもの姿や自分達の取り組んできたことを、いかに分かり易く伝えていくかということを考えながら取り組んできた。

また、ここ数年課題となっている愛着や親子関係についての久我先生の研修では、若手が重点的に学ぶ機会となった。子どもの行動からだけではなく、難しい家庭や親子関係などの背景を考えながら見取することで、子どもの抱えている問題や課題が分かり、適切な援助に繋がっている。



4. 行事の様子（こども園となって）



総合避難訓練



あゆの放流



運動会



交通安全教室



防火パレード



越知町福祉大会



秋のえんそく



ピザ作り体験



芋ほり



越知町文化祭

5. おわりに

昨年度まで越知町内には保育園と幼稚園があり、それぞれの機能と役割を果たしながら子ども達を見守ってきたが、今年度4月から2園が統合し、町内で唯一の就学前教育施設としての認定こども園おちの子となった。こども園となったことで保育教育が一体となり、職員の学ぶ機会も増えた。またこども園移行を機に、幼児組では副担任制が導入された。この一年は、職員同士の立ち位置や仕事の割り振りなど試行錯誤しながら、主担任・副担任・支援保育者の中で、子どもたちの保育教育にあたってきた。

今年度の取り組みの中で大きかったものとして、「幼児教育研究協議会」と「ブロック別研修会」があった。共に園の子どもの姿から、現状を見直し課題を見つけ、職員間で要因や今後に向けての取り組みを考えていった。行事も多く日々多忙な中での研究や協議には難しい部分もあったが、子どもの姿をじっくり見取り考察していくことで、見えていなかった子どもの内面や本質を捉え直すことができ、保育者としての見る目を養うことができた。

園では第三保育期となり、来年度への準備も始まっているが、年々出生数が減り入園希望者も減少していく傾向である。だからこそ、保護者が安心して働くことができる環境作りを心掛けていくと共に、町内唯一のこども園として、子ども一人一人が保育者や友達との色々な体験を通して、嬉しさや楽しさ、悔しさやもどかしさなどを沢山経験し、心豊かに伸び伸びと育っていくことができるよう取り組んでいきたい。また、相談しあえる保育者同士の繋がりを大切にし、子どもをしっかり見取りながら、職員間で話し合う時間を確保し、保育教育の更なる向上を目指していきたい。



越 知 小 学 校

研 究 同 人

校 長	矢野 有茶	養護教諭	森 雪菜
教 頭	改田 騎隆	栄養教諭	須内 瑠璃
教 諭	隅田 澄子	主 幹	清遠 幹子
教 諭	内山 菜摘	学習支援員	上田 久美子
教 諭	池本 玲奈	学習支援員	西川 裕文
教 諭	柿内 創	特別教育支援員	山崎 英代
教 諭	井口 健太郎	特別教育支援員	岡林 翠
教 諭	上地 平真	特別教育支援員	山田 紀子
教 諭	高橋 晴香	特別教育支援員	鎌倉 知佐
教 諭	三浦 光津美	特別教育支援員	謝花 千賀江
教 諭	村山 あかり	特別教育支援員	山下 美智
教 諭	小川 沙也加	図書館支援員	福永 光
教 諭	堀野 真一	学校業務支援員	山下 浩
講 師	西村 友宏	ICT 支援員	高橋 秀幸
講 師	高橋 初枝	コミュニティスクール コーディネーター	門谷 美智子
講 師	谷中 豊	用務員	岡林 ゆみ

I 研究の概要

1. 研究主題

自ら学び、豊かに考える子どもを育む
～自立的・自律型の学習者の育成～

2. 研究主題設定の理由

(1) 今日的な教育課題から

現在、社会はコロナ禍をきっかけに、これまで以上のスピードで変化をしている。子どもを取り巻く環境も、その社会状況の中で揺らぎ、多様化している。愛情に枯渇している子ども、学力状況の課題から自信や肯定感を無くしている子ども、SNS や YouTube 等の普及や家庭環境の変化により、低学年からその影響が心配される子ども、コミュニケーションがうまくとれず孤独感を胸に秘めている子ども、個々の状況等をあげればきりが無い。このような社会状況や児童を取り巻く環境の変化により、学校もこれまでの学校では対応できない状況になってきている。(令和6年度学校経営方針より)

また、令和3年度の『「令和の日本型教育」の構築を目指して』の中でも、急激に変化する時代において教員の担うべき業務負担や子どもの多様化、学習意欲の低下などの影響から、これから子どもたちには、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要であると述べられており、必要な改革を躊躇なく進めることで、従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」を実現させることが求められている。

上記の教育課題から、自律的学習者・子ども協働者を目指すことで、全ての子どもの可能性を引き出し、自ら学び、豊かに考える子どもを育む。

(2) 昨年度までの研究から

本校では、平成25年度より高知県教育委員会の指定事業を受け、児童が主体的・対話的に学び合い確かな力を育むための実践研究を進化・発展させながら進めている。どの学年も児童自らが学習リーダーとして授業(学習)を進め、学校としての学びのスタイルを構築し、実践研究を進めている。また、一人一人がタブレットやノートなど自分の学びやすさに合った学習の方法を選択することができる機会を設けることで、個別最適な学びの実現を目指したり多様なグループ学習(協働的な学び)を生み出し学習活動を柔軟化させたりするなど、様々な取組を構築しているところである。

(3) 研究についての基本的な考え方

①「自ら学び、豊かに考える」子どもの姿 ～自立的・自律型学習者～

本校では、「自ら学び、豊かに考える姿」を以下のようにとらえる。

- ・自ら単元をデザインする姿（学習過程の選択）
- ・単元の見通しをもち、自ら学習課題を設定する姿
- ・自ら学習方法を選択する主体的な姿（インターネットや思考ツール等の選択）
- ・クラウドを効果的に活用しながら探求している姿（他者参照や共同・同時編集等）

(4) 研究仮説

クラウド等を活用し、自律型学習者を育成することで、児童が学ぶ楽しさを知り、個の力が伸びる。
「クラウド活用」とは、他者の考えを参照したり、共同・同時編集したりする。
「学習者主体」とは、学習者自ら学びを選択・決定し探求・課題解決を行っていく。

(5) 研究の視点

① 自律型学習者の育成のために

- ・目的に向かうための思考ツールの選択・活用
- ・クラウド機能を活用した「学習の整理・蓄積」「活動の共有」の工夫
- ・個別最適な学び「学習活動内での学習方法を選択できる場面の拡充」・単元計画の作成

◎学習リーダーの見直し・各学年に応じた役割【系統性】の精選（学習リーダー・自律型学習者の育成）

② 個別最適・協働的な学びの充実

- ・児童同士でやり取りする場面の充実→共同編集機能を活かした授業改善
- ・理解度等に合わせて課題に取り組む場面の充実→AIドリルを活用した習熟別の学習

(6) 学びの土台となる共通実践

①学習規律の定着のための共通実践事項

- ・授業づくり「これだけは」の全教員での共有
- ・「越知小学校の10カ条」の確認・毎月末のチェック
- ・児童セルフガイド「ま～・ナビ」を各取組のはじめに確認・活用

◎ノート展覧会での入賞ノートのクラウド上での蓄積＋入賞を逃した素晴らしいノートの蓄

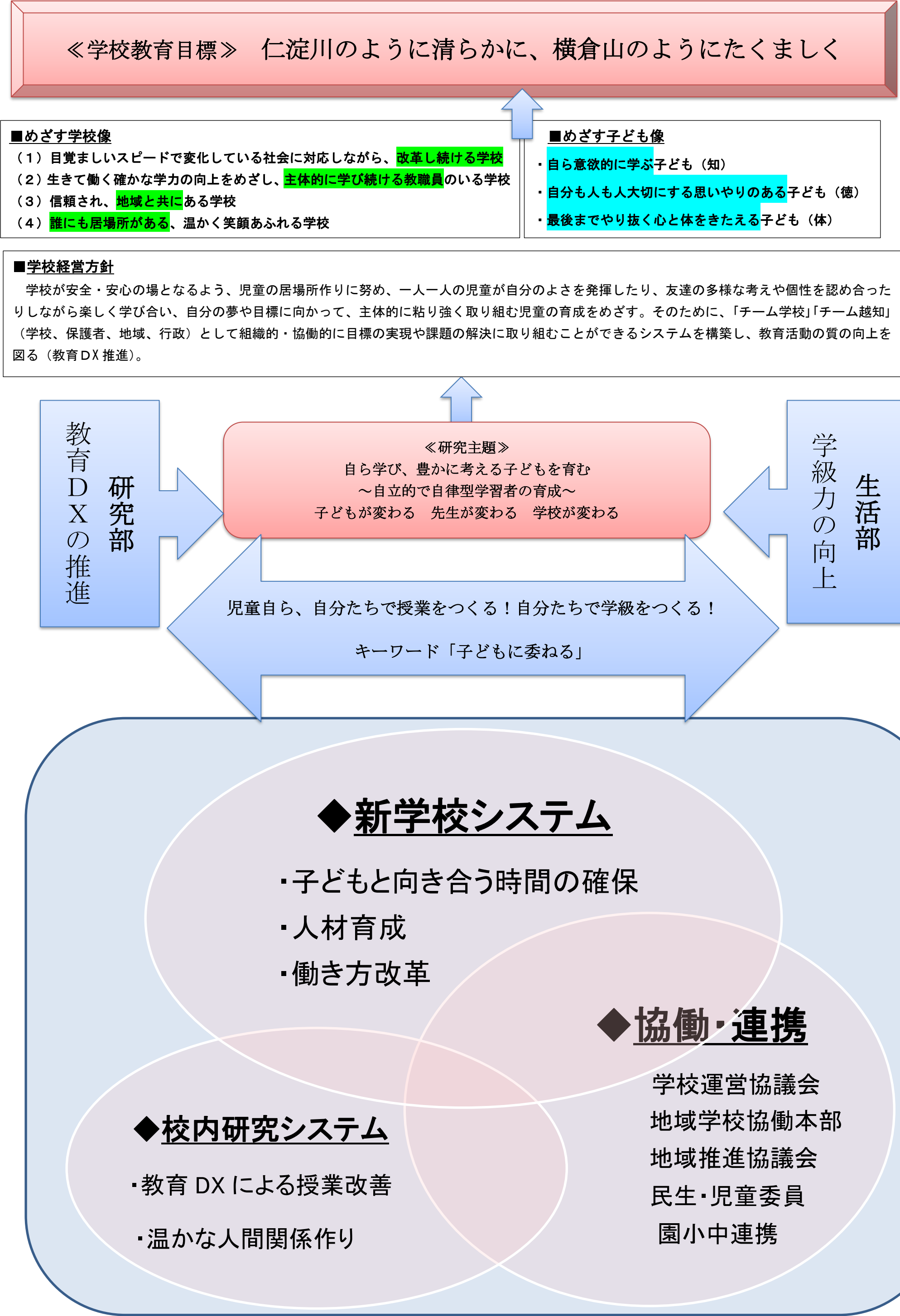
②基礎・基本のための取組

- ・横倉・横倉ふれあいタイム・チャレンジタイムなどの計画・確実な実施
- ・目標をもったおち漢字検定・漢字能力検定の計画的な実施
- ・おちドリル・これっきり図書などの計画的な実施と確認
- ・カラフルタイムを活用した基礎・基本の定着

- ・週に一度のミニテストの実施

③異学年交流での学び合い

- ・横倉ふれあいタイムで異学年同士の学び合いの実施
- ・学習ドリルアプリ「すらら」を活用した学習交流
(ホームワーク等で取り組んだ問題から友達に出題・解説等)
- ・学年間を越えた学び合いの環境づくり (道徳や体育・音楽での異学年学習)
- ・子ども授業参観のシステム化



Ⅱ-1 研究の概要（研究部）

1. 研究部の取組

（1）研究方法・研究内容

①教育 DX の推進	②育成指標 (系統表づくり)	③加力学習	④家庭学習	⑤主体的な活動
ア 授業づくり講座公開授業 (ア) 第5学年 (イ) 第6学年 (ウ) 講師招聘 (エ) 指導主事訪問 (オ) 指導案検討 (カ) 先進校視察	ア ICT 活用能力 イ 基礎的な力 ウ 学び方 エ ノートづくり	ア デジタルドリル (ア) すららドリル (イ) eライブラリー イ プリント (ア) これっきりプリント(越知小) (イ) 中部教育事務所作成プリント (ウ) MIM (エ) Peratto5・6年	ア 時間・内容 イ チェック週刊	ア 授業力向上委員会

①教育 DX の推進

ア 授業づくり講座公開授業【6月13日(木)】

(ア) 第5学年（算数科「小数のかけ算・わり算」）

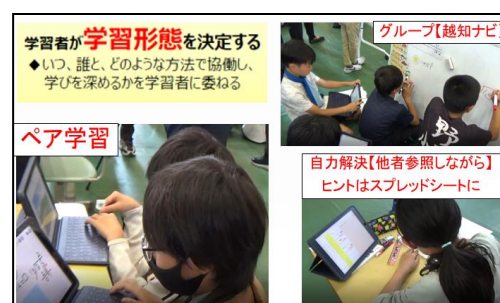
a 学びの履歴の蓄積：スプレッドシートの活用

まず、学習形態を児童に決定させるために、自由にではなく選択できる場面をスプレッドシートに設定した。【自力解決】【ペア】【グループ】など本時の学びに対して、どの方法が一番自分に最適かを選ぶ項目を下記の赤枠の中に設けた。学習の中で、授業者は児童の思考をタブレットで把握しながら机間指導することで、特に困り感を抱えている児童を中心に、十分な時間を使いながら支援することができるようになってきた。

また、それ以外の算数科の授業での活動についてもスプレッドシート内に全児童が蓄積していくため、他の児童の考えを参考にしながら不安感を抱くことなく、苦手な児童も学ぶとすることができていた。



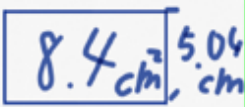
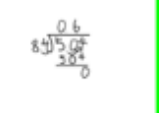
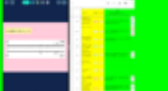
（実際に授業で活用したスプレッドシート）



（児童が選択し、学びを進める場面）

b 家庭学習とのシームレスな学習

授業と家庭学習をシームレスな学びにするために、授業で活用したスプレッドシート内に小数÷小数や小数×小数の問題づくりをするための【家庭学習】の枠を作成した。帰宅後もスプレッドシートを開き、その日の授業を思い出しながら問題を作ることを習慣化させることで、計算能力だけでなく思考して自分で問題を作る力を育成することができた。しかし、数直線から問題文を作ることや数直線自体を描くことが難しい児童に対しての支援が十分でなかったことも浮かび上がってきた。

	問題	図	計算
1	5.04÷8.4の問題を作りましょう。 ヒント①1あたりを聞くようにするといいですね。	【数直線・図・テープ図】	
2	長方形の底の長さが5.04cmでその面積は、8.4cmです。横の長さは、何cmですか？		
3	木のブロック5.04個の重さが、8.4gです。ブロック一個だと、重さは何gですか？		
4	長さ5.04個の縄の大きさは、8.4グラムです。3個の時何グラムになりますか？		

(家庭学習の実際の問題)

c 成果○と課題●

○スプレッドシートの活用により、教師は、日々の児童の学びをより見取りやすく、なおかつ評価しやすい環境を整えることができた。一方、児童たちは自分の学んだことがいつでも他者参照されるということから以前よりも相手意識をもった説明を書くことができ、苦手な児童は他者参照することで自分の考えを持つことができた。また、スプレッドシートが蓄積されていくことが学習履歴となり、前の学習を忘れてしまった児童も見返すことで思い出し、自力学習につながった。

●他者参照できることで友達の意見をただ真似してしまう児童もいる。その児童に対して教師がどのような手立てができるのかが今後の課題となってくる。

(イ)第6学年(社会科「近代国家をめざした国づくり」)(成果と課題)

○学習問題に対する仮説の設定、更新を行うことで、一人一人が自分の学習計画を立て、より自律的に学習に向かう複線型の授業を行うことができた。また、ロイロノートの共有ノートを活用することにより、「いつでも」「どこでも」「だれのでも」「何度でも」をキーワードに他者参照を積極的に行い、学びを深めようとする児童の姿が増えた。加えて、教師もタブレット端末上で学習の進捗と深度を一括で把握できるため、より効果的に個別支援を行うことができた。

●今年度はGoogleのスプレッドシートやスライド等の標準仕様アプリを十分に活用できなかった。今後、社会に出ても活用することができる力を育成するためにも、教員側のスキル向上も必須となってくる。

(ウ) 講師招聘

今年度は、京都教育大学の専任講師である大久保紀一郎講師を招聘し、教育 DX の視点による授業改善のご指導をいただいた。今の我が国における状況から、複線型の授業をどのように教材研究していけばいいのかご教授いただいた。ご指導頂いたことをもとに、一斉授業の脱却を目指して、各学年の系統性を整理しながら各学年ができることをロードマップに基づいて計画し、実践を行っていった。

自己紹介

大久保 紀一郎（おおくぼ きいちろう）
博士（情報科学）／京都教育大学・専任講師

職歴

- 2023 - 現職
- 2022 - 2023 京都大学教職大学院
- 2012 - 2022 京都府立小学校 教諭
- 2007 - 2012 京都府立小学校 教諭

専門分野 教育工学

専門領域 メディア教育 メディア・リテラシー

所属学会 日本教育工学会 日本教育メディア学会 日本読書学会 コンピュータ利用学会等

委員等 文部科学省学校DX戦略アドバイザー、教科書研究センター特別研究員

Kiichiro OKUBO 京都教育大学 All Rights Reserved

我が国の状況

A 一斉指導 B 一斉指導下での協働 C 個別最適×協働

全員協働で取り組んでいる
→協働的ではあるけど個別最適ではない
→子どもは言われたことをする

個別に取り組みも入れれば、協働で取り組む子もいる
→その選択も子どもがする

学習方法に合わせる

Kiichiro OKUBO 京都教育大学 All Rights Reserved

今日の授業から

5年生の授業力向上委員会

Kiichiro OKUBO 京都教育大学 All Rights Reserved

複線型授業の教材研究

単線型（従来型）
一斉でインプット
教師の指示で一斉に講義活用や協働
教師の指示で一斉で発表

複線型（クラウド活用型）
一斉でインプットや課題・活動理解
教師の指示で協働
協働を自己決定
課題を自己決定
課題提出

ここで何をどう共有するか？

図6 単線型（従来型）と複線型（クラウド活用型）の授業展開の例

Kiichiro OKUBO 京都教育大学 All Rights Reserved <https://takalab.net/?author=1>

(エ) 指導主事訪問

5月8日に中部教育事務所の指導主事にお越しいただき、教育 DX の必要性和実践例を紹介していただいた。第5学年の小数のかけ算・わり算の単元においては、式と問題文を対応させる力を身に付けさせるための実践例や、家庭学習とのシームレス化に向けた実践をもとにスプレッドシートシートを試行錯誤しながら活用し、第5学年が研究授業を行った。また、算数科・社会科の授業に共通して資質・能力の育成の観点からご助言いただき、研究が推進された。

(授業例：中部教育事務所のスライド資料から)

5年「小数の乗法・除法」の授業

家庭学習
式に合った
問題文を作ろう

3.5×1.4
3.5×1.4
1.4×3.5
1.4×3.5

自宅でも他者参照ができる！
個人個人のタブを共有することで、友達の考えを参照できる。

授業の例（小学校算数）②
5年「小数の乗法・除法」の授業

下の問題文とあう式のペアを見つけてみよう。

このかけ算の式の図解
書きから考えてみよう！

①ボットに水が1.4L入ります。これは、コップに入る水の量の1.4倍です。コップには何Lの水が入りますか？

②1.4Lの水を3.5コップに分けて注ぎます。1コップに入る水の量は何Lですか？

③1.4Lの水を3.5コップに分けて注ぎます。1コップに入る水の量は何Lですか？

④1.4Lの水を3.5コップに分けて注ぎます。1コップに入る水の量は何Lですか？

(才) 指導案検討

教育 DX の観点から、指導案の検討においても、スプレッドシートを活用しながら職員同士で意見を共有し、資質能力の観点から中部教育事務所の指導主事達からご指導をいただき蓄積を行っていた。スプレッドシートに蓄積していくことで、いつでも検討した内容を参照・共有することができた。

	上地先生より	上地先生からの話を受けて	各学年で、今回の授業をすすめるなら学年でどのような【教育DX・ICT活用能力等】をつけるべきか		
			右の内容を今週中までの各学年のアイパッドの活用状況	デジタル	
低	変わった所：自分たちで進度を選ぶ →社会科の教科の目標を両立すること、共同編集の歴史年表について、かたやうも書けるようになった。しかし、資料を貼っただけで、学習の苦手な子には他者参照にいくものになってしまった。	ジグソー活動にすると、小学生で初めて歴史を学ぶ児童は、歴史の流れの全体像がつかめず、内容がわりくくはりはないか。やったグループは、やられたことではあるが、他の児童にそれを理解させるためにはどうしていくか。 →理解させるための方法の例：自分の学びのための聞き方をするために、「必ず質問する。」「資料をもとに、質問の内容を考える時間をとる。」「史実をきちんとさまたでジグソーにするのは難しいのではないかな。課題：どこまでジグソー活動して、児童にませるか。今までの授業の中でも、言葉が難しい、聞きえない単語を聞いて、児童が理解しにくくともあった。児童に付けたいた：教科書や資料から自分の知りたことを調べろ。それができていないと史実の理解につけが聞き過ぎでしまうのではないかな。また、児童に学習を任せるにしても、教師が内容を深く掘んでおかないと理解が浅くなる。改善案1：案約が改正できた理由を単元を置く活動として設定し、史実を学ぶ時間についてまとめでは、案約改正できた理由としてまとめる。その後ジグソー活動→案約改正に大きく影響した出来事をジグソー活動で調べて共有する。	クラスルームやロイノードなど、タブレットの基本的な操作の仕方に慣れる。 クラスルームやロイノードなど、タブレットの基本的な操作の仕方に慣れる。Yahoo! キーズなど、簡単な検索の仕方を知る。 1年生ではタブレットの使い方に慣れることを重視する。6年生はロイノードを使って表現の仕方を確認する。	本読みをロイノードで提出している。国・交流文、国見のフラッシュの様子を撮影し、アドバイスを送る。 時間割をクラスルームで配信している。生活科で書いている野菜の成長過程を写真に撮っている。今後おもちゃ祭りという年に挑戦するときに、ロイノードを使う予定。	e-ラ 戦つ の学 で e-ラ した 組
内山	授業の内容について、ノルマントン号の事件をきっかけに日本が獨立にあることをつむぐ。国力が上がりつつあった。国際地位が上がった。政治、外交、人々の暮らしなどから自分でテーマを決め、グループも自分たちでつくるなどして調べ。パラパラする。(なぜなら授業のテーマは、課題を児童が自分で設定することだから)→根拠をつけて、自分の考えを発表する。→いまだ歴史年表を作る。学習をふりかえり。				
西村					
高橋 初					
須内					
中					
池本					

(11月7日の研究授業についての指導案検討：スプレッドシートで共有したもの)

(力) 先進校視察

月日	用務	場所
6 月 21 日（金）	令和の授業づくり（教育 DX）形骸視察研修	愛知県春日井市出川小学校
6 月 28 日（金）	横須賀市立長沢中学校視察訪問	横須賀市立長沢中学校
1 月 27 日（月）	四国中央市立川之江小学校視察研修	川之江小学校

②育成指標(系統表づくり)

今年度の重点課題である ICT 活用能力と基礎的な力を育成するための系統表を作成し、各学年で身につけておくべき力を再確認した。以下は実際の系統表である。

ア ICT 活用能力(系統表)

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
●ICT 機器 (iPad) の基本的な操作 (起動・ログイン・終了・ファイルの保存)	●モニターやプロジェクタ等を活用した写真や動画の投影。写真など画像の印刷	●適切なフォルダを利用したファイル保存	●学習の用途に合わせて、ロイロノートやスプレッドシート、Jamボード、スライドなどを選択してつかえる。	●デジタル媒体による共同作業を行うソフト (Google Workspace等) の活用	●さまざまな情報について、表計算ソフトを用いたデータの図表化、分析
●音声入力・手書き入力を使った文字入力	●Yahooキッズなどのブラウザ検索を使ってインターネットで調べる	●地図アプリを使い疑似的にその場所を知る ●タイピングソフトを使ったキーボード入力	●検索エンジンの適切な活用 (キーワード検索、類似語検索等)	●表計算ソフトによる簡単な図・グラフ作成	●アンケートフォームによるアンケート作成と図表化、分析
●iPadやデジタルカメラを使って、目的に合った写真・動画撮影や画像収集、音声記録	●iPadと周辺機器 (デジタルカメラ等) を接続して、画像データのコンピュータへの適切な保存		情報の発信や情報のやりとりする場合のルールやマナーを守る。 ネットワークは公共のものであるという意識や相手への影響を考えて使う。		●ネットワーク上のルール・エチケット・特性を十分に理解したweb ページによる情報発信
●タッチパネルからの入力、ペイントソフトによる簡単な描画	●ペイントソフトで描画したものを操作したり動かしたりする (プログラミング)	●動画作成アプリを使い、簡単なビデオ製作	不適切な情報に出会ったときには、大人に意見を求め、適切に対応する。パスワードの重要性を理解し、正しく利用できる。	●プレゼンテーションソフトによる基本操作と、画像や文字等の編集	●インターネット上の伝達技術 (インスタグラム、YouTube 等) における適切な利用 (閲覧や書き込み)

イ 基礎的な力(系統表)

	目指す児童の姿 緑：学習リーダー 黄色：教育DX	教師【協働者】 の役割	学年	デジタルドリル	情報活用能力【木曜日の放課後学習】 今年度取り組んだことは【情報スキル】加筆・修正してください。	教育DX 【クラウド】	予習	授業前	授業中	板書（年度末の目標）	授業後
低学年	協働者（教師）と共に学習過程スタンダードに慣れ、学習を進んで行くことができる。そして、見通しをもって学習することができる。	見通しや課題・考察場面の発音や軌道の修正。肯定的な声かけ。価値づけ。	1年生	eライブラリの活用 国語を中心とした取組	・タブレットのルール・パスワードの確認 ・タブレットの起動方法 ・カメラ機能を使った写真 ・ロイノートの使い方 ・クラスルームの活用	ロイノートを活用した授業実践 学習スタンダードの徹底		・進行表 ・単元計画の確認 ・課・自・友などを板書に貼る ・教材の確認	・全体司会（進行を中心に進める）	・掲示物を貼る	ミニ協議会の司会・進行
	タブレットやアプリの活用方法を学び、自分で選択する力をつけるための方法を身につける。		2年生		・ビスケット ・コーディロボット ・情報モラル ・Googlemeetの活用 ・画像データのコンピュータへの適切な保存			・キーワード・言語 わざの準備			
中学年	協働者（教師）と打ち合わせを重ね、同じリーダー同士で相談して、低学年の経験を生かして進行以外にも学習をリードしていくことができる。	見通しや課題・考察の場面の発問内容をリーダーと共有。	3年生	eライブラリの活用 国語を中心とした取組	・ローマ字入力でのタイピングスキル ・インターネット検索の仕方	・学習形態の選択 ・学習方法の選択 ・ロイノートを活用した共同編集【3年生】 Googleを活用した共同編集【4年生】 ・他者参照の活用	学習内容を 予習する	・学習課題の事前学習 ・ヒント出し内容の検討 ・板書計画の検討	・ヒント出し	・課題やまとめ	ノートの回収 越知ゼミや板書の 撮影・蓄積
	学習形態や方法、過程を選択することで、学習者同士や多様な他者と協働し、異なる考えや他者の価値を尊重する。	肯定的な声かけ価値づけの 促し。	4年生		・Google【ドキュメント、スライド、スプレッドシート】の活用した表、グラフの作成 ・NHK for Schoolの視聴方法		家庭学習と 関連付けて 予習しておく。	・学習活動の柔軟化			
高学年	学習計画表から暗黙の作成。協働者との打ち合わせを通して自分たちが授業をつくるようになっていくことができるようにする。 （完全セルフ授業）	学習が苦手な児童への集中的な支援。	5年生	すららドリル 【AIドリル】 スタディログを活用	・Google【フォーム】の活用、アンケートの作成、回答、集計 ・スクラッチを活用した授業実践【算数：多角形】	・チャット機能を活用した教員の支援 ・Googleを活用した学習履歴の蓄積 ・学習過程の決定 ①学習課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現のサイクルを意識した授業展開	考察場面の 発問や授業 の流れの作成	・つけるべき力の確認 ・キーワードの洗い出し ・課題の作成 ・専門的知識をもつ仲間との打ち合わせ	・時間配分の臨機応変の対応 ・困っている児童が多い場合の学習活動の修正 ・課題に向かうための発問やファシリテーター的役割	・完全板書（友達の発表を板書できるように） ・完全板書＋板書計画の作成	授業の内容はどうだったのかリーダーかクラスで帰りの会等で振り返る。
	課題を設定し、過程や形態を選択することで、自分の学びを調整することができる。		6年生		・理科でのプログラミング学習【電気】 ・デジタルによる新聞【掲示板の作成】						

ウ 学び方

本校の研究のキーワードとなっている自立的で自律的な学習者の育成に向け、授業スタイルと上記で述べた ICT スキルの向上の 2 つの側面からアプローチを図った。

取組の具体として、1・2 年生では、学習リーダーを活用した越知スタンダードでの授業づくりを徹底することとした。3・4 年生では、一人学び、ペア方式、ゼミ方式等学び方のスタイルを増やすことを目標とした。5・6 学年では、学習計画をもとに、学習形態（個人・ペア・グループ）、学習方法（ノート、タブレット、話し合い）の自己決定を行うことを目標とした。

上級生は新しいスタイルでの学習方法に 4 月初初は戸惑っていたが、継続して取組を進めていくうちに、学び方を自己決定する姿が増え、自立的な学習者の育成に効果があったと考えられる。

一方で、仲良し同士でのグループ活動や友達の丸写しになってしまう等、自律的な学習者としての姿には課題が見られた。この課題は、授業力向上委員会の取組や、学習スタイルの統一を徹底すること等、学校全体で多面的に取り組み、改善していく必要があると考える。

エ ノートづくり

(ア) ノート委員(3・4年生)によるノート展覧会・ノートコンクール

児童の日々の授業におけるノートづくりの意識向上や、一人一人の書く力を高めることを目的に、授業でのノートを見合ひ、評価をするノート展覧会やノートコンクールを行っている。ノート委員が、評価基準を基に評価・審査を行うことで、学年の枠を超えたノートづくりの交流や質の高いノートづくりができるようになってきた。ノートを見合う中で児童から「振り返りは自分の言葉で書けているが、もっとくわしく書けるといい」「自分の考えはよく書けているが、友達の考えを書いているノートが少ない」などの気付きが増え、集会等で全校に呼びかけることで、全体のノートづくりの向上につながった。



(ノート展覧会の様子)



(集会で呼びかけているノート委員)

(イ) 横倉山委員会(5・6年生)による自学コンクール

日々の授業でのノートだけでなく、家庭でも効果的な学びのノートづくりができるようになることを目的に、2ヶ月に1回自学コンクールを実施した。横倉山委員会の児童が、評価基準に基づき審査を行い「ていねい部門」「パーフェクト賞」「びっしり部門」などのノートを表彰・掲示することによって、自学ノートの質も高くなっている。自校で作成した学びのセルフガイドブック『まーナビ』を活用して自学ノートの作り方について確認をしたり、委員会の児童が集会で自学ノートコンクールの取組について呼びかけをしたりすることで児童が主体的に取り組めるようになってきている。



(自学コンクールについての掲示)

全校で統一して目標を立てることで、自分の目標をもち日々取り組むことで、学び続けるためのスキルや素地が身に付いてきた。保護者も参観日等でノートの掲示を見て家庭でも声かけをしてくれている。

③加力学習

ア デジタルドリル

本校では、「eライブラリ」を全学年で、5・6年生では、自立的で自律的な学習者の育成を目標として、AIドリルである「すららドリル」を導入した。昨年度の取り組みでは、ただ取り組むだけになってしまい、分析や見取りが不十分であったことが課題であった。

そこで、本年度はスタディログを活用した自己分析を行うことで、児童が自分の苦手や得意を把握し、学習内容を判断することができる力を育成することを通して、デジタルドリルの強みである基礎基本の確実な定着を目標とした。また、中学校と共通のツールを活用しているメリットを活かすことができるよう、小中連携を充実させることを目標とした。これらの目標を達成するために、今年度は主に2点の取り組みに重点を置いた。

1点目は、スタディログを活用した自己分析である。この取り組みでは、小中連携の観点も踏まえ、中学生からログの活用方法や学習のサポートをしてもらう活動を2回実施した。

2点目は、家庭学習での活用である。主に算数科の基礎基本の定着を意識して課題を出した。

今年度の取組を振り返って、自律的な学習者を育成するために、ログの見方を段階的に進めていく必要性を感じた。来年度は低学年・中学年・高学年のブロックごとに系統立てて、自律的な学習者の育成に向けて計画的な研究を行っていききたい。



単元	授業	日付	得点
単元1	1.1 数の利用	10/10/20	10/10/20
	1.2 数の利用	10/10/20	10/10/20
単元2	2.1 数の利用	10/10/20	10/10/20
	2.2 数の利用	10/10/20	10/10/20

(スタディログ)



(中学校との合同学習会の様子)

(ア) すららドリル

月日(校時)		学習名	
10月11日(金)2校時		「すららドリル」活用授業	
本時のねらい(2/2時間)			
・家庭学習や帯タイムで取り組んできた学習履歴をもとに、自分の苦手領域を把握し、自己課題を設定する。			
・取り組んだ問題で分からない問題を友達と学び合うことで解決し、苦手領域を克服する。			
評価			
・自分の苦手領域を把握し、自己課題を設定することができる。			
・取り組んだ問題で分からない問題を友達と学び合い、解決することができる。			
学習課程		学習活動(○学習リーダーの発問・予想される児童の反応)	留意事項
【振り返り】		1 前時のすららドリルの取組の振り返りをペアで伝え合う。 ・全員立ち、一人ぶつぶつ・ペアでぶつぶつ振り返りを共有する。	
【展開】 問題提示 9:30 問いをもつ 見通し		2 現在学習している単元に必要な力を確かめる。 ○今の学習では、どんな力が必要ですか。 ・小数のわり算の筆算が必要だと思います。 ・小数の大小関係が苦手なのでやらないといけなと思います。 3 スタディログを起動し、必要な力の中から自分の苦手領域を確認する。 ○自分のスタディログを開いて、点数が低い所を確認しましょう。 ・僕は、小数の問題の正解率が低いな。 ・わり算の筆算の間違が多いな。 ○点数が低い所を高くするために今から取り組むユニットを決めましょう。 ・よし今日は、4年生の時を中心に組み込んでみよう。 ・小数がまだ覚えきれていないから小数をがんばろう。 ○この時間の課題を自分で決めましょう。	・スタディログの中から、赤く表示されている項目に焦点を当てさせる。 ・「教科書から選ぶ」の項目から選択させる。 ・スプレッドシートに目標を書きこませる。 ・自分で課題を設定させることで、児童自身の意欲の向上をめざす。 ・取り組んだ問題で分からない問題を友達と学び合い、解決することができる。 (スプレッドシート)
課題設定 9:40		4 それぞれが課題【個人課題】を確認する。 【例】小数の問題に挑戦し、課題をこくふくしよう。 (一人(5分)班学び(10分)全体学び・考察(12分)まとめ(3分)振り返り(3分))	
解決活動 9:43 ・自力学習 ・グループ学習(学習形態の設定)		5 一人学び(自力解決)を行う。 すららドリルの自分の苦手領域に取り組む。苦手な領域で解説を見ても分からない問題については、スクリーンショットしておく。 ○自分の点数が低かった問題に取り組みましょう。分からない問題を2・3問スクリーンショットをしてあとで友達と話し合いましょう。 ・この問題は難しいからあとでみんなに聞いてみよう。	
集団解決 9:55 ・学び合い①(意見出し)		6 ペア・グループ学習を行い、意見を伝え合う。【学習形態の選択】スクリーンショットした問題を自分が選択した学習形態の友達と出し合い、分からなかったところを分かるようにする。 ○自分が解くことができなかった問題を友達と出し合って解決しましょう。 ・この分数の問題はどうやって解けばいいかな？ ・この問題が分かれば、次の算数の時間も分かるかもしれない。	
【終末】 10:10 振り返り		7 スプレッドシートで学びの振り返りを行う。 今日は、小数の問題に挑戦しました。小数点の位置やわり算の筆算のやり方を復習できたので、次の算数の時間では、少しは自信をもって取り組むことができると思います。	・振り返りの視点を示す。

(イ) e ライブラリー

今年度は、全学年国語に重点を置いて取り組むこととなっていたが、指標を明確化できておらず、高学年の「すららドリル」の検証事業もあったため、十分な研究を行うことができなかった。来年度は、「みらいシード」に AI ドリルが移行するため今年度の反省点を活かして、指標を各学年に設けて、検証を図っていきたい。

イ プリント

(ア) これっきりプリント(越知小)

放課後加力学習では、各学年で理解してほしい内容がまとめられた「これっきり算数プリント」に取り組んだ。4 年生以上の学年では、3 年生からの「これっきり算数プリント」に取り組み、児童が学習のつまづきを確かめられるようにした。さらに、月に一度、同プリントで確認テストを行い、100 点となるまで何度もやり直して、児童が学習内容を確実に理解できるようにした。

(イ) 中部教育事務所作成プリント

国語では中部教育事務所作成プリントを活用し、文法や文章のきまりを理解することや語彙を増やすことをねらいに取り組んだ。「主語と述語」や「手紙の書き方」など、学習した内容が 1 枚にまとまっていたので児童にとって取り組みやすく、学習内容をつかみやすかった。

(ウ) MIM

すべての学習の基本である読みの基礎を確実なものにしていくために、2 学期から「MIM」に取り組んだ。月曜日の昼休み後(10 分間)1, 2, 3 年生で実施した。子どもたちの読みの流暢性を育み、読解力へとつなげていくために指導の原則に基づいた指導教材を使って、楽しんで学んでいけるようにした。まずは、ルールの明確化(視覚化や動作化を通じた音節構造の理解)、次に、かたまりとして語を捉えることによる読みの速度の向上(プリントやテストの利用)、更には、日常的に用いる語彙の拡大と使用を目指して取り組んだ。実際に、板書を写したり、作文を書いたりする時に書き方が分からなくても、言葉の動作化をすることで理解できる姿があった。児童自ら動作化として、テストの見直しをしている姿を見かけることもあり、読み書きを獲得していくための助けになっていると言える。12 月に実施した確認テストの結果を次年度に引継ぎ、継続して取り組んでいきたい。

(エ) Peratto5・6 年

夏季校内研の中で本校の児童に文章の「読み取り」、「書き」の弱さが見られるということが出された。そこで「読み取り」、「書き」の基礎学力を定着させるために継続的な取り組みとして「視写」を行うことにした。

この「視写」をするときに子どもたちに意識させたい点は、1 字ずつ写すのではなく、「言葉のまとまりで覚えて写す」という作業を繰り返すことで、文章の意味が素早く読み取れ

るだけでなく、文章の組み立てや表現技法、言葉のルールを自然と身につけさせることをねらいとして行うことにした。そうすることで、教科書の文章を読む時やテストの問題文を読む時などに「まとまり」をとらえる習慣が身につく、学習がスムーズに進められるだけでなく、学力の向上にもつながると考えた。

そこで、2学期より毎週月曜日の昼休み終了後の13:05～13:25までの20分間を利用して、高知新聞の「ペラット」(500字程度)＜1分間30字が可能＞を使って、5,6年生対象に行うことにした。現在は、2学期間で約7回実施されている。1回目、全員が半分ぐらいで終わっていたが、現在10分程度で、最後まで書ける児童も見られるようになってきた。(6年生:23人中6名)

④家庭学習

ア 家庭学習の時間、内容について

年度初めに各学年で話し合い、宿題の量、内容が学年ごとに統一されたものを決めた。さらに、4年生以上の学年は自分で課題を見つけ、自分の学習に取り組めるようにと自主学習の比率を多くすることにした。また、家庭学習が学年に応じた時間や内容となるように家庭学習の手引きを配付した。高学年には意図的に予習の宿題を出すこととし、児童が予習のよさを感じ、進んで予習してくるようになって考えて取り組むこととした。長期休みには、全学年デジタルドリルに取り組むこととし、タブレット学習に慣れ、内容や進度を自分で選択できるようにした。

イ 家庭学習チェック週間の取り組み

(ア) 調査結果

a 家庭学習時間達成率

(低学年 30分以上 中学年 45分以上 高学年 60分以上達成指標 90%)

5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
92.4%	89.1%	87.8%	89.1%	88.6%	92.5%	86.9%			

b 家庭学習提出率 (達成指標 95%)

5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
87.0%	86.5%	84.0%	85.0%	86.8%	90.5%	85.2%			

(イ) 結果分析

基礎学力の定着をはかり、学習習慣を身に付けさせるために各学年の家庭学習の取り組み状況を毎月1回調べ、数値化し、結果を掲示することで自分たちの取り組みを客観的に見ることができた。しかし、1学期は達成時間、提出率ともにわずかな減少を示していた。これは心機一転、意欲を持っていた児童が1学期の様々な学習や行事を経て、慣れや疲れなどから意欲が低下してきたと考えられる。横倉山委員会より、自主学習ノートの展示・

表彰の取り組みを行ったが、数値の改善には反映されなかった。その後、横倉山委員会や担任からの宿題をすることの意味を呼びかけることで、徐々に上昇し、11月に時間達成率、提出率ともに90%を超えることとなり、目標まであとわずかまでせまることができた。

(ウ) 成果(○)と課題(●)

○目標の指標には届かないものの平均すると時間達成率 89%、提出率 86%、ふれ幅も約 6%ほどで、それなりに高い数値で取り組めている。

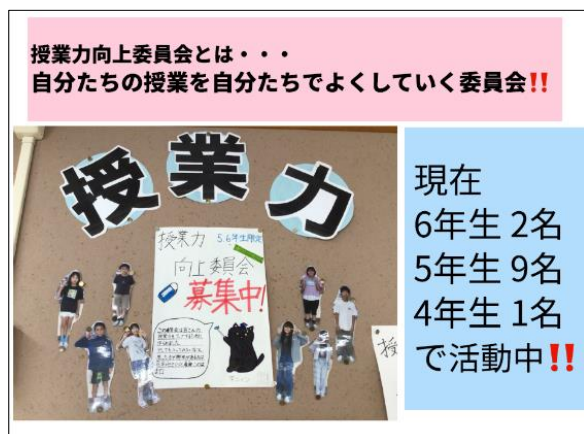
●各学年ともに特定の家庭学習をしていない児童がいた。そのような児童に対して担任まかせだけではなく、組織的な手立てや、個別支援的な手立てをとればよかった。

●宿題をこなすだけの意識の児童がおり、各個人の自学の内容についてレベルアップさせていく手立てが必要だった。

⑤ 主体的な活動

ア 授業力向上委員会

(ア) 授業力向上委員会の募集呼びかけ



2 学期始めに自律型学習者の育成を目指すために、自分たちの授業を自分たちでよくしていく委員会を設立した。開始直後は、5年生6名、6年生2名であったが、現在は4年生3名、5年生9名、4年生3名と少しずつではあるがメンバーが増えてきた。メンバー募集のポスターも自分たちで作成し、全校に呼びかけている。最初は、自信が無かった児童も通信の発行や自分たちで考えた授業を行うことによって自己肯定感を高めながら活動を行っている。

(イ) 活動内容

a 研究授業の通信発行

9月13日の第2学年国語科の研究授業を委員全員で参観した。参観中は、学習リーダーの発言や行動について、付箋に感想を書きながら2年生の授業を見ることができた。その後は、委員長がアプリ【Pages】を使って通信を作成した。ほとんどアドバイスなく自分が見て考えたことをまとめ、集会で発表することができた。その後も研究授業の度に通信を発行し、自分たちの授業力の向上に努めた。

今年度のチャレンジ

【第1弾：研究授業の通信発信】

向上委員会
委員長
(6年生)が
自力で作成！

b セルフ授業の撮影・反省

研究授業外においても高学年では、日々の授業を撮影し、5・6年同士でお互いの授業を見合った。そして、感想をロイロノートの共有ノートで交流し合い、自分たちの授業を高め合うことができた。「評価される」という視点がお互いの学年に生まれたことで、授業にも気合が入り、積極的な話し合いを行いながら学び合うことができた。

今年度のチャレンジ

【第2弾：セルフ授業の撮影：反省会】

日常のセルフ
授業を撮影し、
向上委員会で
反省会！

c 研究授業の参観も他者参照

タブレット活用を授業力向上委員会の中で増やしていくことで、研究授業の参観中も共有ノートを用いて他者参照しながら授業について交流することができた。教育DXの授業実践のように、今考えていることを即交流することができるよさを見童たちが実感することができた。

今年度のチャレンジ

【研究授業も参観！】

研究授業でもふせんにたくさん良い点や改善点を記入・共同編集！

d 異学年交流の挑戦【4・5・6 年による合同体育：シンクロマット！】

2 学期後半になると、従来実践してきたセルフ授業をさらに進化させた。授業力向上委員会を学習リーダーとして、委員会のメンバーが在籍している 4・5・6 年生総勢約 70 名で合同体育を行った。1 時間扱いの計画で終わるのではなく、5 時間の単元を計画し、実践を行った。1 時間目は、仲を深めるためにドッジボールやおにっごなどを行った。45 分の授業の流れを休み時間に集まって計画し、自分たちで全て進めることができたことで、自信につなげることができた。



【教育 DX の研究発表会に児童が発表した内容：ロイロノート】

2. 指標

月	内容	達成目標
4 月：6 年生	全国学力・学習状況調査	全国平均以上 平均正答率 70%以上
4 月：2～5 年生	総合学力調査	平均正答率 80%
12 月：4～5 年生	高知県学力定着状況調査	全国平均以上 平均正答率 70%以上 個人伸び率 10%アップ
2 月：1～3・6 年生 4 年生理科	総合学力調査	平均正答率 80% 個人伸び率 10%アップ

3. 研究計画

月	教育 DX の推進	育成指標 (系統表づくり)	加力学習	家庭学習	主体的な活動
4	6 年生：全国学力・学習状況調査 指標：平均正答率 70%以上 2～5 年生：総合学力調査 (目標値差) 指標：平均正答率 80%以上				
5					
6	5 年生 算数科公開授業				
7					
8		ICT 活用能力 基礎的な力 学び方			授業力向上委員会の 募集呼びかけ
9					授業力向上委員会の 立ち上げ
10					
11	6 年生 社会科公開授業				
12	4・5 年生：高知県学力定着状況調査 指標：平均正答率 70%以上				
1					
2	1～3・6 年生及び 4 年生理科：総合学力調査 指標：平均正答率 80%以上				
2	育成指標チェック ○学習リーダー ○教育 DX の視点に立った授業改善 ○デジタルドリル活用 ○情報活用能力				
3					

4. 研究の成果(○)と課題(●)

○これまでの授業づくりから、学んだ知識を使うという授業づくりが変わってきた。加力は、組織的に内容改変をすることができた。

○教育 DX を一年間研究することで、以前の学習リーダーを主体とした授業づくりよりも、さらに主体性を培うことができた。今までの学習リーダーにおいては、一見主体的な一面がある一方、形式的でマンネリ化してしまっているという課題が見られていた。しかし、教育 DX の導入により、児童たちは自分のペースで焦ることなく、計画的に勉強を進めることができた。今後は講師の大久保紀一郎先生がおっしゃっていたように、教師が主体となって教え込んでとる点数ではなく、自分たちで学びとった点数となるように取り組んでいきたい。そして、教育 DX を視点

とした学力向上に取り組んでいながら児童一人ひとりが安心・安全と感じる学習環境を整えていきたい。

○AIドリル等の活用や研究計画のDX化に伴い、学校全体のICTスキルの向上にもつながってきた。

来年度も円滑にICT活用を行っていけるように周知徹底を図っていく。

- いろいろな取組が十分な学力定着には結びつかなかった。基礎・基本の定着，確認の徹底を図る必要がある。協働的で個別最適な学びの捉え方を明確にする必要がある。
- 児童にゆだねることで，確実な見取り・評価が不十分な点が見られる。今後は，ゆだねた部分をどのように見取り，評価するかが課題である。

Ⅱ-2 研究の概要（生活部）

1. 生活部の取組

（1）研究方法・研究内容

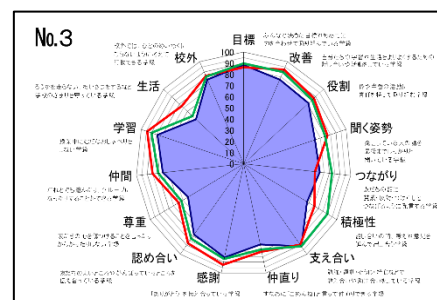
①学級力向上 （特別活動の充実）	②基本的な生活習慣	③仲間づくり	越知小スタンダード （生活のきまり）
ア 学級力レーダーチャート イ スマイルタイム ウ スマイルアクション エ 全校に発信 オ 全校に共有 カ 次の学級力アンケート で学級力の再自己評価	ア 生活リズムチェックカードの取組 イ 「No メディアデー」の実施 ウ 給食保健安全委員会による健康	ア スマイルの木・葉っぱ	ア 生活指導 イ 「あいさつ」と「聴く」の徹底

① 学級力向上

学級力向上プロジェクトに取り組んで6年目となる。子どもたちがめざすよりよい学級づくりの実現に向け、子どもたちが主体的に活動する過程を通して、自ら所属する学級をよりよく改善していくためのマネジメント力身につけるための取組である。

ア 学級力レーダーチャート

学級力レーダーチャートは、領域・項目ごとの平均値が可視化されたグラフであり、その形状や領域別達成状況を指標として児童が学級の実態を把握するのに活用する。前回や前々回のアンケートの結果を色つきの実線で表示することによって、学級力の変容が児童に見やすくなるように工夫されている。



イ スマイルタイム

スマイルタイムは、学級力アンケートの結果をもとに児童が自分たちのクラスの成果と課題を話し合う時間である。学級力の高い領域・項目と低い領域・項目を取り出してそれぞれの原因や背景を分析したり改善のための取り組みを考えたりする姿がみられる。取組の成果を児童に実感させながら、さらに学級力を向上させるためのアイデアを話し合う活動を行っている。

（スマイルタイム）



ウ スマイルアクション

スマイルアクションとは、学級力を高めるために児童が取り組む活動である。自ら所属する学級をよりよく改善していくために、児童自身が考えた活動に取り組んでいる。



エ 全校に発信

スマイルタイムで話し合ったことや、取り組むスマイルアクションについて集会で全校に発信した。それぞれの学級の実践を宣言したことで、児童のやる気につながった。

オ 全校に共有

学級で取り組んでいるスマイルアクションについて、掲示板を用いて全校に共有した。普段知らない他の学級の実践を知ることができた。

カ 次の学級力アンケートで学級力の再自己評価

スマイルアクションへの取り組みを踏まえて、自分たちの学級がどのように変化したのか、学級力アンケートで再評価を行った。スマイルアクションに組み込み、再評価をする活動を繰り返していく中で、さらなる学級力の向上を目指していく。



《成果》

- 学校行事や Being と関連させてスマイルアクションに取り組むことで、より自分事として自分自身や学級のことを捉えることができる児童が増えてきた。
- 学級力アンケートをもとに R - PDCA を効果的に活用することで学級づくりに進んで参画することができるようになり、主体性や協働性、創造性が少しずつ高まってきた。

《課題》

- 「楽しい」「やってみたい」と思うことができる目標の設定や振り返り、スマイルアクションについて研究していく必要がある。
- レーダーチャートや各クラスの実践について教師間の情報交換が弱かった。よりよい実践につなげていかなければならない。

② 基本的な生活習慣

【本校の生活習慣の課題】

- ・低学年から基本的な生活習慣が身に付いていない児童がいる。
- ・長時間のメディア使用により、睡眠不足や体調不良を訴える児童がいる。
- ・就寝時刻とメディア利用時間の目標を守れない児童が多い。

以上の課題から、メディアとの付き合い方や早寝・早起き・朝ごはんの指導を中心に、基本的な生活習慣の確立に向けた取組を行っている。

ア 生活リズムチェックカードの取組

【目的】

児童が、長期休業で乱れがちな生活リズムを立て直し、学期当初によいスタートが切れるようにすることを目的とする。

【実施時期・方法】

- ・「生活リズムチェックカード」を用いて、2学期、3学期当初の7日間の生活リズムをチェックする。実施後は、各自でレーダーチャートを作成し、振り返りや保護者の感想を記入する。
- ・生活リズム名人になった児童には表彰状を贈る。

《保護者の感想》

- ・早寝をしてゲームの時間を減らしたいと思えます。朝は早く起きられるようになりました。

《成果》

- 実施前に保護者向けにおたよりを配付したことで、児童だけでなく保護者にも取組を周知し、協力を得ることができた。
- 児童自身がチェックカードに記録することで、生活リズムの乱れに気付くことができ、生活を見直そうという意欲につながった。
- 生活リズム名人が60%(昨年度比+3%)と昨年度に比べると増加している。

《課題》

- 低学年で生活リズムを整えることが難しい児童が多かった。低学年は保護者のライフスタイルが影響していることも考えられるため、児童へ規則正しい生活習慣を送ることの大切さについて指導を行うとともに、おたよりだけでなく家庭での実践につながるような取組を行っていく必要がある。
- 継続した取組は行っているが、「就寝時刻」と「メディア使用時間」の達成者率が低い。

Ⅱ 「No!メディアデー」の実施

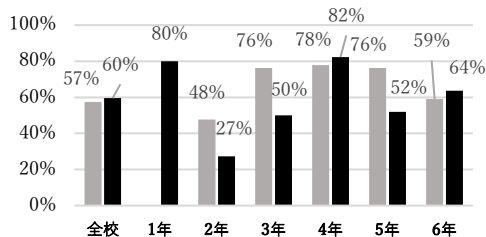
【目的】

電子メディア機器の使用過剰による睡眠不足等の生活習慣の乱れを改善し、親子・家族・地域等とのコミュニケーション力の育成、豊かな心を育む。

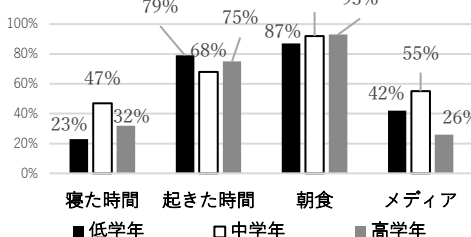
【実施時期・方法】

- ・10月と1月の年2回実施(各自1週間のうち1日を「No!メディアデー」に設定し、目標を決めて取り組む。)
- ・児童だけでなく保護者にも取組を周知し、その結果をおたより等で知らせる。

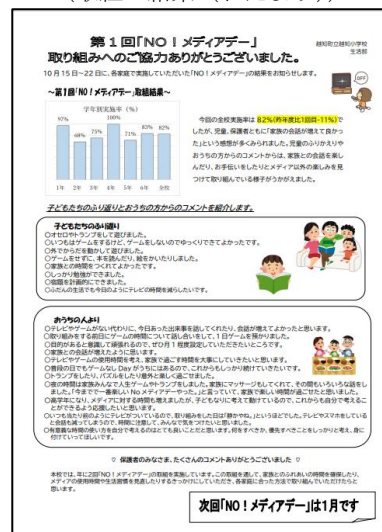
生活リズム名人の割合



項目別達成者割合



(取組の結果(おたより))



《成果》

- 「No！メディアデー」の取組は今年度で26年目を迎えた。継続して実施することで、家庭全体で日常生活を見直すよいきっかけになっている。
- 実施後の児童の振り返りからは、身体を動かしたり、読書をしたりとメディアから離れる時間を有意義に活用している様子がうかがえた。また、保護者からは、「家族でコミュニケーションをとる時間に充てることができた」「No！メディアデー」を定期的に実施してほしい』などの肯定的な意見が多数みられた。

《課題》

- 家庭環境や生活環境により家族全員で取り組むことが難しい家庭もある。
- 今回の全校実施率は82%（R5年度比-11%）と年々減少しており、メディアから離れることができない児童も増加している。児童だけでなく、保護者への啓発が課題である。
- メディアとの関わり方については、児童一人一人が自己をコントロールできる力を身に付けることができるよう、メディアの長時間使用による心や体への影響や各家庭におけるルールづくりの大切さについて継続して伝えていく。

ウ 給食保健安全委員会による健康クイズ

生活リズムチェックカードや生活アンケートの集計結果から見えた課題をもとに、健康に関するクイズを作成し、集会で発表した。クイズを通して朝ごはんの大切さやメディアの長時間使用による影響を知るとともに低学年から高学年までが自分の健康について楽しみながら考えることができた。

（メディア使用に関する啓発資料）



（集会で発表している様子）



③ 自己肯定感・自己有用感向上

ア スマイルの木・葉っぱ

児童玄関の正面に掲示されている「スマイルの木」は、昨年度の「ありがとうの木」から名称を変えた。「ありがとうの木」は、友達や先生、支援員さん、地域の方等へ、日頃の感謝の言葉を葉に書いていた。今年度「スマイルの木」とすることで、友達などへの感謝だけでなく、一人一人の児童の自己肯定感をさらに高めていくことを目指し、友達の頑張っていることや得意なことを伝え合うことを盛り込んでいる。

《成果》

- 道徳アンケートの中での「自分にはよいところがある」の全校児童の肯定的意見が、R5年79%から84%に上がっていた。

《課題》

- 友達の良い所も探すことができるように、声かけを行う。

（職員室 スマイルの葉ポスト）



（児童玄関前 スマイルの木）



自分にはよいところがあると思う R6						自分にはよいところがあると思う R5					
1 学期	(できている) （そう思う）	どちらかといえば （できている）	どちらかといえば （できていない）	（できていない） （そう思う）	計	3 学期	(できている) （そう思う）	どちらかといえば （できている）	どちらかといえば （できていない）	（できていない） （そう思う）	計
1 年	19	5	2	1	27	1 年	18	3	2	1	24
2 年	16	3	2	0	21	2 年	17	4	1	1	23
3 年	20	3	0	0	23	3 年	12	2	1	3	18
4 年	10	5	1	2	18	4 年	13	9	3	4	29
5 年	13	8	4	2	27	5 年	4	14	3	2	23
6 年	7	8	4	4	23	6 年	9	10	8	2	29
計	85	32	13	9	139	計	73	42	18	13	146
	61%	23%	9%	6%			50%	29%	12%	9%	

④ 越知小スタンダード

ア 生活指導

(ア) 越知小生活のスタンダード【学校生活のきまり】

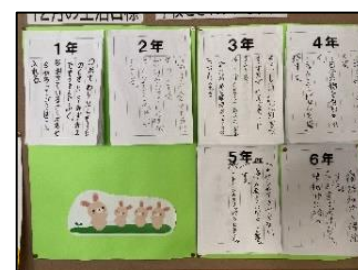
児童が健全に日々の生活を送るための基本的な約束事をまとめた「越知小生活のスタンダード」をデータ化し、昨年度からタブレットにて全児童に配付している。必要な時に全員で確認することで規範意識の育成に役立っている。内容は（１．登下校について ２．校内での生活について ３．校外での生活について）の３章からなり、教職員も見直しを行い、家庭への啓発とともに、これに基づき一貫した指導を行っている。また、長期休みの前には、スタンダードを基に過ごし方において特に注意すべき点を意識してもらうよう話をしている。



(イ) 生活目標

基本的な生活習慣の重点指導を各委員会からの提案という形で取り組んでいる。集会で各委員会が月目標を提案し、学級で具体的な取組を話し合い児童玄関前に掲示している。取組の達成状況を担当委員会が評価し、全体の意識付けを行っている。学級で「振り返る」「明日につながる」「改善する」ことの継続した取組が成果として定着している。

	月目標	担当委員会
4 月	友達と仲よくしよう	仁淀川
5 月	運動会を成功させよう	計画
6・7 月	本をたくさん読もう	図書
9 月	進んで学習しよう	横倉山
10 月	時間を大切にしよう	放送
11 月	学校をきれいにしよう	栽培・美化
12 月	丈夫な体をつくろう	体育
1 月	生活リズムを整えよう	給食保健安全
2 月	あいさつ名人になろう	スマイル
3 月	一年のしめくりをしよう	生活部



(各学年の生活目標)

(月目標と担当委員会)

イ 「あいさつ」と「聴く」の徹底

本校では、「あいさつのできる子」の育成、及び「あいさつを通しての地域連携」を目指している。また、「聴く」ことを通して、自分も友達も大切にする事の徹底を呼び掛けている。毎週金曜日の集会活動では、学級でもあいさつや聴く姿勢を意識するために、横倉山委員会を中心に全校児童に呼びかけている。各学級でも普段の授業で意識するよう、担任を中心に声掛けを続けている。呼びかけを続けた結果、自分からあいさつをする児童が少しずつ増えてきた。地域の方からも「〇〇さんがすごく大きな声であいさつをしてくれるようになって嬉しい。」などといった声を頂くことが増えた。今後も定着を目指し、取組を継続していく。



(2) 指標

月	内容	達成目標
4	第1回スマイルタイム（メ切り4/12） スマイルアクション提出（メ切り4/18）	全学年スマイルアクションに取り組む
5	第1回学級力アンケートの実施（5/7～5/10）	全学年アンケートを実施する
	第2回スマイルタイム（5/13～5/16） 第1回学級力アンケートの結果をレーダーチャートで提示する	全学年スマイルアクションに取り組む 全学年レーダーチャートを教室に掲示する
	Q-U（5/29～5/31）	全学年メ切までにQ-Uを行う。
6	第2回学級力アンケートの実施（6/17～6/19）	全学年アンケートを実施する
	第3回スマイルタイム（6/20～6/24） 第2回学級力アンケートの結果をレーダーチャートで提示する 第1回目のアンケート結果と比較し、感想や気づきを発表させる	全学年スマイルアクションに取り組む 全学年レーダーチャートと振り返りを教室に掲示する
	第1回学校生活アンケート（6/3～6/7）	全学年学校生活アンケートを実施する
7	道徳アンケート1回目（7/1～7/5）	「自分にはいいところがある」 全校児童肯定的意見80%以上
9	生活リズムチェック1回目（9/3～9/11）	
10	第3回学級力アンケートの実施（10/3～10/7）	全学年アンケートを実施する
	第4回スマイルタイム（10/8～10/10） 第3回学級力アンケートの結果をレーダーチャートで提示する 第2回目のアンケート結果と比較し、感想や気づきを発表させる	全学年スマイルアクションに取り組む 全学年レーダーチャートと振り返りを教室に掲示する
	第1回「NO!メディアデー」（10/15～10/22）	
11	Q-U（11/5～11/8）	全学年メ切までにQ-Uを行う。
	第2回学校生活アンケート（11/5～11/8）	全学年学校生活アンケートを実施する
1	道徳アンケート2回目（1/8～1/31）	自分にはいいところがある 全校児童肯定的意見83%以上
	生活リズムチェック2回目（1/14～1/22）	

1	第2回「NO！メディアデー」(1/21～1/28)	
2	第4回学級力アンケートの実施(2/26～2/28)	全学年アンケートを実施する
3	第5回スマイルタイム(3/3～3/5) 第4回学級力アンケートの結果をレーダーチャートで提示する 第1～4回目のアンケート結果と比較し、感想や気づきを発表させる ・1年間の取組を振り返る	全学年スマイルアクションに取り組む 全学年レーダーチャートを教室に掲示する

(3) 研究計画

月	学級力向上	基本的な生活習慣	仲間づくり	越知小スタンダード (生活のきまり)
4	第1回スマイルタイム			生活スタンダード配付
5	第1回学級力アンケート 第2回スマイルタイム		Q-U	
6	第2回学級力アンケート 第3回スマイルタイム		第1回学校生活アンケート 第1回道徳アンケート	
7				
8				
9		第1回「生活リズムチェック」		
10	第3回学級力アンケート 第4回スマイルタイム	第1回「NO！メディアデー」		
11			第2回学校生活アンケート Q-U	
1		第2回「生活リズムチェック」 第2回「NO！メディアデー」	第2回道徳アンケート	
2	第4回学級力アンケート			
3	第5回スマイルタイム			生活スタンダード修正

(4) 生活部の成果(○)と課題(●)

《成果》

○今年度、本校では、「心のこもった気持ちのよいあいさつ」と相手を大切にする「聴き方」を二本柱として1年間を通して重点的に取り組んだ。その1つの「あいさつ」については、道徳意識アンケートの「人に出会った時、すすんであいさつをしている」の項目で、肯定的回答84%となり昨年度(79%)と比較しても+5ポイント上昇できた。これは、全教員があいさつの

値打ちや大切さについて意思統一をし、自分たちの実践を通して啓発してきた成果と考えられる。

- 「学級力・学校力向上の取組」を継続して行ったことで、道徳意識アンケートの「学級活動では、仲良く話し合い、楽しい生活にしようとしている」の項目で、肯定的回答96%となり昨年度(92%)と比較しても+4ポイント上昇できた。これは、全校集会で全学級が学級の良い点・改善点・これからの取組を発表するなど全学級で1年間を通して取組を進めてきた成果と考えられる。
- SCやSSW、管理職、養護教諭が連携し、支援会を中心に家庭や教職員への包括的な支援体制を整えることで、組織的に問題を解決できた事例が増えた。

《課題》

- 今年度、「心のこもった気持ちのよいあいさつ」と相手を大切にする「聴き方」に重点的に取り組むことが出来たが、今後も引き続き、全教員があいさつの値打ちや大切さについて、学級などではもちろんのこと全校集会の場面でも、全教員が意思統一をし、自分たちの実践を通して啓発していく必要がある。
- 道徳アンケートの中での「自分にはよいところがある」の全校児童の肯定的意見が、昨年度79%から84%に上がっていた。ただ、6年生を対象に行った全国学力状況調査の質問紙によると、「自分に良いところがあると思う」という質問に対し、肯定的評価が72.3%と、全国平均よりも11.3%低くなっている。このことから、低学年の子どもたちはもちろんのこと高学年の子どもたちに対しても、全教職員が生徒指導の三機能「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」を意識し、人権の視点に立った一人一人が大切にされる授業づくりや、教育活動を通したコミュニケーション力の向上、他の人の立場になって物事を考えられる想像力の育成に向けた取組をこれからも実践していく。
- 「授業づくりも自分たちで、学級づくりも自分たちで、学校づくりも自分たちで」を合言葉に、学級力を活用した学級づくりに取り組んでいるが、子ども主体で活動する場面が少なかった。子どもたちが様々な教育活動に主体的に参画することができる機会を今以上に計画、実践し、「自立的」で「自律的」な学習者の育成を目指す必要がある。

越 知 中 学 校

研 究 同 人

校 長	須内 康雄	学習支援員	若月 秀子
教 頭	中野 聡美		徳弘 麻友子
教 諭	近澤 和司	ICT 支援員	高橋 秀幸
	足達 伸司	特別支援教育支援員	織田 京子
	安井 園未		藤原 茉白
	岡本 有生	学校図書館支援員	武智 克子
	伊藤 桃子	教員業務支援員	井上 蘭
	大石 裕也	用務員	尾碕 めぐみ
	和泉 早姫		
	中須 凌		
養護教諭	山中 理代		
総括主任	宮地 悦子		

～越知中学校～

R6 教科実践レポート

目 次

越知中学校グランドデザイン	P52
国語科	P53～54
社会科	P55～60
数学科	P61～63
理科	P64～66
英語科	P67～69
音楽科	P70～72
保健体育科	P73～82

令和6年度 越知町立越知中学校 グランドデザイン

【学校経営理念（ビジョン）】

地域の公立中学校としての使命感を持ち、教師が同じ価値観を共有し、組織的な取り組みを進める。また、生徒の学力保障に責任を持ち、「学び合い」が定着した学校文化を構築する。このようなことを大切にした学校教育を行うことで、将来を担い時代の変化を乗り越え高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り拓いていく生徒を育成する。

【学校教育目標】

「自己実現のために自ら学び続ける意志を持ち、様々な人と協働して主体的に社会に参画しようとする生徒の育成」

～社会人基礎力を育て、地域や日本、世界で活躍する人づくり～

めざす生徒像

知

自ら考え、主体的に学び夢や目標に向かって粘り強く挑戦する生徒

徳

人に優しく、多様性を認め合い、仲間を支えともに成長する生徒

体

心身に関わる確かな学びの上に、運動習慣を持ち、健やかな心と体を創り上げる生徒

研究主題 「生徒が主体的に学び、考えを深める授業づくりと
支持的基盤のある集団づくり」

今年度は、特に次の4つを取組の柱（重要課題）として学校経営を行います！

① 主体的・対話的で深い学びを実現する授業

- ◆「教科連携チーム会」【授業改善：価値ある課題や教材等の工夫・生徒がつながる言語活動と深い学び】
- ◆「小学校の財産」「授業スタンダード」を意識した生徒と教師が成長する授業づくり【見通し振り返り】
- ◆キャリア教育の視点で取り組む授業構成【学校での学びと社会とのつながり】 ◆国内英語研修

② 確かな（基礎基本）学力の定着

- ◆教科の課題、すららドリル等による家庭学習習慣の定着【AIドリルによる個別最適化の取組】
- ◆「全校おち学」による取組：学習支援員や特別支援教育支援員等との協働による実態に応じた学習対応

コグトレ：認知機能強化トレーニング

③ 支持的基盤のある学級・学校づくり

- ◆生徒理解の徹底【校内支援会やケース会・朝の職員間の情報共有・Q-U・生活アンケート・面談他】
- ◆特別活動や生徒会を中心にした仲間づくり【行事や体験活動を通して築く望ましい人間関係作り】
- ◆生徒の自尊感情と自己有用感の向上【学級活動・道徳授業・日常のボイスシャワー・メッセージカード】

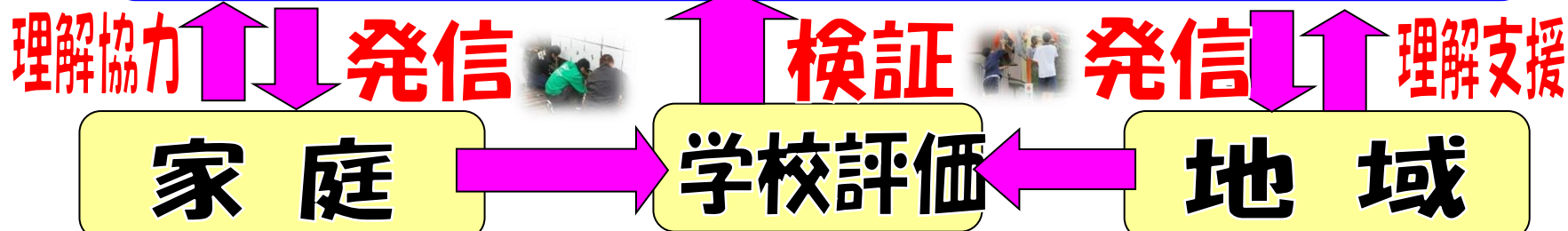
コグトレ：認知機能強化トレーニング

④ 連携・協働して学び合う学校づくり

- ◆通信やHP等による積極的な情報発信
- ◆連携教育の充実（こども園・越知小・地域・行政等）◆越知町学校運営協議会の開催
- ◆企業及び人材活用【ツムラ～越知の自然環境～・避難所開設運営訓練・職場体験学習から町への提言】

小中連携（小中連携教育推進）

越知町学校運営協議会



国語科テーマ

「総合的な学習の時間」と関連させた「国語科」の授業

「総合的な学習の時間」のテーマ

「越知町の豊かな自然環境を未来へつなげていくため～今、自分たちができること～」

I テーマ設定の理由

「総合的な学習の時間」の学習活動として行われる、情報を集める、調べる、まとめる、報告や発表するといった場においては、話す・聞く、書く、読むと言った能力が必要になってくる。これらは国語科として大切にしなければならない言語活動であり、「総合的な学習の時間」と言語能力の育成を目指す国語科との関連は大きい。

「国語科」で指導する基本的な知識や技能等が「総合的な学習の時間」において実際に働く場として活用されることで、より確かな力として定着することを期待してこのテーマを設定した。

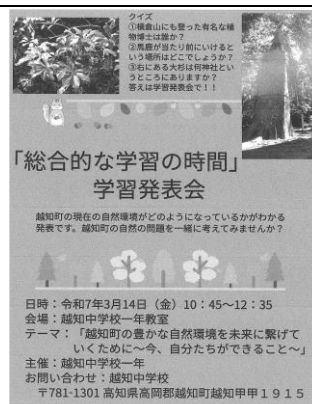
II 実践方法

知識や技能等の指導は「国語科」で、定着は「総合的な学習の時間」で行うことを基本的スタンスとしてワークシート等を用いながら取り組みを行った。

III 実践

1 学期	総合的な学習の時間	○越知の自然の魅力を発見しよう ・オリエンテーション ・連携機関（高知県林業環境政策課・越知町産業課・ヒューマンライフ土佐・ツムラ）からの講義 ・課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現 ・ラフティング体験 ・中間発表	
	国語科	単元名「調べて分かったことを伝えよう」 言語活動「越知の魅力」をレポートにまとめる 主な学習活動（調べ学習のスキル） ・情報の集め方を知り、図書資料やインターネットから知りたい情報を集める。 ・情報の客観性や正確性を確認する。 ・集めた情報を観点ごとに分類して整理する。 ・わかりやすく伝えるための構成を考える。 ・著作権に注意しながら、情報の引用の仕方を身につける。 単元名「中心を明確にして話そう」 言語活動「越知の魅力」を伝えるスピーチをする	「仁淀川からの被害と恵み」 1 テーマ 仁淀川は高知県の石鎚山を水源としている川で、全国一般河川の水質調査で過去7年全国で利用されている。また流域では紙の原料になるゴウジがたくさん栽培されていて、紙に少し仁淀川は川なので、いろいろな水害も起こっているかもしれない。実際に水害はあった利益と被害について知りたいと思いこのテーマを設定した。 答えの予想としては、仁淀川は人々に洪水、浸水のような被害を出していて、あゆなどのめるために「仁淀川からの被害と恵み」について調べてみることにした。 2 調査方法 インターネット 仁淀川のしおり 3 調査結果 (1) 仁淀川からの被害 仁淀川からの被害は主に水害で、戦後以降に24回洪水が観測されている。その中中島堤防越水が起り、「洪水による堤防法面崩壊、堤防亀裂、護岸崩壊等」他にで壊滅的な被害を受ける。仁淀川が浸水し、家屋被害全・半壊2128戸、床上浸水55を発生したり、放水路（トンネル）を整備したり、調整池を整備したりなど、仁淀川 (2) 仁淀川の恵み ①人への恵み 仁淀川の水は発電用水、水の安定供給、農業用水（稲田、吾南用水）、工業用水め、高知市の総使用量の約3分の1をまかなっている。その他にもキャンプ、水遊び、開墾する場所になっている。 ②生き物への恵み 上流域にはニホンモモンガ、ルンコウモリ、チヂボウモリなどがいて、清流部ゴ、タカハヤ（清流を代表する生き物）などがいる。源流付近にはシコクハコネサ中流域にはヒメ、イタチ、アナグマ、アカネズミ、ヒメネズミ、アオダイショウ、て、コロニウムクドリ、キジバト、ヒヨドリなどの休息場所、アユなどの産卵場などに (3) 私たちができること 私たちにできる簡単なことは、まず仁淀川に興味、関心を持つことだ。イベント川清流まつり、淀川トンガ祭り、仁淀川国断水切り大会、仁淀川親子ふれあいバに積極的に参加したり、淀川について学んだり（水生生物調査（仁淀川ガサガサ多物の観察会）して仁淀川の情報を得て広げることが大切であると思う。 4 考察 仁淀川からは洪水や浸水などの水の被害が人々も起こっていた。仁淀川からの恵る。私たちに恵みを与えてくれる仁淀川を未来に繋いで行くには仁淀川のことについて 5 参考資料 第2次仁淀川清流保全計画（改訂2版）（高知県林業振興・環境部環境共生課発行・https://www.mlit.go.jp/river/jiten（国土交通省） https://www.skr.mlit.go.jp/control（四国地方整備局）

		主な学習活動 ・相手意識、目的意識をもってスピーチの材料を選ぶ。 ・スピーチメモを作成する。 ・スピーチの練習（声の大きさ・緩急・間・表情等）をする。 ・スピーチの会を開く。
2	総合的な学習の時間	○越知の自然を体験しよう ・連携機関からの講義 ・横倉山フィールドワーク ・課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現 ・電子図鑑の情報保存 ・中間発表（文化発表会）
学期	国語科	単元名「案内や報告の文章を書こう」 言語活動「総合的な学習の時間」学習発表会のポスターを作る 主な学習活動 ・案内文の情報を分析する ・案内文の目的と相手を確認する（相手や目的によって情報や表現の仕方が変わることを理解させる） ・必要な情報を整理しポスターを書く
3	総合的な学習の時間	越知の自然を守るために自分たちができることを提案しよう（予定） ・課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現 ・学習発表



Ⅳ 今年度の検証（成果と課題）

実践をする上で心がけてきたことは、学びの有用性や必要性を感じさせながら、基本的な知識や技能等の指導は国語科で、実際に働く場として活用し定着させるのは総合的な学習の時間でいうことである。情報の取り扱い方やスピーチについては、課題設定からまとめまでのサイクルを授業と総合的な学習の時間において各2サイクルできたことで、徐々にではあるが「伝える」ことへの意識と技能に向上が見られてきた。

しかし、情報を読み取る力、選別する力、要約する力等、国語科として身につけるべき力はまだ弱く課題は多く残されている。

Ⅴ 次年度に向けた改善策

国語科で身につけるべき基本的な知識や技能等の力の定着を図りながら、その知識や技能を生かし使う場を多く設定していくことで、生徒たちの言語活動がより豊かになることを目指し実践を続けていきたい。

社会科テーマ

生徒が主体的・協働的に学び合い、確かな学力を身に付ける授業

I テーマ設定の理由

現代の社会科授業では、学習課題に対しての情報収集、収集した資料等の情報を基にした考察、考察を基にした学習課題に対しての答え（結論）を、自身の力や仲間との協働の中で学び取る力が求められている。コロナ禍以降、急速に学校現場での ICT 活用が進み、生徒が学習用具として ICT を主体的に活用できることが、現代の社会科の授業で求められている力を身に付ける上でも必要と考える。一方で、ICT 活用を進める中で、安易に答えだけを検索して学習を終わらせることで本質的な理解にならないことや、答えだけをグループで共有して活動が終わってしまう場面を、自身の授業や授業研などでも見かけるようになった。

そのため、ICT を活用しつつ、現代の社会科授業で求められている力を育成するために、「主体的・対話的で深い学びを実現する授業」「確かな学力の定着」の 2 つの視点を取り入れたテーマを設定した。

II 実践方法

(1) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業

ア 資料等の根拠を示した説明

イ 学年の状況に応じた学習形態の工夫

(2) 確かな学力の定着

ア 情報を比較したり関連させたりすることによる構造的な知識の構築

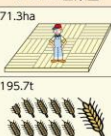
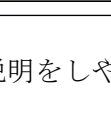
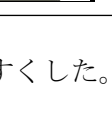
III 実践

(1) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業

ア 資料等の根拠を示した説明

社会科の学習の中では資料の活用が必要不可欠であり、資料の読み取りや、資料から得た情報を根拠にした説明をできるようになることが生徒の主体的・対話的な姿につながり、深い学びの実現につながる。そのため、授業の中で生徒自身が必要な資料を探すことだけでなく、ICT を活用して生徒に使ってもらいたい資料を教員が送ることで、資料を探すことが難しい生徒

も含めて全員が資料を活用できる環境を整え、資料を根拠にした思考や説明をしやすいようにした。

生徒に送った資料の例		
アメリカ合衆国と日本の農業の比較(2016年)		
	アメリカ合衆国	日本
1人あたり* の耕地面積 (ha)	71.3ha 	1.7ha 
1人あたり* の穀物収量 (t)	195.7t 	4.8t 
*農林水産省調査		

イ 学年の状況に応じた学習形態の工夫

学年によって生徒の学力や学習の状況が異なる。そのため、学年の状況に応じて、学習形態を工夫した。1年生は、1学期は個人思考の時間を長く確保して班での活動へ移行する学習形態をとっていたが、個人で考えることが難しい生徒が多かった。そのため、2学期からは活動の時間を20分程度まとめて確保し、個人で学習に取り組んだり、自由にグループを作ったり、疑問点や課題解決の方法を他の人に教えてもらいに行ったりするなど、学習形態の自由度を高くし、生徒が主体的に学びやすい環境を整えた。2年生は、学力差はあるものの、個人でも努力して考えようすることができる生徒が多いため、個人思考→班といった従来型の学習形態をとることで、自身の力を高めつつ、他の生徒との学び合いの中で分からなかったところを理解できるようにした。3年生は、全体的に学力が高く、個人でも十分に考えられる生徒が多いが、話し合い活動になると誰とでも話ができる人とそうでない人の差が大きいため、個人思考→自由に動いて構わない時間といった学習形態を取り、話し合ったり学び合ったりしやすい人と一緒に確認をしたり協議をしたりすることができる時間を確保した。

(2) 確かな学力の定着

ア 情報を比較したり関連させたりすることによる構造的な知識の構築や獲得した知識が実際に使うことのできる本当に理解した状態になるかどうかは、その意味と結びついているかどうかや他の知識とどのように関わっているのか（関連）、他の知識と何が違うのか（比較）といったように、他の知識（情報）と比較したり関連させたりする中で、獲得した知識そのものに意味付けがなされているかどうかが重要である。そのため、社会科の授業の中でも比較したり関連させたりすることの重要性を何度も説明したり、授業のめあての中に比較や関連に関わる文言を意図的に入れたり、板書を比較や関連が分かりやすいように書いたりするなどの工夫をした。

実際の授業の板書



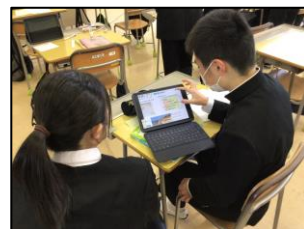
IV 今年度の検証（成果と課題）

（1）主体的・対話的で深い学びを実現する授業

ア 資料等の根拠を示した説明

授業の中では、4月から比べると、説明の際に資料を見せるだけでなく、ポイントとなる箇所を指で指し示したり書き込みをしたりするなど、資料を上手に活用している場面が多く見られるようになった。このことから、資料をどのように活用することが自身や仲間の学びを深めることにつながるのかを実感できた生徒が増加したと考えられる。

ICTを活用しながら、資料を根拠にして説明している様子



令和6年度高知県学力定着状況調査において、思考・判

断・表現の観点の問題の自校採点の正答率が、1年生で31.8%、2年生で44.5%であった。

1年生は、4月に実施した標準学力テストの思考・判断・表現の観点の問題の正答率が15.2%で、目標値と比較すると-4.8%、2年生は昨年度の高知県学力定着状況調査における思考・判断・表現の正答率が47.7%で、目標値と比較して-4%という結果であった。このことから、今年度の高知県学力定着状況調査の正式な結果や目標値はまだ分からない状況ではあるが、テストの数値の面で見ると、1年生は、4月よりは改善されたものの、数値そのものは低い状態であること、2年生は、数値そのものが低いというわけではないが、昨年度よりもパーセンテージは-3.2と下がったため、一定の成果はありつつも、課題も残されており、今後の改善が必要であると考えられる。今年度の高知県学力定着状況調査の結果が分かり次第、分析をし直し、改善策を考えて実行していく。

イ 学年の状況に応じた学習形態の工夫

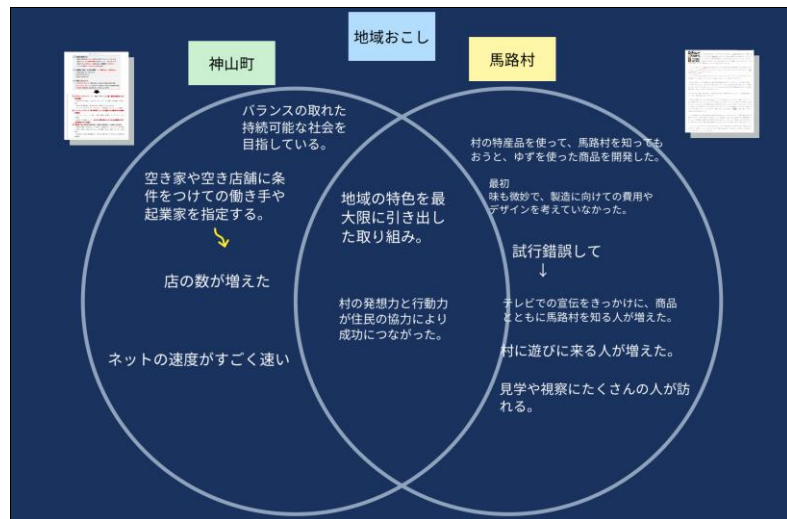
1年生については、1学期と2学期を比較すると、学習をする際の生徒の様子が大きく変化した。特に、グループを作っている仲間と資料を一緒に見ながら「この資料から～について分かるんじゃない？」「この2つの資料をみたら～ってこともいえるよね！」といったような、学習課題に対しての話し合いや情報共有がより活発に行われるようになった。2年生については、学力の高い生徒は自身の力で学習を進めることができるため、その分学力の中下位層の生徒には教員が寄り添いヒントを与えることができ、ターゲットを絞った学習支援につながった。3年生については、話し合い・学び合い活動が活発になり、その中で他者の意見を聞いて「そういった考え方も確かにあるよな～」など、自身とは違う新たな考え方に出会い、学びを深めている様子もみられるようになった。

(2) 確かな学力の定着

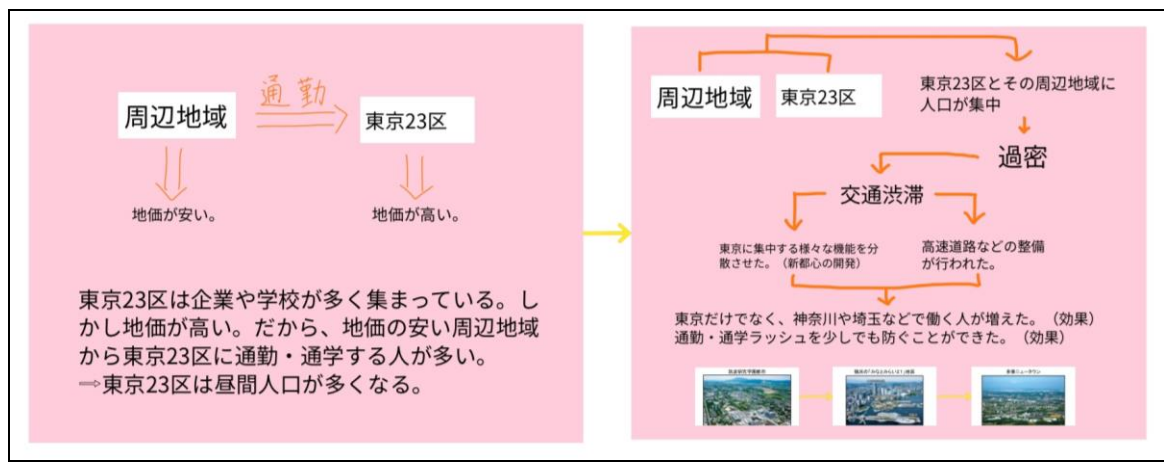
ア 情報を比較したり関連させたりすることによる構造的な知識の構築

授業において、収集した情報を比較したり関連させたりすることで、構造的な知識にする中で、構造化を視覚的に分かりやすくするようなまとめ方をする生徒が増加した。

生徒が作成した知識の構造化の例 1



生徒が作成した知識の構造化の例 2



令和 6 年度 12 月までに実施した主なテストの平均点・正答率は以下の通りである。

(不登校生徒は除く。高知県学力定着状況調査は自校採点の結果。)

	実力テスト		期末テスト		高知県学力状況調査
1 年	4 月	26.2	1 学期	30.6	全体…34.6 知識・技能…36.5
	9 月	54.4	2 学期	40.0	思考・判断・表現…32.5 記述式…13.1
2 年	4 月	31.3	1 学期	52.0	全体…38.5 知識・技能…35.0
	9 月	42.5	2 学期	48.2	思考・判断・表現…45.5 記述式…37.0
3 年	4 月	49.3	1 学期	60.1	
	6 月	35.6			
	9 月	46.2	2 学期	61.5	
	11 月	50.5			

この結果から、高知県学力定着状況調査においては、2 年生の思考・判断・表現の観点の正答率以外については厳しい結果となった。特に、知識・技能の観点における正答率が低く、基礎・基本の定着に課題がみられている。実力テストにおいては全学年ともに点数が向上している。期末テストにおいても、2 年生は 1 学期よりも 2 学期の点数が下がってはいるが、2 年生の昨年度の期末テストの平均点で最も高かった時が 35.8 であったことから、今年度は全ての学年で一定の成果が出たといえる。一方で、3 年生は実力テスト・期末テストともに一定の点数が取れているものの、1 年生については特に定期テスト、2 年生については特に実力テストの結果が良くなかった。

これらのことから、授業内での学習においては取り組みの成果がみられてはいるものの、その学習がテストの数値結果にはあまり反映されていない部分もある。今後も粘り強く能力ベースの力をつけ、学力調査の数値結果に反映されるような指導方法などの工夫改善による授業改善の取組の強化が必要だと考える。

V 次年度に向けた改善策

今年度の結果から、授業の中では生徒の成長した姿が良く見られており、テストにおいても一定の成果がみられている部分もある。一方で、1年生の思考・判断・表現の観点、1・2年生共通で知識・技能の観点で課題がみられた。そのため、もうすでに取り組んでいる部分もあるが、次年度に向けて、

- ア 毎時間の授業の中で、めあてと学習課題の中で、ポイントとなるところを生徒と確認をしてチェックを入れる
- イ テストにおける「設問」が授業の中での「学習課題」、テストにおける「解答の条件」が授業の中での「めあて」、テストにおける「自身の解答」が授業の中での「まとめ」にあたることを何度も確認をすることで、日頃の学習の中での考え方が実際のテストの際の考え方と結びつくことの意識づけを強くする
- ウ 知識・技能の未定着改善のため、毎時間の小テストで出題した問題やその他の重要語句等を授業の初めに確認する。また、小テストで間違えた問題については、授業外の時間で詰めをすることで定着を図る

の3つのことを実践し、来年度には現状の課題を改善できるようにしたい。

数学科テーマ

確かな学力を定着させ、その知識をもとに課題を協働して解決する
～学習形態の工夫と教材研究～

I テーマ設定の理由

数学科において、「日常の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察する力」「既習の内容を基にして、数量や図形などの性質を見いだし、統合的・発展的に考察する力」「数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力」が育成を目指す資質・能力として挙げられる。どの内容においても、既習内容を基に発展・活用・表現する力が必要であると考えられる。そこで、確かな学力を定着させることが、育成を目指す資質・能力につながると考えた。また、それを個人のみで考えるのではなく、協働して課題を解決することにより、表現する力やより発展した考えにつなげていくために、今回の研究テーマを設定した。

II 実践方法

基礎基本の定着、既習内容を活用し協働して課題を解決していくために、以下の4項目を実践した。

- (1) 毎日課題
- (2) グループでのプリント（復習）学習
- (3) 日常生活につながる課題設定から見通しを持った課題解決
- (4) 知識構成型ジグソー法（協働学習）

III 実践

(1) 毎日課題

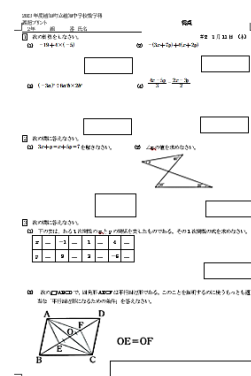
1・2年生は、入試に対応した計算問題に加え、既習事項で、学テ等において課題の多い関数の問題、また現単元の内容の基礎基本を中心とした復習問題、3年生においては、入試の過去問のうち、大問1として出題される基礎基本の内容を中心に家庭学習として毎日行った。内容は1週間、ほぼ同じような内容を出題することで基礎基本の定着を図った。

(2) グループでのプリント（復習）学習

学習内容を定着させる時間として、定期的に単元の復習をプリントを用いて、3人から4人のグループで教え合いをする活動を行ってきた。自分自身の理解はもちろん、友達に教える活動を通して、さらに理解を深めることに加え、数学的な表現を用いた説明ができるような工夫を図った。

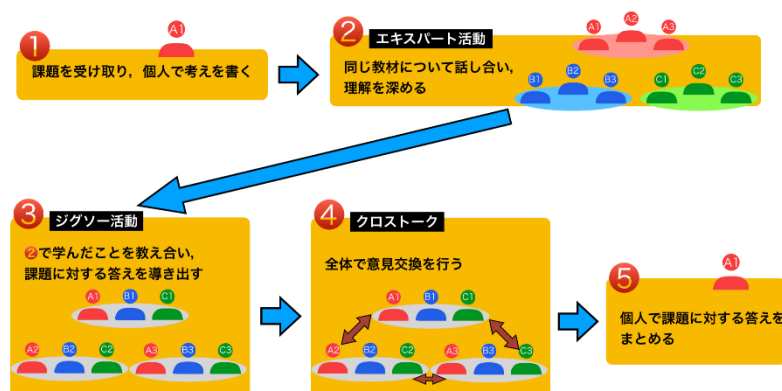
(3) 日常生活につながる課題設定から見通しを持った課題解決

各単元の活用で、既習事項をもとに日常生活とつながるような課題を設定した。その中で、どの既習事項が課題解決する上でどことどうつながるのか、アニメーション（動画）等を用いて、キーワードを引き出すような発問を設定し、見通しを持たせ課題に取り組ませるように工夫した。



(4) 知識構成型ジグソー法（協働学習）

ある問に対して、知識を一方的に教え込むのではなく、生徒同士が対話を通じて知識を深める協働学習を行った。



IV 今年度の検証（成果と課題）

(1) 毎日課題

【成果】 1・2年生においては、ほぼ同じような内容を1週間出題することである一定、基礎基本の定着を図ることができた。3年生においても実力テストにおいて、大問1の正答率が少しずつだが上がった。

【課題】 基礎基本はある一定力がついてきているが、実力テストや学力テストにおいて、文章題や立式などの応用問題については正答率がなかなか伸びない。

(2) グループでのプリント（復習）学習

【成果】 3人から4人の少人数のグループで教え合いをすることで、自分自身の理解はもちろん、友達に教える活動を通して、さらに理解を深めることができた。また、教え合いの中で数学的な表現を積極的に用いて説明しようとする姿がみられた。

【課題】 グループによっては学力差や人間関係等でスムーズに活動が行えず、理解を深められないグループもあり、個人思考で終わる部分があった。

(3) 日常生活につながる課題設定から見通しを持った課題解決

【成果】 課題解決のためのツールを発問を通して、見通しを持たせることでイメージさせ、スムーズに課題に取り組める場面が多くあった。

【課題】 課題解決のためのツールが分かっても、それをどのように活用したらいいのか分からず手が止まる生徒がいた。

(4) 知識構成型ジグソー法（協働学習）

【成果】 一人ひとりに役割があることで、自分たちで考えていくというところから興味関心を持って取り組むもうとする場面が見られた。

【課題】 エキスパート活動における課題の難易度が生徒の実態に合っていない部分があり、その内容を理解できていないことからジグソー活動においても答えまで導くことができていない。

V 次年度に向けた改善策

- ・毎日課題においては、文章題や活用問題の内容についても出題し、立式するための手立てとして、スモールステップで課題を考えさせる。
 - ① わかっていること、求めたいものにそれぞれ線を引かせる。
 - ② 数直線や表、ことばの式を用いて見通しを持たせる。
 - ③ ②をもとに、実際に立式させる。
- ・グループでのプリント（復習）学習では、グループでスムーズに学習に取り組めるようにするために、帯タイム（1・2分）を毎時間設定し、ペアやグループで問題を出し合ったり、考える時間を確保していく。理解が不十分な生徒については、T2もしくは学習支援員を活用し、グループ学習時に生徒の実態に応じた内容に取り組ませるなど学力の底上げを図っていく。
- ・日常生活につながる課題設定から見通しを持った課題解決においては、基礎基本の反復から定着を図り、その学習がどうつながっていくのかを授業や単元の導入等で話をする事でイメージを持たせやすくし、写真や動画、アニメーションを活用することで、視覚的な見通しから課題解決へとつなげる。
- ・知識構成型ジグソー法（協働学習）においては、課題内容の精選に加え、生徒の実態に応じたエキスパート活動の課題をヒントカードや穴埋めの問題にするなど難易度を変える。一人ひとりが考えを持つことができるようにし、ジグソー活動・クロストークでさらに考えを深められるようにする。

理科テーマ

「確かな学力の定着」に結びつく指導方法の開発

I テーマ設定の理由

理科授業においては、従来より問題解決型学習が行われてきた。現在の学習指導要領は、さらに探究の過程を重視したものとなり、理科授業においてもこれに基づいた科学的思考力の向上が求められている。しかし、探究の課題を重視することで、基本的な知識定着の反復学習や演習時間設定が困難になっている。そこで理科における研究の柱を、基礎的な知識・理解を念頭に置いた「確かな学力の定着」とした。

II 実践方法

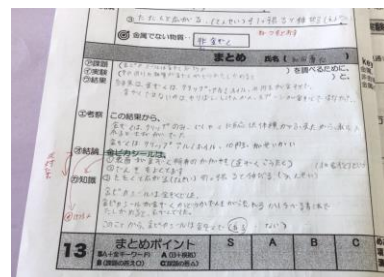
基礎的な知識・理解を定着させるために、以下の4項目を実践した。

- (1) 授業復習型まとめ
- (2) 課題ごとのステップ別演習
- (3) 試験クリア形式の基礎定着
- (4) 意味理解型の小テスト

III 実践

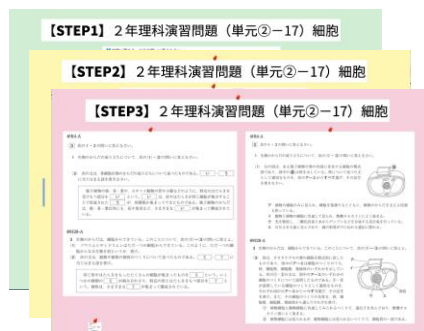
(1) 授業復習型まとめ

授業の流れを自分でまとめることで、身につけるべき知識と思考の流れを定着させる。低学力の生徒用に、ワークシートのどの部分を見れば良いのかを⑦～の記号で示し、書き出し文をつけることで授業の流れを自力で復習できるようにした。



(2) 課題ごとのステップ別演習

例年の課題であった演習量の不足を補い、学習内容の定着を図るため、ワークシートごとの演習問題を配布した。内容は学力差に合わせて、基礎的な内容から高知県の高校入試問題までの問題を選択できるようにした。



また、単元・期末テストには、この演習問題を中心に出题し、日々の演習の大切さと効果を実感できるようにした。授業の中ではステップ1（基礎）を全員で解き、ステップ2と3は任意で解くこととした。

(3) 試験クリア形式の基礎定着

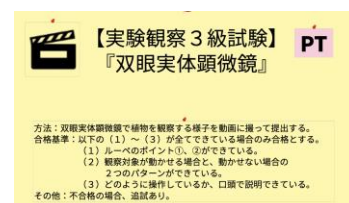
実験観察の器具の安全な使用は理科で身につけるべき大切な技能であり、高校入試問題にも毎年出題されているが、正確に操作できる生徒は少なく、定着率は高くない。そこで、実験観察器具については実際に



操作している様子を動画に撮り、「免許」取得試験形式で技能を身につけてもらうこととした。合わせて、薬品・作図・公式についても簡単な試験形式で意識付けを行った。

(4) 意味理解型の小テスト

理科の重要語句については、以前から小テストを実施してきたが、定着は不十分だった。また、採点と評定への反映に労力がかかっていた。今年はロイロの4択式テスト機能で意味理解を問う形式に変更した。また、2学期からは反復練習ができるようにテスト後に、使用した問題を配布している。



IV 今年度の検証（成果と課題）

(1) 授業復習型まとめ

【成果】1学期通して練習することで、ほとんどの生徒が授業の流れを自力で復習できるようになり、学習内容の定着に役立っていると思われる。また、2学期からは記号のないまとめ欄（自由記述）も選択できるようにしたことで、多くの生徒が自由記述のまとめに取り組み、探究の過程を意識したまとめができるようになってきた。

【課題】特定の生徒の提出遅れ、未提出が多い。1年生の記述内容が向上していない。

(2) 課題ごとのステップ別演習

【成果】期末テストでは、演習問題を解く生徒が増えたことで得点が上昇したと思われる。一定の成果が見られた。また、2学期からは宿題として全員が演習問題に取り組めるようにしたことで、授業内容の定着につながった。

【課題】演習問題に類似した問題を定期テストに出題しても解けていない生徒がいる（考えられる原因：そもそも宿題ができていない、宿題で誤答のままになっている）。

(3) 試験クリア形式の基礎定着

【成果】以前に比べて実験器具の操作について真剣に身につけようとする生徒の様子が見られた。操作実技テストを行うことで「見ているだけ」の生徒はいなくなった。

【課題】実際の実験場面では正確に操作できていない生徒もいる。実技テストに合格した生徒の半数近くが、しばらく後の実力テスト等では同様の問題を正解できていない。

(4) 意味理解型の小テスト

【成果】検証できていないが、ワークシートと連動させているため意識付けにはなっていると思われる。準備・実施時間の短縮と採点集計の自動化を達成できた。

【課題】小テストで正答率92%の問題が定期テストでは57%であり、重要語句の定着に結びついていない。

V 次年度に向けた改善策

従来から不足しがちであった基礎知識の定着に向けて、いくつかの方法でアプローチすることがで

き、一定の効果は見られた。しかし、期待した成果が出ていない取り組みもあり、改善・変更の必要も感じている。特に低学力層の生徒に基礎的な知識を定着させるには、今まで以上に丁寧な説明、反復練習する時間が必要である。問題はその時間を、今の学習時間の中では確保できない点にある。理科の授業においては、観察・実験は欠かすことのできない学習過程であり、自ずと残りの学習に割り当てられる時間も限られている。今後は、この限られた時間を最大限有効に活用できる学習方法を見出していくことになる。

まず、「(1)授業復習型まとめ」については、知識の定着に欠かせない授業内容理解に大きく寄与しているため、継続しつつ、特に1年生には他学年の記述例を参考にまとめ方練習の時間を設定し、家庭学習の方法を身につけさせたい。「(2)課題ごとのステップ別演習」については、これまで同様宿題として取り組ませるが、反復練習の必要がある問題については、授業中に演習時間を確保する。そのために、振り返りの共有・小テストについては当分カットする。「(3)試験クリア形式の基礎定着」は、観察・実験を学習の軸とする理科の授業にとっては不可欠だと考えられるため継続して取り組むが、合格基準を見直し、しっかり身につく内容に改善する。「(4)意味理解型の小テスト」については、効果が薄いことや演習時間の確保の必要から廃止とし、英単語の習得に利用されるペア学習のように、重要語句暗記をペアで短時間取り組む形式に修正していきたい。

上記の内容を生徒の基礎学力向上につなげるには、単元計画の見直し、授業タイムマネジメントの改善が必要であり、それが今後の授業改善の柱となると思われる。

英語科テーマ

「英語を使って、チャレンジすることを恐れない授業づくり」を通して、
英語への苦手意識の減少を目指し、学力の定着をスモールステップで行う

I テーマ設定の理由

英語の一番の特徴は、「言語」であることだが、本校のほとんどの生徒が英語に対する苦手意識を持っている。日本語とは違う言語で外国の人とコミュニケーションを図る一つのツールとして、文でなくても単語だけでも言葉や想いは伝わり、単語一つからでも想像し、質問の答えを見つけられることを知ってもらいたい。そんな思いからどんな場面においても、「目的・状況・場面を想像しながら話す」、「誰とでも英語を用いてコミュニケーションを図ることができる」ことで、間違えてもいい授業の雰囲気作りを意識し、英語への苦手意識を少なくするように行なった。同時に、知識・技能の定着、思考・判断・表現を見取る4技能を意識した単元テストの実施を通して、本校の研究の4つの柱の中から、「③支持的基盤のある学級・学校作り」と「②確かな(基礎基本)学力の定着」を目指すことにした。

II 実践方法

(1) 各学年、各単元で4技能に合わせた単元目標を設定。

※4技能とは「聞くこと」、「話すこと(発表)」、「話すこと(やりとり)」、「読むこと」、「書くこと」のこと

(2) 各単元で取り扱う4技能に合わせた単元テストの実施。

(3) クラス内でも違う人と交流し、コミュニケーションを図る。

(4) キーワードから話の流れを想像する習慣をつける。

III 実践

(1) 各学年、各単元で生徒の生活に身近なものを取り入れ、4技能「聞くこと」、「話すこと(発表)」、「話すこと(やりとり)」、「読むこと」、「書くこと」に合わせた単元目標を設定し、目的・状況・場面を変え、多面からイメージしやすいように設定した。

1年生

単元ゴール  (7時間)

鋭い感覚と思考を持った探偵オチダとして、問題を解決するために問題が書かれた怪盗DACHIOからの挑戦状を読み取り、解決して敏腕探偵になることができる。



「読むこと」ア

日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。

2年生

UNIT GOAL 

世界の曲、音楽を新しく知ることを通して、紹介の仕方を練習して、自分のことや友だちにことをさらに知るために、好きな曲のことや理由を、友だちや周りの人に紹介することができる。



書くこと (イ)

日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

3年生

UNIT GOAL 

物語の主人公になりきって、**世界の現状を合わせて考え、「もしも~だったら」と過去を振り返りながら、みんなのこれからの未来がよりよくなるために、みんな**で考えていくことができる。

話すこと【やり取り】ウ

社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

(2) 各単元で扱う4技能に合わせた単元目標に沿って、単元テストを実施した。ペーパーテストが苦

手な生徒はパフォーマンステストも苦手ということではないことも多く、そういった生徒を評価できるように取り組んだ。また、単元テストを行うにあたって、毎時間必ず帯活動で練習を重ねる時間を取り入れ、振り返りシートも記入するポイントを絞り、ゴールを意識しやすいものにして、スモールステップでゴールを意識させている。

[illegible][illegible][illegible]

(3) ペアとグループでの活動時間を作り、始まる時は「Hello」、終わりは「Thank you」ハイタッチなどを交わして、クラス内でも違う人と交流し、ヒントをもらったり、友だちの表現を知ったりして、コミュニケーションを図るようにしている。また、欠席者がいて、生徒のペアがない場合は、ALT や支援員、教員が入り、生徒とのコミュニケーション活動を行っている。

(4) ALT や CD、音声から得た単語(キーワード)を聞き取り、そのキーワードから話の流れを想像する習慣をつけている。また、ALT がいるときは、基本英語で説明を行い、補足を JTE が行うスタイルにしている。そうすることによって、「英語」を「聞く」ことに耳が慣れ、キーワードを聞き取りやすくなる。

IV 今年度の検証（成果と課題）

(1) 各学年、各単元4技能に合わせた単元目標を設定

【成果】単元目標を設定し、目的・状況・場面を変え、多方面からイメージしやすいように設定したことによって、どんな場面で使われているのかイメージしやすくなったため、その時と場合に
応じての返答ができるようになった。

【課題】目標が生徒の身近な生活に合っておらず、取り組み難いものになっている時があり、生徒の意欲が下がっていることもあった。4技能の中で、苦手とする技能があった場合に、意欲が低下し授業に積極的に参加できていない生徒もいた。

(2) 各単元の 4 技能に合わせた単元テストの実施

【成果】単元テストを行うことで、ペーパーテストが苦手な生徒はパフォーマンステストも苦手ということではないことも多く、そういった生徒を評価できた。また、単元テストを行うにあたって毎時間必ず帯活動として少しずつ、練習を重ねる時間を取り入れ、振り返りシートもポイ

ントを絞り、ゴールを意識しやすいものにして、スモールステップでゴールを意識させることで、文法の定着ができた。

【課題】単元テストに向けた言語活動を繰り返し行った単元の終盤になっても何をしているかわかっていない、文法の定着ができていない生徒がいた。

(3) クラス内でも違う人と交流し、コミュニケーションを図る

【成果】ペアやグループで活動する時間を作ることで、生徒間で文法の定着を図ることができ、友だちの表現を聞き、表現の工夫や仕方を生徒間で確認することができた。

【課題】コミュニケーションを苦手とする生徒がいる中で、生徒間での交流が難しいところがあり、そのことが生徒に負担をかけてしまっていた。また、生徒の中にはただ日本語で話をし、英語を使っていないところや、一つの会話が終わると友達とのおしゃべりの時間になってしまっていたり、ペアでの活動自体ができていなかったりしたところもあった。

(4) キーワードから話の流れを想像する習慣をつける

【成果】読む時や会話でも、キーワードを聞き・読み取り、テストでのメモも多くなった。そこから話を想像できるようになっていたり、聞き取れる単語が増えてきている。聞き取った後は必ずペアで確認の時間になっているので、そこで内容の再確認ができるようになっている。また、わからない単語はALTやJTEが簡単な別の英語の表現で表したり、ジェスチャーを使うなどして、英語を聞く時間や英語で何を言っているのか考える時間を増やすことができた。必要に応じて、日本語を使い、英語とのバランスを図ることもできた。

また、以前より全員が分かりやすい英語を使ったり、文法の語順を意識させたりすることによって、話すときやワークシートに取り組むときに前よりも文法が定着しやすくなった。

【課題】キーワードを聞き取れるような語彙が不足している。また以前より、英語を聞く時間や英語で何を言っているのか考える時間が増えたことによって、英語で何をいっているのか表現しているのかが分からず、授業がわからないという意見が1学期にはあった。そのため、授業では目標とする文法の語順をホワイトボードに貼り、以前より簡単で分かりやすい英語を使い、必要に応じて日本語を使用して、ペアやグループで確認する時間を多くとるようにした。

V 次年度に向けた改善策

各単元の目標の設定を生徒がイメージしやすいものを見つけ、設定していき、学年にもよるが、学力差の幅が大きいので、低学力層も単元テストでB評価が取れるように、ヒントカードの作成や語彙力の向上のために単語小テストを定期的に行なっていく、学力の定着を図っていきたい。単語の小テストを行うこと、そして、目的・状況・場面に合わせた文を作る機会を増やすことで、生徒間でもコミュニケーションを図れるようになったこと、誰とでも生徒同士で活動できる時間が増えたことが成果として挙げられるため、来年度以降も継続して行っていく。語彙力、文法の定着も合わせていくため、生徒間での教え合いが増え、より定着も図れ、定期テストでの点数の向上にも繋げられると考える。また、warm-upの時間で行なっている質問に対する答え方の確認をすることで、表現の幅を広げていく活動も続けて行い、「自分の知っている英語」で表現できるように声掛けも行い、学力の定着を図りたい。

音楽科テーマ

1. ロイロノートの共有ノートを活用した、主体的・対話的で深い学びの実現
2. アルトリコーダーの確かな演奏技術の定着
3. 主体的に学び、考えを深める手立てとしての、振り返りシートの効果的な活用法

I テーマ設定の理由

先ず今までの取り組みの中で何が不十分だったのかを、『研究4つの柱』と照らし合わせて考察した。1つ目はロイロノートの共有ノート機能の活用、これで「①主体的・対話的で深い学びを実現する授業」を目指した。2つ目はアルトリコーダーで躓いている生徒への支援、3つ目が振り返りシートの効果的な活用だった。この2つは「②確かな（基礎基本）学力の定着」（音楽は学力というよりも技術になる）を目指した。

II 実践方法

(1) 「ロイロノートの共有ノート機能を活用した、主体的・対話的で深い学びの実現」

ア、合唱の取り組みで、歌詞の意味を理解して音楽表現を豊かにするという狙いで、共有ノートに入れた歌詞のPDFファイルにグループで書き込みをさせた。その後、それを基に発表し合って全体共有した。

イ、全校合唱の時に共有ノートを使って良かったところや改善点、他学年の発表から学んだり気付いたりしたことなどを自由に書き込んでもらって学年内で共有し、それを基に各学年発表し合って全体共有を図った。

ウ、3年の鑑賞の授業で、「イメージに沿う選曲した楽曲を根拠をもって提案する」というめあてを達成するために、グループ活動でプレゼン資料作成に共有ノートを使用した。

(2) 「アルトリコーダーの確かな演奏技術の定着」

ア、個人のレベルに合った選曲。

イ、個別指導。（授業内）

(3) 「主体的に学び、考えを深める手立てとしての、振り返りシートの効果的な活用法」

ア、振り返りシートの項目の見直しや活動に応じた工夫。

イ、肯定的評価を加えての返信。

III 実践

(1) -ア-



[illegible]

(3)

合唱コンクールにのびての練習ねらい

学年	ねらい	指導者
1年	正座	山崎雅博
2年	流石 2分合唱	
3年	音階 津本 静	野田 浩一
4年		西田 実博

パート別

パート	ソプラノ	パートリーダー	合唱指導者
1年	山崎雅博	西田実博	山崎雅博

合唱コンクールにのびての取り組み

学年	ねらい	指導者
3年	流石 飛翔	山崎雅博
4年	津本 静	山崎雅博
5年	津本 静	山崎雅博

パート別

パート	ソプラノ	パートリーダー	合唱指導者
3年	山崎雅博	山崎雅博	山崎雅博
4年	山崎雅博	山崎雅博	山崎雅博
5年	山崎雅博	山崎雅博	山崎雅博

合唱コンクールにのびての取り組み

1. 合唱コンクールにのびての取り組み

2. 合唱コンクールにのびての取り組み

3. 合唱コンクールにのびての取り組み

4. 合唱コンクールにのびての取り組み

5. 合唱コンクールにのびての取り組み

6. 合唱コンクールにのびての取り組み

7. 合唱コンクールにのびての取り組み

8. 合唱コンクールにのびての取り組み

9. 合唱コンクールにのびての取り組み

10. 合唱コンクールにのびての取り組み

合唱コンクールにのびての取り組み

1. 合唱コンクールにのびての取り組み

2. 合唱コンクールにのびての取り組み

3. 合唱コンクールにのびての取り組み

4. 合唱コンクールにのびての取り組み

5. 合唱コンクールにのびての取り組み

6. 合唱コンクールにのびての取り組み

7. 合唱コンクールにのびての取り組み

8. 合唱コンクールにのびての取り組み

9. 合唱コンクールにのびての取り組み

10. 合唱コンクールにのびての取り組み

(1) ロイロノートの共有ノート機能は他の教科でも頻繁に活用されているので、生徒たちも慣れていてスムーズに導入できた。またそのツールの使用で主体的・対話的で深い学びにつながったかという点、グループ内での話し合い活動では意見も飛び交って活発にできていた。しかし、それぞれのグループが発表した後の全体でのそれは、意見に対しての質問も特に出ず、それぞれの考えを共有しているだけだったのが残念だった。

(3) 今年からスタンプ機能が追加されたことで次々と返信ができたし、気になるコメントには一筆添えて返信するように心がけた。振り返りの時間を授業内で確保したことにより、ほぼ全員がしっかり書けていた。また、合唱の取り組みでは取り組みの初日からの成長の様子を一目で確認できるように振り返りシートの様式を工夫した。

71

などは③支持的基盤のある学級・学校づくりにも通じていたし、鑑賞の授業での話し合いは④連携・協働して学び合う学校づくりにも通じていたと考えると、こうした音楽科の取り組みと日々の実践が研究主題である『生徒が主体的に学び、考えを深める授業づくりと支持的基盤のある集団づくり』に繋がっていることが確認できた。

V 次年度に向けた改善策

音楽は、1年45時間、2・3年35時間という非常に少ない時間で、音楽の楽しさ、魅力、感動を伝え、情操教育を行っていかなければならない。よい素材を用いて仲間と協働する（関わり合う）中で、また、高等学校で芸術科目を履修しない生徒もいることから、卒業後は音楽を授業で学ぶ機会のない生徒も存在することとなる。一生涯の中で音楽に関わり味わうことのできる、また心豊かな人間の育成の為にも、中学校の音楽科の授業で、いかに印象に残る授業を行うかが勝負である。

保健体育科テーマ

生徒が主体的・対話的に授業を受け、リーダーの成長を促す

I テーマ設定の理由

越知中学校の研究主題は「生徒が主体的に学び、考えを深める授業づくりと支持的基盤のある集団づくり」である。また、学校教育目標にも「自ら学び続ける・・・主体的に社会に参画しようとする・・・」という文言が記されている。この主体的という部分にフォーカスし、研究を行った。保健体育の授業を行っていく中で、質より量が大事になってくる場面やタイミングがあると考えている。特に体育分野の授業では生徒一人ひとりが主体的・対話的に取り組むことで技能の向上が図られる。また、技能のポイントや意識していることを具体的に言語化し、仲間へアドバイスを与えることで、その生徒自身の理解にも繋がる。こういったことの繰り返しで技能が向上していくので、主体的・対話的で深い学びをテーマに設定した。

II 実践方法

- (1) 動画を活用した外在的フィードバック
- (2) ロイロノートの共有ノートでポイントや動きを共有し、実践する

III 実践

- (1) 動画を活用した外在的フィードバック

iPad を使用し、自身の動きを確認 → 修正 → 実践 の繰り返しで少しずつ技能が向上していることを視覚的に確認でき、生徒自身のモチベーションにつながった。

しかし、どの単元で授業をしても、生徒の既に持っているイメージで運動をするか、怖がってできないパターンが多く、特に器械運動のマット運動や柔道の受け身では、頭ではポイントがわかっているが既にあるイメージや感覚が強く、本来の動きができないパターンにつながった。そういった生徒は自らの動きと見本の動きを何度も確認しながら、量をこなしていき、上達に向かわせることが大切だと学んだ。



- (2) ロイロノートの共有ノートでポイントや動きを共有し、実践する

ロイロノートの共有ノートはリアルタイムで全生徒の iPad に配信できるので、上手くできている生徒の動きを全員で確認するなど、生徒に中間評価をすることで、ポイントを再確認でき、主体的な活動につなげる。また、生徒の動きを確認しながら各グループで話し合う場面を設けて、対話的に仲間の意見を聞き、言語化することで、その生徒自身の運動理解にもつなげる。



Ⅳ 今年度の検証（成果と課題）

成果

・教科委員中心に授業の流れや動画を送っておき、生徒主体で動く授業を少しできた。教員が動かす授業はスムーズに淡々と進んでいくが、リーダーの育成にはつながらない。生徒自身が主になり、指示していくことで、授業を受けている生徒の活動も活発で、主体的になった。また、iPad を活用して外在的フィードバックを行うことで、自身の改善点を見つけることができ、次の運動ではそこを意識して行うなど、主体的に授業に参加できた。

・共有ノートで生徒の動きやポイントを全体共有することで、授業自体がスムーズに進み、なおかつ生徒の学習意欲の向上につながった。（仲間のできるなら私にもできる等）

課題

・生徒主体で動く授業では進度が遅かったり、大事なポイントを伝え忘れていたりすることがあった。授業前に、教科委員との打ち合わせをもっと細かく行い、スムーズに大事なポイントを伝えられるようにする。

・動画を撮影する時の撮り方がバラバラで、上手く撮影できているグループと上手く撮影できていないグループで、フィードバックに差があった。撮影のポイントや場所などをもっと具体的に指示させるようにしないといけないことを学んだ。

・学期に1回体育委員が変わるので、上手くリーダーの育成ができずに教科委員が変わることがある。

Ⅴ 次年度に向けた改善策

教科委員の育成を目指し、1学期2学期など、教科委員が変わるまでの間に授業の準備から進行、振り返りまで行えるようにする。そのためにも、3年生の授業や、合同体育委員会を持ち先輩からの指導を受ける時間を設ける。また、1年生が入学してくるので、新2年生は後輩へのアドバイスもできるようにする。

iPad を使用した授業を行う前は撮影方法や場所の確認をし、効果的なフィードバックができるようにする。

保健体育科テーマ

自己評価とフィードバックを通して運動有能感を高める ～メディアポートフォリオの効果的な活用～

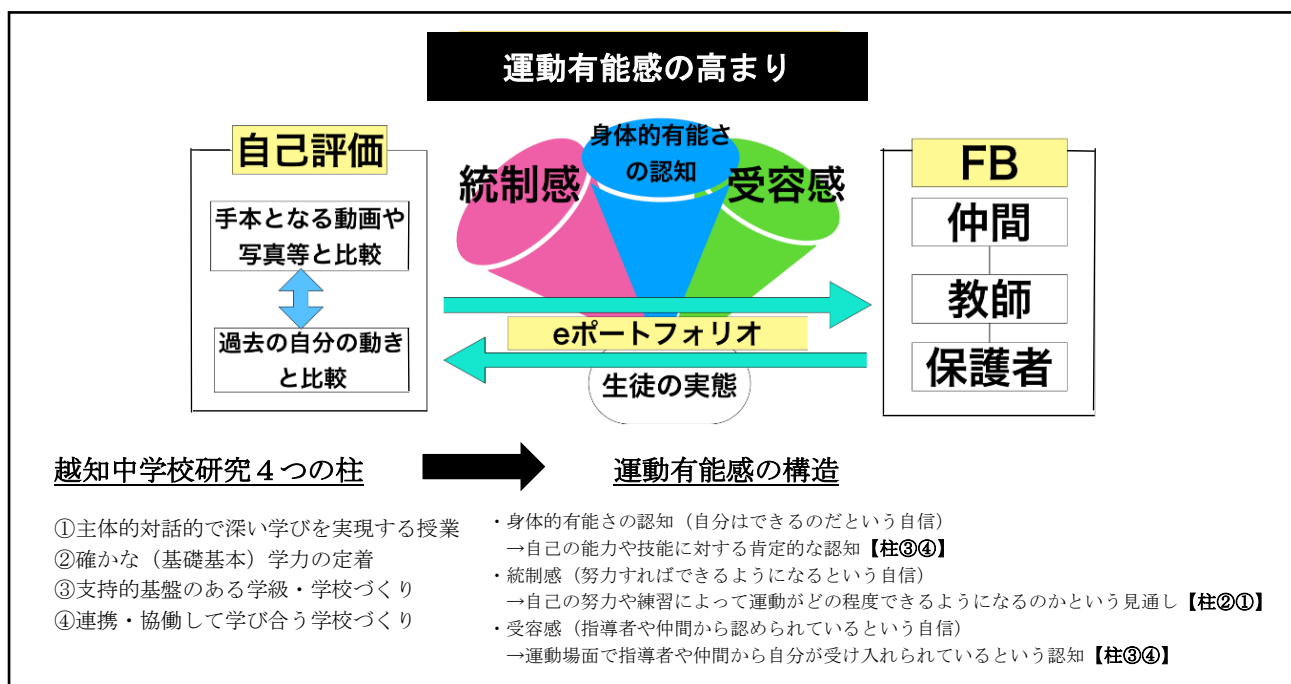
I テーマ設定の理由

越知中学校の今年度の学校教育目標は、「自己実現のために自ら学び続ける意志を持ち、様々な人と協働して主体的に社会に参画しようとする生徒の育成（社会人基礎力を育て、地域や日本、世界で活躍する人づくり～）である。

学校教育目標の実現に向け、生徒が自分の価値を認識し、かつ他者の価値も尊重でき、よりよい社会の担い手となることができるよう、自信を持って成長していくための環境づくりに取り組む必要がある。このことから保健体育科は、まず運動有能感を高めることをテーマとして設定した。自己肯定感や自己有用感は複雑で変化の激しいこれからの社会において、多様な他者と協力し、自分の良さや可能性を見出し、よりよく生きていくための土台として欠かせないものと考えた。

他者との関わりを通して、自分を価値あるものとして受け入れる感覚（他人の役に立った、他人に喜んでもらえた）を身に付けさせるために、ポートフォリオを活用して、撮影した動きと手本となる写真等や過去の動きと比較して自己評価させたり、撮影した動きを基に仲間や教師、保護者がフィードバックを行ったりすることで、①身体的有能さの認知②統制感③受容感に作用し、運動有能感が高まるであろうと考えた。

※運動有能感の構造を越知中学校研究の柱へ位置づけることとする。（下記参照）



II 実践方法

(1) 生徒アンケート（4月・12月実施）

①キャリアアンケート ②保健体育意識調査 ③運動有能感調査

(2) メディアポートフォリオ（単元ごとに実施）

①保護者からのコメント ②生徒の振り返り ③仲間の評価

Ⅲ 実践

(1) 生徒アンケート (4月・12月実施)

① キャリアアンケート

4月に実施したキャリアアンケート(中学3年生を対象)では、「社会に出た時に体育授業で学習したことが役立つと思うか。」という質問項目に対して、「必ず役に立つ」と回答した生徒の割合は37.5%であった。将来の見通しを持ち授業に向かえるよう、単元ごとに学習の目的と意義を明確に示すなどの手だてを講じ、社会に出た時に体育授業で学習したことが「必ず役に立つに立つ」と実感させる体育授業の実践に注力した。学習したことを実生活に直結させるためには、キャリア教育の視点で、社会に出た時に体育授業で学習したことがどのように役立つかを保健体育授業の中で科学的根拠を示し理解させたことを知識として深めさせ、実践に繋げていくという授業構成に力を入れた。取組については、下記の内容を年間を通して系統的に行い、キャリア教育実践の促進につなげた。将来の目指す姿を明確にさせた上で現状を把握しメタ認知させ、自分を高めていくために必要なことを計画的に実践していくというPDCAサイクルで単元を通して学びを深めていく。

取組① 年度当初にキャリアシートの作成

取組② 単元開始前に単元終了後に目指す姿の具体を考え授業前に相互確認を実施

保健体育授業で学習したことが社会に出た時に必ず役に立つと確信を持って、今私はこんな取り組みをします！

【私が保健体育授業で学んだキーワード】

1 健康の保持増進 2 生涯スポーツ 3 生活習慣の予防・改善
4 体育委員としての健康教育の推進 5 リーダーの資質・能力
6 自己管理能力 7 礼儀とマナー 8 人に感謝する気持ち
9 相手を思いやる気持ち 10 集団行動の意義 11 健康の意義
12 人との繋がり 13 プロセス(過程) 14 社会人基礎力(発信力)

【現状】
自分ができる家事が増えてきたり、自己管理が以前よりもできるようになっている。けれど、早く寝る努力をしていなくて、睡眠時間が十分に確保できなく寝不足の日が多い。朝も目覚めが良くなく、スッキリ起きられない。

【将来の姿】
自分自身の行動や考えに保健・体育の授業で学んだことを結びつけられるようになりたい。

取組① (体育館通路に掲示)

社会に出た時に役立てる☆
単元終了後の『私の目指す姿』

せりよくぜんよう 精力善用 ①1人1人が努力して身に付けた力を良い方向に生かすことができる。

私達3年生は、受験生だから一人一人が学習した知識などを分からなくて困っている友達に積極的に教えたり、そして自分が分からない問題は友達に聞いたりして、全員で頑張っていきたい。

じ た きょうえい 自他共栄 ②仲間を思いやりお互い切磋琢磨して目標に向かって前向きに取り組める。

第一志望校に合格できるように、毎日受験勉強を行ったり、テストの点数を同級生に負けないようにしっかりと勉強に取り組んでいきたい。けれど、受験はチーム戦なので3年生全員が志望校に合格できるように、全員で受験勉強を頑張る。

取組② (体育授業用ボードに掲示)

②保健体育意識調査

a. 運動をすることは大切か。

R5 年度全国体力・運動能力調査生徒質問紙(現3年)の結果(R5. 7月実施)

【越知中】 男子: 肯定的回答…100% (強肯定 40%) 否定的回答… (0%)
女子: 肯定的回答…92% (強肯定 50%) 否定的回答… (8%)

【全国】 男子: 肯定的回答 91.7% (強肯定 66%) 否定的回答… (8.3%)
女子: 肯定的回答 84.8% (強肯定 48.7%) 否定的回答… (15.2%)

b. 中学校卒業後、自主的に運動したいと思うか。

R5 年度全国体力・運動能力調査生徒質問紙(現3年)の結果(R5. 7月実施)

【越知中】 男子: 肯定的回答…100% (強肯定 40%) 否定的回答… (0%)
女子: 肯定的回答…78% (強肯定 7.1%) 否定的回答… (21.4%)

【全国】 男子: 肯定的回答 86.1% (強肯定 59.4%) 否定的回答… (13.9%)
女子: 肯定的回答 76.4% (強肯定 41.9%) 否定的回答… (23.6%)

令和5年度全国体力・運動能力調査生徒質問紙(R5. 7月実施)の回答によると、女子の肯定的回答が、やや低い数値を示した。否定的回答をした生徒に対して、「今後どのようなことがあれば自主

的に運動をしたくなると思うか。」という質問に対し、「技がうまくできるようになったら。」「自分のペースでおこなうことができるようになったら。」と回答をした。背景には、運動に対する不安感や自信のなさ、他者から認められる経験が少なく自己肯定感が低いことが考えられる。

生徒は「できる・できない」の結果にこだわり、動きの手順の意味や役割を確かめずに活動に入ることから、一回一回の動きの中で変化する感覚を確かめながら、生徒自身が次の動きのイメージを持って、徐々に可能性を高めていけるような授業展開をしていく。その中で、達成や克服を実感させるスキルを身につけさせる。具体的な手立てとして、①できる感覚と出会うためイメージをつくり身体と対話する②身体の現状と課題を理解するために図解を活用する③つまずきの原因探しは、感覚・視覚・協働学習をヒントにすることとした。(参考文献：鈴木直樹)

①できる感覚と出会うためイメージをつくり身体と対話する

「できた！」という感覚に出会うことが生徒にとっての喜びであり、体育での教科目標の達成につながる。わからない動きには不安が伴い、怖さもあり、チャレンジする勇気さえ生まれない。不安を取り除くために、じっくりと自分の感覚と向き合い、慎重に力を加える動きを繰り返して行くことで、感覚を見失わずに動きづくりができるという安心につなげていく。丁寧にゆっくり、じっくり確かめていく動きの変化が、できる感覚となり、不安や怖さの克服につながる。

②身体の現状と課題を理解するために図解を活用する

動きづくりの中で、自分はできているのかどうかは感覚だけではわかりにくいこともある。どの程度まで課題をクリアしているのかを理解するためにも運動の一連の動きを図解で確認していくことが有効であると考えている。それぞれの段階での動きづくりのポイントと、自分のからだ感覚を照らし合わせながら、到達点を明確にしていく。また、起こりやすいつまずきも共有しておくことで、課題への取り組みもわかりやすくなる。また、図解に頼りすぎること、動きがぎこちなくなることも予想されるため、動きづくりでの呼吸の役割にも着目する。動きの初動では息を吐くことや型を決める、留める時は、息を留めているなど、呼吸がスムーズな動きづくりの助けになることも押さえることで、リラックスした活動につながる。身体の現状を理解し、自ら課題を設定していくことが意識的な活動と動きづくりの達成感になる。

③つまずきの原因探しは、感覚・視覚・協働学習をヒントにする

できない感覚は、外側から指摘するより自分自身がよくわかっているものである。できていないことはわかっている、なぜできないのかは、なかなかわからないものである。以上のことから、生徒がつまずいている時こそ逃さず「どういう感じ？」と声がけをし、自分ごとへと導くチャンスをつくる。自らの身体に問いを持つことから「できる」に近づけていく。また、動画や写真、タブレット端末の使用も有効であることから、協働学習を併用することで、互いのつまずきへの気づきにつなげ、学びを深めさせていく。励まし支え合うことの期待と「できる」に出逢えた時の感動は自分ごと以上の喜びにつながると考える。できる・できないの評価の中で委縮してしまうことを避け、できることを繰り返しながら少しずつ変化し、できる感覚に出逢うために自分のからだ感覚を頼りに、明確な指導と安心な授業空間が保障されることが達成や克服を実感する学びになると考える。

③運動有能感調査

鹿毛雅治氏（1990）は、「評価主体と評価基準が内発的動機付けに及ぼす影響」を明確にしている。自己評価が他者評価よりも内発的動機付けを高め、評価基準に関しては、相対評価が内発的動機付けに負の効果をもたらし、個人内評価が内発的動機付けを高めると述べている。以上のことを踏まえ評価する主体が生徒であるという自己評価が内発的動機付けを高める上で重要であると考えた。

身体的有能さの認知を図るアンケート項目は、すべての質問項目に対して、否定的回答が多く自己評価が低いことが明らかとなった。課題解決方法が選択できなかった生徒の多くは、運動の上達感が低いといえる。このことから自己評価をする場面において、より課題解決方法の選択をしやすくするために、手本となる動画を提示し一連の動作のイメージをもたせた上で自己評価をさせた。また仲間からのフィードバックによって課題解決方法の選択や、運動の上達につなげさせた。

統制感を図るアンケート項目で「努力さえすればたいいの運動は上手にできると思うか。」という質問項目に対して、否定的回答をしている生徒は、他人と比較してしまうという理由が多かったため、過去の自分と比較してどれくらい伸びたのかで分析していくようにと比較対象は他人ではなく自分に置くように助言を入れた。

受容感を図るアンケート項目で「運動をしているとき、先生は励ましたり、応援したりしてくれる」という質問項目に対して、否定的回答をした女子生徒一人にスポットを当て、授業内で必ず1回以上の肯定的ストロークと矯正のストロークを入れた。また、a同様、仲間からのフィードバックの方法の一つとして見学者用の振り返りシートに肯定的フィードバックと矯正のフィードバックをさせる枠を追加し、生徒間でのコミュニケーションの機会を増やすことを目的とし、直接的フィードバックに加えて、授業者が意図的にロイロノートアプリケーションで送信したり、共有をかけたりにすることで相乗効果につなげさせた。（下記参照：見学者用振り返りシート）

振り返り めあて：大内対りのポイントを理解しよう。

まとめ：1・2・3のリズムで相手の内側を「の」を置くようにする。

練習前・中間検証の動画 → 練習後の動画

仲間（ ）さんへの
肯定的フィードバック
ペアとの中間検証の時にできなかったことを話し合い、リベンジの動きに挑戦して2の時に、さんが足を出す時外側をさぐらずに、練習として、さんと「こうしたらいいか？」などわからないことをペアに聞いて練習を改善しようとする動きが2人ともみられたので良かったです。

矯正のフィードバック
1・2のリズムは素早く置かれたけど、1・2・3の時の3のリズムで置かなくていい。→受を倒しやすくなる。この技に陥らず動きが高くなることで次の技への連絡が早くなる。

【課題】
・受の足が広がり、
・足踏の足が着いていない
・受けと足の距離が近い
・1・2のリズムが速い

【改善策】
中間検証の時、iPadで自分の動画をみて茂木先生をもとに分析する。

【成果】
・受けの足の幅が広がった。
・受けと足の距離も近くなった。
・1・2・3のリズムがうまく取れるようになり、技の連絡ができるようになっていく。

↑ 統制感 ↑ 身体的有能さの認知 ↑ 受容感 ↑ UP!

振り返り めあて：正面から体落としへの技の連絡をスムーズにできるようにしよう！

まとめ：正面から体落としへの技の連絡をスムーズにできるようにしよう！

練習前・中間検証の動画 → 練習後の動画

仲間（ ）さんへの
肯定的フィードバック
さん
下がったり、進んだりする時つむらさんが受けをしながら、コミュニケーションをとることで、スムーズに次の技に連絡することができるようになっていたので良かったです。

矯正のフィードバック
次は、掛け声なしにスムーズに前に進んだり、さっかたりできるようにしたいですね。

【課題】
受けの最初の下がる足が反対で取と噛み合っていない。

【改善策】
中間検証の時、iPadで自分の動画をみて茂木先生をもとに分析する。

【成果】
足の出し方がスムーズにできるようになっている。

↑ 統制感 ↑ 身体的有能さの認知 ↑ 受容感 ↑ UP!

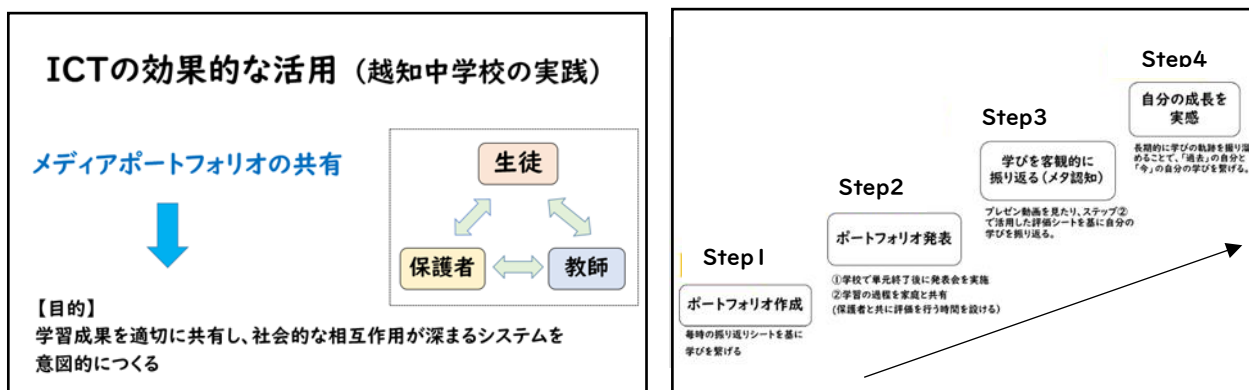
（2）メディアポートフォリオ（単元ごとに実施）

この取組の目的は二つあり、一つ目は、学びをフィードバックすることで、できなかったことができるようになる過程の中に自分の努力や仲間のアドバイスがあることに気づき、運動有能感の向上につなげさせることである。二つ目は、ポートフォリオをプレゼン作成から発表までこれまで蓄積した学びをつなげていくことで適正に自己評価をして自分自身の成長をより実感できるようにすることである。

具体の取組として、単元ごとにメディアポートフォリオを作成して、学びの共有を行う。

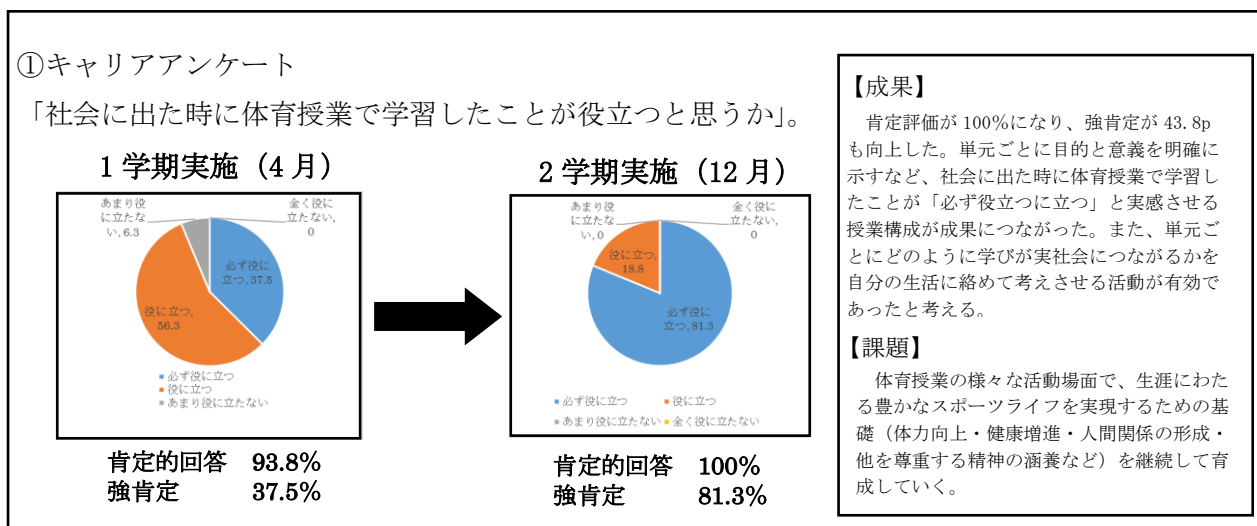
（生徒⇄生徒 生徒⇄教師 生徒⇄保護者）ポートフォリオ作成後の発表会では他者に伝えるという過程を通して、自身の学びをより具体的に振り返らせる。取組を実践していく中で、単元ごとに

運動パフォーマンスなどのデータが蓄積されることで、自分自身が、何ができている何ができいていないかを明確に知る。メタ認知した上で自分や仲間との分析を通して、PDCA サイクルで技の習得に向かうという学習過程を共有することで自分の成長を実感することで自信につなげていく。



IV 今年度の検証（成果と課題）

（1）生徒アンケート（4月・12月実施）

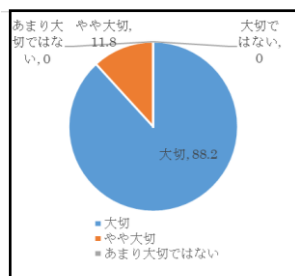


肯定的回答をした生徒の理由

- ・スポーツの重要性などを授業で学ぶことができ、スポーツをすることで身につく力などを私生活や受験勉強などに取り入れることができるから。礼儀や思いやりなどが必ずつく。体を鍛えて将来に役立てたい。
- ・体育の授業では、体育の技術だけでなく、体育理念や健康のためにはどうすれば良いのかなどを学習することができるから。
- ・保健体育の授業では、運動面や技能面だけではなく、自分の健康などについても学んだので、社会に出た時にも自分自身の自己管理能力が役に立つと思ったから。
- ・体育の授業では体力だけでなく、友達や先生と協力したり、課題発見力などの力も身につくから。
- ・具体的な課題に対して、複数人で改善していくので他の人の意見も聞くことができるから。それは、社会に出た時も同様に課題に対して積極的に考える力が身につくから。
- ・身体能力の向上・技能習得だけでなく、相手を思いやる気持ちなどを高めることができ、社会に出た時に必要な力が身につくから。
- ・授業を通して様々なスポーツに触れ合えたり、学んだ専門的な知識をこれからの高校生活や日常生活で活かしたりすることができるから。
- ・自立した時に、自己管理能力が大事だったり、お年寄りになっても心身の健康のためや人と繋がっていくために体を動かすことが大事になってくるから。運動するときに仲間と協力したり、安全面に気を付けて取り組むことはどんな場面でも役に立つと思ったから。
- ・保健の授業で学習した傷の手当の仕方や生活習慣のことなどが役に立つと思ったから。
- ・自分の動きを動画で見て課題で出たところは改善したり、周りに伝える力（発信力）は大人になっても周りの状況を見て発信したり、自分の考えを伝えることができると思うから。
- ・保体の授業で使っている社会人基礎力はこれからの社会に役立つと思ったから。

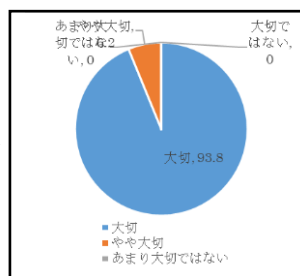
②保健体育意識調査 a. 運動をすることは大切な。

1 学期実施 (4 月)



肯定的回答 100%
強肯定 88.2%

2 学期実施 (12 月)



肯定的回答 100%
強肯定 93.8%

【成果】

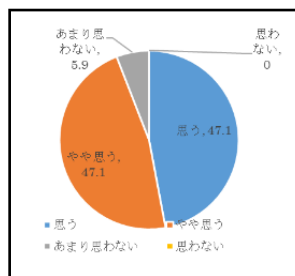
1 学期では肯定的回答（やや大切）と回答した生徒 1 名が（大切）と強肯定群に入った。運動の取り組み方を論理的に考えていく学習形態を大切に、自分の生活と絡めて「なぜ大切か」ということを掘り下げて考えていくことで新たな気づきがあったのではないかと考える。

【課題】

逆に 1 学期強肯定（大切）と回答した生徒が（やや大切）と少し評価が落ちていく。今後は、知識の共有を図る時間を単元ごとにとることで、意識づけにつなげる。

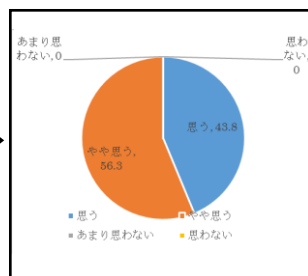
②保健体育意識調査 b. 中学校卒業後、自主的に運動したいと思うか。

1 学期実施 (4 月)



肯定的回答 94.0%
強肯定 47.1%
否定的回答 5.9%

2 学期実施 (12 月)



肯定的回答 100%
強肯定 43.8%
否定的回答 0%

【成果】

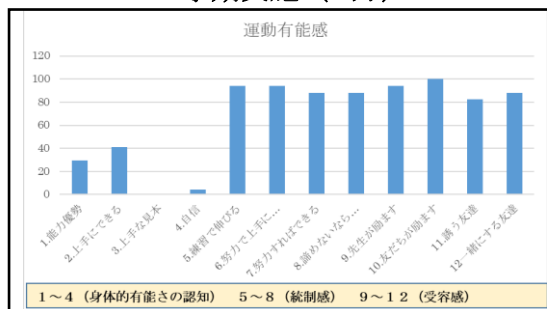
肯定的回答をした生徒の理由として、「健康に生活ができるようになるから。」という数値が最も高かった。健康教育の観点を大切に授業を継続的に取り組んだことが成果につながったと言える。また運動に対する不安や自信のない生徒の手だてを含め、個々のペースを大切にスポーツの関わり方を伝えることができたことにより否定的回答者が 0 になったのは成果である。

【課題】

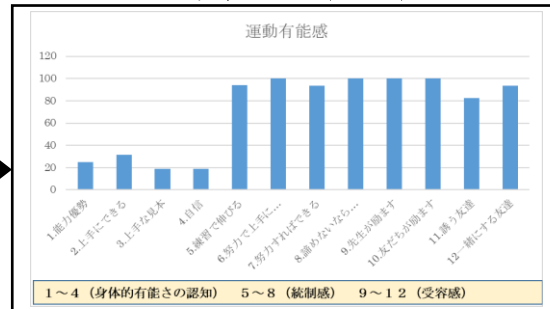
肯定評価は、100%であったが、1 学期強肯定の数値が下がっている。今後は、卒業後の運動習慣の形成が心身の健康保持増進のためには必要であることを実生活に結び付けて考えさせていく時間を確保する。

③運動有能感調査

1 学期実施 (4 月)



2 学期実施 (12 月)



【因子別分析】

〈身体的有能さの認知：1. 2. 3. 4〉 運動が上手にできるという認知を表す

4 月：20.6% 12 月：23.5% (+2.9p)

〈統制感：5. 6. 7. 8〉 練習したり、努力したりすればできるようになる認知を表す

4 月：91.1% 12 月：96.9% (+5.8p)

〈受容感：9. 10. 11. 12〉 教師や仲間から受け入れられているという認知を表す

4 月：91.1% 12 月：94% (+2.9p)

(1) 各単元終了後のメディアポートフォリオ（単元ごとに実施）

※少人数グループに編成し、1人7分程度の発表時間とする。

5時間目 【投げ技の連続 腰車→体落とし】
めあて 腰車から体落としの連続技がスムーズにできるようにする。
まとめ 腰車から体落としの連続技は、緩急をつけて相手に技を掛けることが大事。

自らの学習成果を振り返りながらポートフォリオにしておく。毎時の振り返りシートを繋げて、分析しながら学びを整理していく。次回につなげるために新たなことを自ら調べる活動が反転学習にもつながる。

柔道の単元を通して

精力善用では、学校生活や部活動を通して身に付けた社会性（挨拶、礼儀、マナー、相手への思いやりなど）を、今部活動に体験で来ている小学生に伝えていきたい。

自他共栄では、今ある環境（自分が取り組みたいことに協力してくれる人がある）に感謝の気持ちを忘れず、高校生活に向けての準備を頑張っていきたい。

柔道授業で学習したことを具体的に実生活にどのように活かしていきたいのかを自分の現状に合わせて記載する。

ポートフォリオの発表の様子である。複数のグループに分かれて行う。単元での学びの履歴を伝えていく。プレゼン発表している様子を動画でも取り、自身で客観的に評価をする。

パフォーマンス課題 ルーブリック表 【評価の色】 ①計画・準備 ②実践・実行 ③振り返り・評価

評価	計画・準備	実践・実行	振り返り・評価
A 5	計画・準備が十分に行われており、実践・実行もスムーズに進んでいる。	実践・実行がスムーズに進んでおり、振り返り・評価も丁寧に行われている。	振り返り・評価が丁寧に行われており、今後の学習に活かしている。
A 4	計画・準備が十分に行われており、実践・実行もスムーズに進んでいる。	実践・実行がスムーズに進んでおり、振り返り・評価も丁寧に行われている。	振り返り・評価が丁寧に行われており、今後の学習に活かしている。
A 3	計画・準備が十分に行われており、実践・実行もスムーズに進んでいる。	実践・実行がスムーズに進んでおり、振り返り・評価も丁寧に行われている。	振り返り・評価が丁寧に行われており、今後の学習に活かしている。
B 2	計画・準備が十分に行われており、実践・実行もスムーズに進んでいる。	実践・実行がスムーズに進んでおり、振り返り・評価も丁寧に行われている。	振り返り・評価が丁寧に行われており、今後の学習に活かしている。
C 1	計画・準備が十分に行われており、実践・実行もスムーズに進んでいる。	実践・実行がスムーズに進んでおり、振り返り・評価も丁寧に行われている。	振り返り・評価が丁寧に行われており、今後の学習に活かしている。

ポートフォリオ発表時のルーブリック表である。①主張と根拠②構成と話し方③質問への回答を5段階に分けて自己評価と他者評価したものをもとに返す。その評価を受け、次時につなげる。

プレゼン発表後に必ず2人が質問をすることをルール化している。質問者は事前に割り振りをしておく。プレゼン発表の内容を聞きながら質問をかためていく。（下記詳細を記載。）

～振り返りの視点～

① プレゼンに対する成果と課題
【成果】 ※3つ以上（具体的に）
 ①練習前と練習後の動画で伝えたいポイントにマークを付けることができた。
 ②技の大事なポイントをキーワードを使って発表できた。
 ③礼儀や挨拶と大きな声で聞き取りやすいように発表をした。

② スライド作成や学習内容に対する成果と課題
【成果】 ※3つ以上（具体的に）
 ①練習前と練習後の動画を有効活用することで、振り返りに活かすことができた。
 ②動画を分析していく中で大事なポイントが整理できたため、振り返りに活かすことができた。
 ③練習後に練習後の動画を効果的に活用して振り返りを示すことで、理解を深めることができた。

【課題・次回に向けて】（具体的に）
 自分が一番伝えたいところを強調して伝えることができていなかった。
 →「ここを一番聞いてほしい」という部分は相手の目を見て訴えかけるように話す。

生徒の振り返りシート。①プレゼンに対する成果と課題②スライド作成や学習内容に対する成果と課題について具体的に振り返らせ、次単元に繋げさせる。

Q

Tさんは、礼儀やマナー人に感謝する気持ち、相手を思いやる気持ちが柔道に直結するといっていました。私は、どう直結するかわからないので、Tさんの考えを聞かせてください。

A

はい、私は、柔道をするときに使わせてもらっている柔道場にしっかり感謝をすること、そして柔道は一人では技を習得することはできないので対戦相手や柔道を教えてくれる先生にしっかり感謝の気持ちをもつことが大事だと思います。そして投げられるのは痛いけど、相手が技を覚えてくれるからと思いやりの気持ちをもって練習にとりくむことが大事だと思っています。

○成果と●課題

○動画を分析していく中で、大事なポイントを整理できたため、技能習得に向けて修正をかけていくことができた。

（生徒Aの振り返り）

○練習前と練習後の比較を動画内に書いて着地点を示すことで理解を深めることができた。

（生徒Bの振り返り）

○単元Aを通して今の自分にどう繋がるのか、これからの自分にどう繋げていきたいのか、わかりやすいプレゼンだった。単元Aを通して何を習得できたのが明確になっていた。（保護者より）

○単元を通して、生徒一人一人が先のことに見通しを持ち、日常生活ですぐに実践する具体を考え、行動に移せる生徒が増えた。（授業者より）

●分析時、専門用語が瞬時に出てこないことが多かったので知識の定着が不十分だと感じたことから専門用語をしっかり落とし込んだ後に実践に繋げていき出来るようになるまで反復練習をしていきたい。（生徒Aの振り返り）

●プレゼン時、自分が一番伝えたいところを強調して伝えることができていない。抑揚がない。聞き手に「ここを一番聞いてほしい」という部分は相手の目を見て訴えかけるように話す。（生徒Aの振り返り）

●プレゼンの内容に対する質問者が固定されていたので、途中役割分担で全員が必ず発表するよう役割形式に切り替えたが、その役割がなくても自ら発表内容に対する質問が瞬時にわきでお互いが学びを深められるよう、日頃の授業から工夫を凝らしていきたい。（授業者より）

V 次年度に向けた改善策

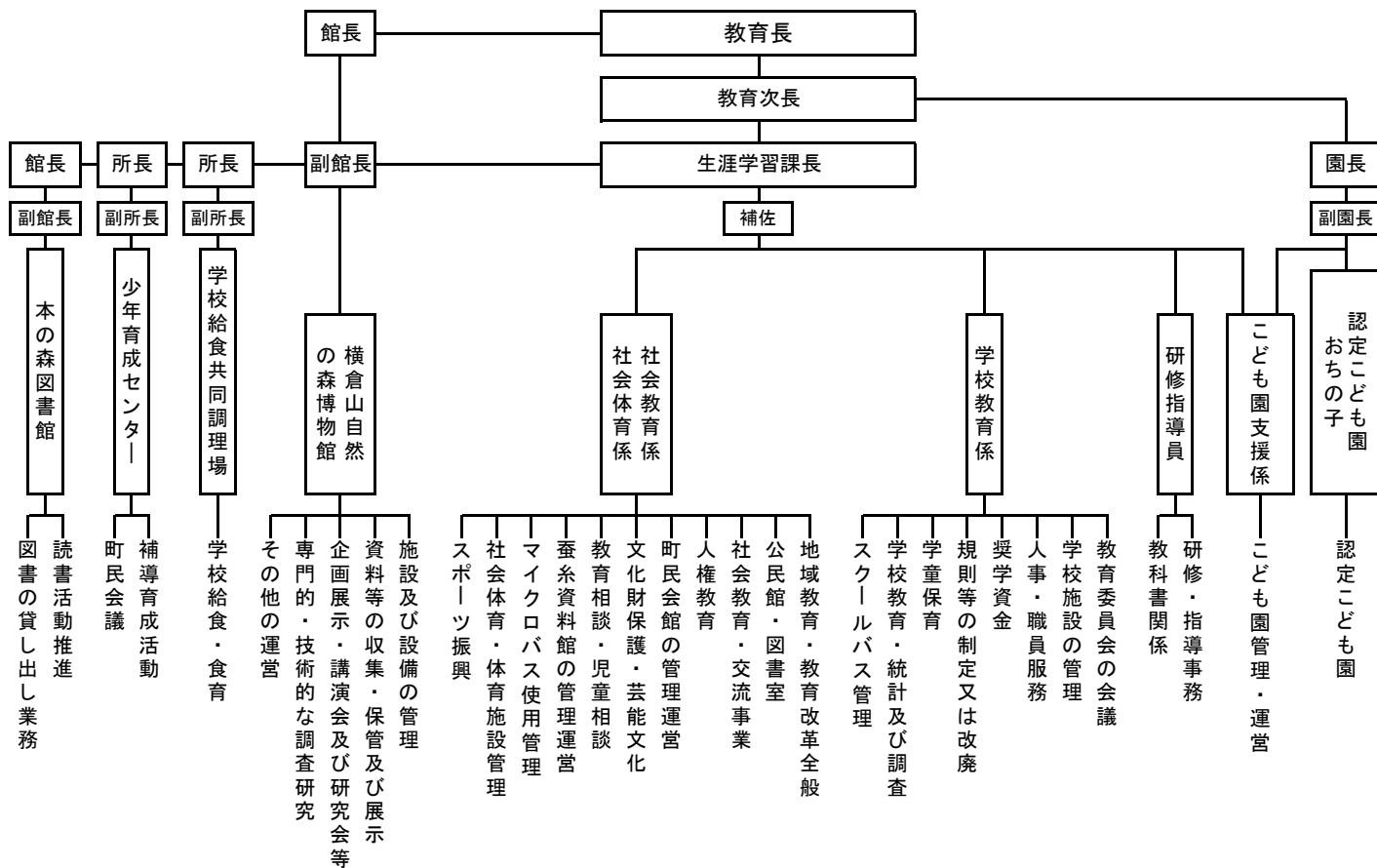
第4期高知県教育振興基本計画の「体」の項目において測定指標にもなっている質問紙「中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思うか。」について、昨年度の結果、(R5.7月アンケート実施)肯定的評価89%に対し、今年度は、(R6.12月アンケート実施)肯定的評価100%と数値が向上した。肯定的回答の中でも強肯定の数値は、43.8%と半数に満たない結果であったため、卒業後に自分の健康のために自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う生徒を増やす方法を模索していきたい。具体案として、生涯スポーツの観点から、スポーツへの様々な関わり方「する・みる・支える・知る」を尊重し、ICTの活用などを通して、体育の授業へ多角的な視点での参加ができるような取り組みを行う。また、子どもたちが生涯にわたって心身の健康を保持増進するためには、卒業後の運動習慣の形成が必要であることから、今後、運動領域と保健領域、体育分野と保健分野との一層の関連を図った指導を心掛け、生徒が運動と健康との関係性を深く理解し、より実生活に活かしやすくなるよう努める。生涯にわたって生活をする上での基盤となる基本的生活習慣の確立に係る測定指標も新たに設定されていることから、次年度は、健康教育の観点で「保健体育の授業で学習したことに気をつけた生活を送れているか。」という質問項目を追加して研究を進めていく。

運動有能感調査を行うことで、個々への効果的なアプローチについて研究を深めることができた。失敗不安が低下すれば受容感が向上するが、一方で失敗不安が向上すれば受容感が低下するという関係でもあることが示唆される。例えば、体育授業で試合や競争において失敗・敗北体験が嵩むと生徒の不安感や恐怖心が増長されるのではないかと考える。そのような生徒は、「自分はすぐに失敗するし、グループやチームにとって負ける原因だ。」と感じてしまい、きっと自分は周囲から受け入れてもらえないという判断に至るのではないかと考えられる。もちろん、試合や競争では失敗も敗北も体験することになり、間違ってもそれらが不要な体験であると考えてはいけない。大切なのは、失敗や敗北に対して極度な不安感や恐怖心を煽らないような工夫が必要になるということである。つまり、技能や技術が習熟・定着するような授業を展開すると、技能や技術の習熟・定着に至る努力過程がないため、失敗したのは低能力を意味し、自分ではどうすることもできなくなり、不安傾向が増強されるのではないかと考えられる。しかし、技能や技術の習熟・定着に至るまでの過程を重視することができれば、仮に試合や競争の結果が失敗や敗北でも、技能や技術の改善、練習方法の見直しを考えるきっかけとなり、次の成功を目指した活動になるため不安傾向は軽減するのではないと思う。これは、学びを蓄積しながら学習過程をフィードバックし、自分の成長を実感させるメディアポートフォリオの取り組みに関連させている。互いに学習過程を共有し合い、称賛をいれながら自分自身を高めていくというメディアポートフォリオの相互評価が、受容感を高める。また、生徒同士の相互評価に効果がある。対等な立場での他者の視点を取り入れることで自己評価が効率よく進む。評価する立場になることで、仲間の動きやアイデア、グループ活動を活性化させる関わり方など、よさを見つける力や、仲間に関心を持ち、大切に思う態度が高まる。今後も相互評価を意図的に入れて生徒の省察する力を育てていきたい。

次年度以降も引き続き、ポートフォリオで学習成果を適切に共有し、社会的な相互作用が深まるシステムを意図的につくっていききたい。また、家庭や地域の方へメディアポートフォリオを介して生徒の成長を報告し、多角的なアプローチにより、生徒自身が獲得することのできる運動有能感の向上に繋げていきたい。

町 教 育 行 政

教育委員会機構図



教育関係予算

令和6年度越知町一般会計予算(12月補正後)
内教育費予算(12月補正後)

5,743,601 千円
659,982 千円

1. 教育予算
9款

単位：千円

項	目	予算額
1 教育総務費		120,530
	1 教育委員会費	929
	2 事務局費	58,549
	3 通学対策費	13,154
	4 義務教育振興費	47,898
2 小学校費		33,770
	1 学校管理費	17,765
	2 教育振興費	16,005
3 中学校費		71,985
	1 学校管理費	60,520
	2 教育振興費	11,465
4 認定こども園費		221,063
	1 認定こども園費	221,063
5 社会教育費		107,338
	1 社会教育総務費	79,019
	2 公民館費	13,028
	3 文化財保護費	288
	4 少年対策費	333
	5 地域教育推進費	6,480
	6 図書館費	8,190
6 保健体育費		85,893
	1 保健体育総務費	4,646
	2 町民運動場費	15,036
	3 学校給食費	66,211
7 高等学校費	1 高等学校費	2,739
8 交流事業費	1 交流事業費	16,664
合	計	659,982

2. その他の予算

一般會計

単位:千円

款・項・目	目 の 名 称	予算額
2・1・8	町民会館費	12,999
3・2・2	学童保育費	11,686

特別会計

単位:千円

会 計 名	予算額
蚕糸資料館事業	230
横倉山自然の森博物館事業	39,591

3. 基金

(令和5年度決算)

単位:千円

基 金 名	現在高
越知町教育基金	3,568
越知町育英基金	11,862
片岡育英基金	12,540
片岡給付型奨学金基金	9,862
小田原育英基金	36,447
越知町蚕糸資料館事業基金	50,017
越知町横倉山自然の森博物館事業基金	21,769

令和6年度越知町教育行政の教育の方針

基本理念 越知を愛し、自然とともに心豊かでたくましく創造性に満ちた人づくり

本町は、今なお残る山・川・里等の豊かな自然を生かしたまちづくりを推進してきております。多世代で自然に触れ「遊び」「学び」「楽しみ」を通して人間力を高め、安心・安全に健やかに暮らせる地域であり続けるために、人口が減少し、社会の状況が大きく変化する中であっても、本町を愛し、誇りに思い、「住んで良かった、これからもずっと住み続けたい」と願う、本町の未来を担う人づくりを目指します。

基本方針

1. 持続可能な地域の創り手、担い手の育成

- 将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが地域の創り手、担い手となり、持続可能な地域を維持・発展させていく人材の育成
- 主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定・解決能力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

2. 個人が幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域が幸せや豊かさを感じられる状態の向上（ウェルビーイングの視点）

- 幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、自己肯定感自己実現等を調和的・一体的に育む
- 生涯学習・社会教育を通じて、地域コミュニティを基盤としてウェルビーイングの視点を実現

基本目標

(1) 安心で信頼される幼児教育・保育の充実

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であります。

遊びや生活の中で、子どもの「楽しい」「やりたい」などの意欲を大切にし、子どもたちが将来の社会を生き抜く力として必要となる「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他者とつながる力」と整理される非認知能力に着目し、幼児教育・保育の環境構成の改善、充実に取り組みます。

(2) 自律して学び続けられる知・徳・体の調和のとれた生きる力を育む学校教育の充実

変化が激しく、将来の予測が困難な時代の中、知・徳・体の調和の取れた「生き抜く力」を身に付けられるよう、持続可能な地域の創り手、担い手となることができるよう、自律（自己管理や自己指導能力を持ち、計画的に行動する能力）して学び続けられる学校教育の充実に取り組みます。

(3) 家庭・こども園・小中学校・地域・福祉が連携して越知の子どもを育む環境づくり

家庭・こども園・小中学校・地域・福祉が連携・協働することにより、地域社会との様々な関わりを通じて子どもたちが安心して活動できる居場所づくりや、安全で安心できる子育て環境を整備するとともに、家庭及び地域の教育力向上に取り組みます。

(4) 自然、文化、歴史を通して生涯学び続けられる環境づくり

子どもや若者、社会人、高齢者など年齢を問わず学び続け、生涯学習を通じて自らの向上、地域や社会への貢献の意欲を持ち、地域社会の担い手となれる人材育成の環境づくりに取り組みます。

基本目標	施策の柱
(1) 安心して信頼される 幼児教育・保育の充実	① 幼保連携型認定こども園おちの子の充実（非認知能力を育む幼児教育、保育の質の向上） ② 子育て支援センターの設置 ③ 園の情報化（ICT の活用） ④ 園施設整備の研究検討
(2) 自律して学び続け られる知・徳・体の調和 のとれた生きる力を育む 学校教育の充実	① チーム学校の強化 ② 基礎学力（知識）を育み、主体的・対話的で深い学びの視点による全ての児童生徒が活躍する授業 ③ 情報教育の充実（ICT の更なる活用、情報研修、デジタル教材等） ④ 外国語教育の充実 ⑤ 豊かな心の教育の推進（人権教育、道徳教育、読書活動） ⑥ ふるさと教育、体験活動の充実 ⑦ 体育、食育の推進 ⑧ 特別支援教育の推進 ⑨ いじめ・不登校等生徒指導体制の充実 ⑩ 安全・安心な教育環境の充実 ⑪ 教職員の働き方改革の推進 ⑫ 学校施設整備と併せた小中一貫教育の研究検討
(3) 家庭・こども園・小 中学校・地域・福祉が連 携して越知の子どもを育 む環境づくり	① 家庭の子育て力向上のための啓発・支援 ② こども園、小学校、中学校の連携強化（0 歳から 15 歳までの子どもの発達や学びを円滑に接続） ③ 越知町連携教育推進委員会の充実 ④ 子どもの居場所づくり（学童保育クラブの充実、家庭と学校との中間的な場所の設置検討） ⑤ 人権教育の推進 ⑥ 教育相談、就学指導、要保護児童対策の充実 ⑦ 学校運営協議会の充実 ⑧ 就学、進学支援の充実 ⑨ 青少年の自立と社会参加への支援
(4) 自然、文化、歴史を 通して生涯学び続けられ る環境づくり	① 持続的な地域コミュニティづくりの推進 ② 多様な学習機会の提供 ③ 読書活動の推進 ④ 生涯スポーツの推進 ⑤ 文化、芸術活動の推進 ⑥ 文化遺産・文化財の保護と継承 ⑦ 横倉山自然の森博物館の魅力強化と活用

令和6年度越知町教育委員会の主要施策

(1) 安心で信頼される幼児教育・保育の充実

	施策の柱	施策(取組)	評価指標(KPI)
①	幼保連携型認定こども園おちの子の非認知能力を育む幼児教育、保育の質の向上	基本的な生活習慣の確立を目指しながら、子ども達一人一人の発達や家庭状況も踏まえ、保護者も子どもも安心して登園できるこども園を目指す。 県(幼保支援課・教育センター)・国公立幼稚園こども園会・町指定の教職員研修、外部講師の招聘、先進地視察等の支援を継続し、教職員の資質、指導力向上を目指すことにより、子ども達の非認知能力育成への理解を深める。	3歳児で基本的な生活習慣の確立(排泄・着脱・食事・睡眠・遊び)【早寝早起き朝ごはん】の取り組み(年間2回～3回)その後、結果の報告や表彰状を配るなどして啓発活動を年2～3回する。 【研修後の報告書提出】 園内の公開保育を毎年3回以上行う。また、国公立幼稚園会の研修・幼保支援課・教育センターの研修に該当者は参加し、保育教諭全体の資質向上を図る。
②	子育て支援センターの定着と充実	主に未就園児がいる家庭に対して、子育ての情報提供・相談・交流の場を提供することで、保護者の育児に関する不安や孤独感の解消を図り、未就園児の居場所として気軽に訪れてもらえるようにしていく。また、再開から、定着できるよう各所に働きかける。 環境の良い旧越知幼稚園の園庭をこども園の子ども達がバスや徒歩で散歩に訪れ、園庭を活用する。 また、支援センターに訪れた親子が、園児の様子を見たり交流したりすることで、こども園や子どもの成長について興味や理解をできる場にしていく。	安定的な開所、福祉センターとの連携、子育て相談、定期的に事業(月2回以上実施)を行い、実績報告をする ・3、4、5歳児がバスで移動し、園庭を利用する(年12回) ・天気や気候の良いときには、散歩場所にとりいれて活用していく
③	園の情報化(ICTの活用)	職員が先進地への研修や小学校への見学・授業参観に参加するなどして、学校のICT化の実態を知る。またこども園等で進んでいる園を研修し、自園に何が取り入れられるかを検証していく。 幼児教育・保育の質の向上を図るためには、子どもの遊びや生活の中での幼児理解が何よりも大切。そのためには、ICTによる写真や動画等を活用し、客観的、多面的に子どもの育ちの振り返りをしながら明日の保育に生かしていくことが重要です。また、こども園での学びを保護者に理解していただくように、情報を発信し、園と家庭の双方で子ども達を育てていく。	Wi-Fiやタブレット等を導入し、職員がドキュメンテーション等、教育・保育に活用できるよう、こども園に合ったICTを整備する。 ・越知小学校でのICTの活用を授業参観等で学ぶ。 ・先進地に研修に行く。 ・職員がICTを活用するために、全職員の技術向上をはかる(すぐるの活用から始める)。 クラスの手紙で、子ども達の様子を伝えるコーナーを設け、「その活動で子ども達がどんな学びをしているのか」を合わせて伝えていく。園での遊びの様子や活動の写真を乗せるなどして視覚的にも分かりやすい紙面を目指す。 幼児組(3.4.5歳児)のドキュメンテーションの発信(毎月1回)園からの手紙は基本すぐるで流す。
④	園施設整備の研究検討	こども園おちの子の園舎(現保育園舎)は、昭和50年建築で老朽化が進んでいる。将来の園児数及びICTの活用等を見据えた園施設の整備が必要と考え、同様の課題がある小中学校施設と併せて施設整備の研究検討を進めていく。	町として整備の検討ができるように研究を進めていく。 教育委員会内で協議会を立ち上げ、新設された保育施設等の視察を行う。

(2) 自律して学び続けられる知・徳・体の調和のとれた生きる力を育む学校教育の充実

	施策の柱	施策(取組)	評価指標(KPI)
①	チーム学校の強化	全教職員が学校の目標や課題を共し、方向性を合わせて取り組むため、教職員が参画して学校経営計画を策定し、PDCAサイクルを回しながら組織的に学校運営に関わる。 資質の向上や生徒指導の充実を目指して、教職員同士が主体的に学び、指導力を高め合うことのできる研修を数多く設定し、学びや気付きを共有するなど、学校全体で組織的に取り組む。	・児童生徒の姿や地域の現状に関する調査や、各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している【学校経営計画】年度末評価B以上(概ね達成している)
②	基礎学力(知識)を育み、主体的・対話的で深い学びの視点による全ての児童生徒が活躍する授業	タブレット端末アプリやデジタルドリルを活用して、児童生徒の学習状況を把握し、基礎学力を定着させるために、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな学習指導・支援体制を充実させる。 各種学力調査の分析結果や児童生徒の振り返りもとに、具体的な手立てを明確にし、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善に取り組む。	・各種学力調査(全国・県・町)における学力に課題の見られる児童生徒の割合※【本町分析】 小15%未満 中15%未満 ※正答数分布の状況から正答数の高い順に概ね25%区切りで、区分Ⅰ、区分Ⅱ、区分Ⅲ、区分Ⅳに分けたとき、区分Ⅳの割合を「学力に課題が見られる児童生徒の割合」とする。 ・「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合【全国学力・学習状況調査】 小85% 中85%以上
③	情報教育の充実(ICTの更なる活用、情報研修、デジタル教材等)	「情報モラル教育実践ハンドブック」等を活用して、児童生徒にデジタル社会における情報の適正かつ安全な利用やICT機器の使用と健康との関わりへの知識を確実に身に付けさせる。 個々の学習状況や理解度に対応した最適な個別指導の実現に向けて、1人1台タブレット端末やデジタルドリル教材を効果的に活用した授業改善を進めている。また、タブレット端末持ち帰りによる授業と家庭学習のサイクル化が定着している。	・教員の児童生徒のICT活用を指導する能力に対する肯定的な回答の割合【学校アンケート】 小90% 中90% ・9年間を通じた小中連携カリキュラムの作成【令和10年度】 ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」に対して、2時間以上の児童生徒の割合【全国学力・学習状況調査】 小30% 中40%
④	外国語教育の充実	中学校教員による小学校への乗り入れ授業により、教科書で扱われている学習内容や評価の方向性について、小中学校担当者間で共有する。事前の学習指導案検討や授業参観後の研究協議を行い、ALTの効果的な活用を含む授業改善や工夫につなげる。	・小中教員による乗り入れ授業を実施 ・CEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合【実用英語技能検定】 50%以上
⑤	豊かな心の教育の推進(人権教育、道徳教育、読書活動)	人権教育主任が管理職と連携し学校の中心となり、人権課題に関する校内研修及び授業研究(研究授業、事後の振り返りを含む公開授業)を、年間計画に位置付け、実施している。また、成果や課題、改善策について確認し、学校全体で人権教育を推進する。 「考え、議論する道徳」の授業を目指し、全学年1回は道徳の公開授業と研究協議を通して理解を深める。また、「地域ぐるみの道徳教育」を推進するために道徳教育推進教師を中心とした協力体制を整備する。 図書の実践と読書活動の推進のために、新本を定期的に更新し、子どもたちにとって魅力的な図書館になっている。また、教員が必要な資料や情報が充実し、授業で活用しやすい体制が整っている。	・「全ての教育活動において人権教育の視点(人権に関する理解や人権感覚の育成)を確認し、組織的に取り組んでいる」と回答した学校の割合【人権教育に関する取組状況調査】 小100% 中100% ・人権課題に関する校内研修及び授業研究(研究授業、事後の振り返りを含む公開授業)を、年間計画に位置付け実施した学校の割合【人権教育に関する取組状況調査】 小100% 中100% ・「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」に対する肯定的な回答の割合【全国学力・学習状況調査】 小90%以上 中90%以上 ・学校・家庭・地域が一体となった「地域ぐるみの道徳教育」を推進するための取組【道徳教育に関する調査】 小3項目以上 中3項目以上 ・学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)30分以上の割合【全国学力・学習状況調査】 小50% 中50%

⑥	ふるさと教育、体験活動の充実	本町の豊かな自然や歴史、文化、産業等について学習する。体験活動の充実を図り、地域への理解を深めるとともに、地域の多様な方との関わりを通した学習や活動を積極的に行う。	・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に対する肯定的な回答の割合【全国学力・学習状況調査】小80%以上 中80%以上 ・9年間を通した総合的な学習の時間のカリキュラムを作成【令和8年度】し、小中連携した取組活動の実施【年3回】
⑦	体育、食育の推進	「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」を活用し、体育委員会が主体となって体力向上に向けた取組を実施する。 「早寝、早起き、朝ごはん」のために規則正しい睡眠や食事など、基本的生活習慣の確立に向けて、家庭と連携した取組を行う。	体力総合評価DEランク合計の割合【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】 小25%以下 中25%以下 「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する児童生徒の割合【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】 小80% 中75% ・保健の授業で学習した運動、食事、休養及び睡眠に気をつけた生活を送れていると思いますか【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】 全国平均以上 ・毎日朝食を食べる児童生徒の割合【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】 小90% 中90% ・給食残食率【本町調査】 主食 小5% 中6% 副食 小7% 中8%
⑧	特別支援教育の推進	特別な支援が必要な子供について、SCやSSW、特別支援教育支援員等を活用して個への支援、学校への支援を充実させる。また、教育相談や巡回相談など、外部の専門機関からも助言をもらう機会を設け、学級担任や保護者への支援も行う。個別の教育的ニーズに合わせた適切なICT教材の活用により、子供一人一人の可能性を広げるためのインクルーシブ教育を推進する。	・ユニバーサルデザインについて、県が示す5つの重点項目をすべての教室で実施している割合【高知県教育振興基本計画】に関する取組(特別支援教育)の状況調査】 小100% 中100% ・校内研修に特別支援学級の研究授業を設定し、全教職員で研究協議を行う。 ・特別支援学級の授業等において、毎日1回以上ICTを活用する。【本町調査】 小100% 中100%
⑨	いじめ・不登校等生徒指導体制の充実	いじめの早期発見・早期対応を徹底するため、いじめの実態調査を年2回実施する。また、Q-Uアンケート調査分析の共有(年2回)や日々のきもちメーターを活用することで、児童生徒理解を深める。 不登校等児童生徒が安心して過ごせる居場所の確保及び個に応じた適切な学びを保障するために、「校内サポートルーム」に準ずる居場所の環境が充実し、ICTを活用した学習支援を実施する。	・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合【全国学力・学習状況調査】 小90% 中90% ・不登校児童生徒の在籍比率割合【本町調査】 小1.0% 中3.0% ・前年度不登校児童生徒の改善割合【本町調査】 小50% 中50% ・教育支援センターの設置【令和10年度】
⑩	安全・安心な教育環境の充実	小・中学校校舎の防災機能強化・老朽化対策を実施するにあたり、非構造部材等耐震化に取り組む 学校園防災マニュアルに基づき、町内の認定こども園、小学校、中学校の園児・児童・生徒並びに教職員等関係者を対象とした合同避難誘導訓練を実施する	中学校校舎は令和6年度に取り組み、小学校校舎は令和7年度に取り組み 合同避難誘導訓練を毎年1回開催し、同時に防災学習を行う
⑪	教職員が志気高く誇りを持って職務できる環境整備の推進	働き方改革に向けたシステムや環境づくり(業務の精選、教員業務支援員の活用、デジタル技術による業務の効率化、退校時刻設定や計画年休取得など)を進める。	・時間外勤務が1カ月「80時間以内」、年間「360時間以内」である教員の割合【本町調査】 小学校100% 中学校100%【令和10年度】
⑫	学校施設整備と併せた小中一貫教育の研究検討	将来の小中一貫教育を見据え、教育課程や施設整備の研究検討のために、先進校視察や情報等を収集する。	小・中学校の校舎老朽化及び児童・生徒数の減少による今後の小・中学校校舎のあり方について、協議会を立ち上げ、調査・研究を行う。

(3) 家庭・こども園・小中学校・地域・福祉が連携して越知の子どもを育む環境づくり

	施策の柱	施策(取組)	評価指標(KPI)
①	家庭の子育て力向上のための啓発・支援	子育てクラブの支援 子育て時期に同世代の親子と交流する事で、子育て環境をより良いものとする。親子の孤立を防ぎ、相談相手を見つけれれる活動とする。 家庭教育支援の充実 保護者に対して、発達時期に応じた子どもの状況及び保護者としての対応及び心構えなどについて講演会を実施する。 家庭教育支援チーム」について調査研究し、設置の検討をする。	子育てクラブ各種イベント・・・年間3回以上 家庭教育支援・・・年3回以上講演会などを実施 小中学校入学式時の講演会 小学校入学時検診時の講演会 認定こども園参観日時の野球教室など 家庭教育支援チームの設置を検討
②	こども園、小学校、中学校の連携強化(0歳から15歳までの子どもの発達や学びを円滑に接続)	園小中が「個別の教育支援計画」や「引き継ぎシート」を作成し、校内支援会や職員会議等で情報共有のもと、課題に対して組織的な指導・支援を行う。	・特別支援学級と通級の児童生徒「個別の教育支援計画」作成率100%、特別な支援が必要な児童生徒「引き継ぎシート」作成率100%【本町調査】 ・園小で互いの教育内容を話し合い、それぞれのカリキュラムに反映させている学校の割合【保幼小連携・接続の実施状況アンケート調査】 小100%
③	越知町連携教育推進委員会の充実	各連携部会において、活動内容や連携に関する具体的な取り組みを設定し、部会長を中心に主体的に活動する。教育委員会事務局は、こども園・小学校・中学校の現状及び課題を把握し、組織を再構築しながら部会の充実を図る。	・情報の共有や課題の確認がスムーズに行われ、現場に持ち帰って効果的に活用、実践している学校の割合【本町調査】 園100% 小100% 中100% ・評価指標を達成している部会の割合【本町調査】 各部100%
④	子どもの居場所づくり(学童保育クラブの充実、家庭と学校との中間的な場所の設置検討)	・児童が安全に過ごせる環境づくり。 越知小学生児童のうち、該当年度の利用者に対し、適切に保育することができ、保育に欠ける児童に対して放課後児童クラブを運営する。 ・不登校傾向にある児童生徒の居場所の設置を研究、検討する。	・保育環境を改善するために中学校の空き教室を利用し、静かに学習に取り組める場所を提供する。(学習意欲がある児童や静かに過ごしたい児童への対応) ・支援の必要な児童への対応や防災等に関する知識を深めるために、指導員に必要な研修を受講させる。 ・不登校児童生徒の居場所を設置する。
⑤	人権教育の推進	多様化する現代社会に対応した人権問題についての講演会等を小学生から一般住民を対象に年2回以上行う。	人権についての講演会等を小中学校、人権啓発担当部署と連携し、年2回以上行う。
⑥	教育相談、就学指導、要保護児童対策の充実	・子どもの発達状態や子育て、就学に関する困難ケースを早期に発見し、関係機関との連携により速やかに対応する。 ・虐待、いじめ、不登校等などの背景にある学校・家庭・地域の実情を把握して、関係機関との調整を行い適切な支援、対応を行うとともに、適正な就学指導を実施するためスクールソーシャルワーカー及び教育相談員の活動の充実を図る。 ・要保護児童対策地域協議会を管轄する保健福祉課との連携を密にしケースの背景を把握し情報共有に努め、迅速かつ適切な対応を行う。	・保健福祉課の子ども家庭総合支援拠点「みらい」が実施する要保護児童対策地域協議会定例支援会議(2月に1回)に参加して情報共有をし、子育てや就学に関する支援が必要なケースを早期に発見して速やかに対応する。 ・毎月1回開催の小・中学校内の支援会への参加 ・広報への相談事業を継続掲載し普及啓発

⑦	学校運営協議会の充実	学校運営協議会の開催 学校運営協議会での協議内容や学校の現状を広報で町民に周知する 教員、委員ともに学校運営協議会のあり方を学んでいく	年4回の協議会を計画的に開催し、各学校の取組や課題に対して建設的な協議を行う。 年4回、協議会後に広報で協議内容を周知する。 教員、委員などを対象とした学校運営協議会勉強会を年1回開催する。
⑧	就学、進学支援の充実	・家庭の経済状況や地理的条件によらない教育機会の確保のために、対象児童生徒への就学援助や入学祝金、教材費支援、スクールバス運行、高校生通学支援等を継続していく。 ・給付型奨学金の支援拡充 ・学校給食費の支援検討	・高校生通学支援は、未申請者に申請の意思がないかどうかの確認を行い、できるだけ多くの方が受給できるようにする。 ・就学援助や入学祝金、教材費支援は見直しを含め、制度を研究 ・給付型奨学金の支給金額もしくは対象の拡充 ・国の動向を考慮し、学校給食費の支援内容を検討
⑨	青少年の自立と社会参加への支援	青少年育成センターの活動により、非行防止等の青少年の健全育成に努める 中学生議会の開催(中学3年生) 次世代を担う中学生に町づくりへの関心と理解を深めてもらい中学生の社会参加を促す。 町が行う様々な取り組みに対して青少年への参画をよびかける。	街頭指導、夜間パトロールの実施による見守り活動 受験への影響が無いように11月末までに開催する。 町文化祭と中学校文化祭を連携することにより、多世代の交流及び人材育成に努める。 地推協イベント・地区運動会への青少年の参画を呼びかける。

(4) 自然、文化、歴史を通して生涯学び続けられる環境づくり

	施策の柱	施策(取組)	評価指標(KPI)
①	持続的な地域コミュニティづくりの推進	地域の学び場・繋がりを継続できるよう地区公民館活動を中心とする事業の支援を行う。 公民館長・主事会の開催 地域課題の解決に向け、研修会への参加を呼びかける 教育委員会に限らず他課も巻き込み地域づくりを進めていく。	公民館補助金の活用により、各地域で集まれる場を創る 盆踊り、地区運動会への参画 県・郡公民館協議会研修会への参加 地区運動会への他課職員の参加の呼びかけ、出前落語を他課事業とのコラボを進めていく。
②	多様な学習機会の提供	各世代において生涯を通して学び続けられる機会の創出に努める。また、世代を越えた連携によりお互いが刺激し合える場を提供していく。 ・滝上町児童交流 ・中学生英語研修 ・二十歳の集い ・新春囲碁将棋大会 ・いきいき長生き学園	事業の継続及び発展が出来るよう創意工夫を図る ・滝上町交流を通して、異なる地域の自然や文化を体験することで、お互いの文化・生活に対する理解や協調性を育むことができるよう、学校や保護者と連携し、内容を工夫しながら継続的に取り組む。 ・英語研修・グローバルな人材育成を目指す。 ・二十歳の集い・社会の一員として責任のある行動をとることの必要性を伝え、大人としての意識を高める式典となるよう、内容を工夫しながら継続的に取り組む。 ・囲碁将棋・町内のサークル参加者を増やし大会継続を図る ・いきいき長生き学園・老人クラブとの共催により参加者の確保及び継続・・・年2回
③	読書活動の推進	本の森図書館 利用者ニーズに対応した図書整備 ブックスタート事業の継続 ブックスタート、セカンドブック、サードブックと継続することで読書週間が身につくことを目指す。お渡し会にて本の森図書館の利用方法などを周知していく。 いつでも気軽に入れる、居心地の良い施設・空間設備及びイベント等の開催による図書館の利用促進	下記の数字を目標に運営していく 利用者数 9,500人 貸出人数 6,000人 貸出冊数 20,000冊 ブックスタート・・・生後6ヶ月を目途にお渡し会 セカンドブック・・・小学1年生 サードブック・・・中学1年生 5年後も継続していく 図書館でのイベント開催・・・年間10回 移動図書館の継続及び開設先の増大を目指す。 (開設先は全集落の3割を目標とする)
④	生涯スポーツの推進	総合型地域スポーツクラブの活性化 指導者とリーダーの育成 スポーツ大会の開催・地域交流を目指したスポーツの推進 町民スポーツ祭・おちスポーツクラブカップ・スポーツ推進委員長杯 小学生野球越知新人大会・ピタリロードレースの開催 高知FDIによるスポーツの振興 小学校・体力テスト、陸上記録会などに向けての体育指導 中学校・体力テストに向けての体育指導、運動部活動支援	町広報誌での宣伝活動や、運営委員会、各種大会において現状報告を行うことで理解を仰ぎ活性化を図る。会員数230人を維持する。 研修会や講習会等を通して育成に努める。 地域住民のニーズに応じた種目を追加するなど各種大会の参加者数維持に努める。 町民スポーツ祭 150人 おちスポーツクラブカップ 200人 スポーツ推進委員長杯 120人 小学校では、クラブ活動支援のほか体力テストや陸上記録会などイベント前に体育指導を実施、中学校では、体力テストに向けての体育指導、運動部活動支援など小中学校の要望に応じた支援を継続的に行っていく。小学校・中学校各5回は参加する。
⑤	文化、芸術活動の推進	文化推進協議会 サークル数:16 延べ会員数:のべ125名 四国銀行ロビー展への作品展示、サークル活動の紹介・児童生徒との交流 文化祭の実施	文化推進協議会の会員数を維持していく サークル体験教室・・・青少年への募集 文化祭来場者 1,000人超えを目標とする 文化祭を活動発表の場となる取組の実施
⑥	文化遺産・文化財の保護と継承	町指定文化財の指定とパトロール 文化財保護審議会、越知史談会等による活用、伝承等についての学習	戦争遺跡の町指定(2件) パトロール 県指定年1回 パトロール 町指定年1回(地区を決め5年で一巡する) 保護審議会(年間3回+郡、県の研修会参加) 大字単位での文化財パトロールを毎年実施し文化財保護に努める。 女性・若年の文化財保護審議員の登用を図る
⑦	横倉山自然の森博物館の魅力強化と活用	横倉山の魅力(地質・化石、植物、歴史・伝説等)を生かした行事を継続的に実施するとともに、自然体験型観光の拠点施設として本町の魅力を伝え、関係機関との連携を強化し観光施設としての認知度の向上を図る。	横倉山の魅力(地質・化石、植物、歴史・伝説等)を生かした企画展や各種イベントを行うとともに、関係機関と連携してPRを行うことで町内外での施設の認知度を向上させることで毎年、年間来館者10,000人を目標とする。

学 校 教 育

1. 全体研修等

(1) 越知町校長・教頭・教育委員・教育委員会事務局 合同研修会 4月5日委託

第3期越知町教育振興基本計画について

令和6年度越知町教育行政方針等について

(2) 西留安雄先生による授業ベーシック、校務システム改革の推進

5月16日、9月13日（小中合同校内研修）

11月22日（小中合同研究発表会）

(3) 越知小中学校入学式 保護者講演会 4月8日

高知県立療育福祉センター 野々宮京子先生

(4) 越知小学校就学時検診 保護者講演会 9月18日

高知県立療育福祉センター 野々宮京子先生

(5) 久我直人先生による小中学生指導研修 6月25日、9月19日

「効果のある学級・学校づくりの理論と実践」について

(6) 久我直人先生によるこども園訪問 12月12日

学級づくりと特別な支援が必要な子どもへの対応

(7) 越知町園小中合同研修会 7月29日

NP0 法人ハートフルコミュニケーション 代表理事 菅原裕子様

演題「子どもの心のコーチング」～一人で考え、一人のできる子の育て方～

(8) 越知町こども園園内研修 7月17日、1月10日

中山芳一先生 「非認知能力の育成」について

(9) 磯部征尊先生による小学校校内研修 4月4日、8月23日

学級力向上研修

(10) 美濃正明先生による小学校校内研修 2月予定

教育DXの視点をふまえた効果的なICT活用について

2. 県・町指定事業

(1) 県・町指定事業に係る研修・研究授業等

月	日 時 ・ 内 容
4月	○4月30日(火) 園小接続部会スタートカリキュラム公開授業 13:55～16:00 生活科 隅田澄子 教諭
5月	○5月16日(木) 小中合同校内研修 西留先生招聘 午前：小学校、午後：中学校にて通覧授業・研究授業 3校時 小学校 1年：算数 隅田教諭 2年：算数 内山教諭 3年：算数 池本教諭 5・6年：合同国語 井口教諭、上地先生 4校時 小学校 4年：算数 柿内教諭 5校時 中学校 1年：国語 安井教諭 2年：理科 足達教諭 3年：社会 大石教諭 6校時 中学校 2年：体育 伊藤教諭 小中合同研究協議 西留先生ご講話
6月	○6月13日(木) 授業づくり講座(教育DX) 5校時 小学校 5年：算数 井口先生 事後協議 小学校体育館 講話：京都教育大学 大久保紀一朗先生
7月	○7月17日(金) こども園園内研修「非認知能力」 ALL HEROs 中山芳一先生招聘 10:00～15:00 講演・演習 ○7月29日(月) 園小中合同研修会 NPO 法人ハートフルコミュニケーション 菅原裕子様 演題「子どもの心のコーチング」 13:30～15:30 講演・演習
8月	○8月23日(金) 学級力+プログラミング教育研修 愛知教育大学 磯部征尊先生招聘 9:30～11:30 小学校校内研修
9月	○9月13日(金) 西留先生招聘 午前：中学校、午後：小学校にて研究授業、小中合同校内研修会 2校時 中学校 1年：国語 安井教諭 2年：総合 近澤教諭 3校時 中学校 3年：数学 岡本教諭 4校時 小学校 1年：算数 隅田教諭 3年：社会 池本教諭 4年：算数 柿内教諭 5年：音楽 井口教諭 6年：体育 上地教諭 5校時 小学校 2年：国語 内山教諭 小中合同研究協議・西留先生ご講話

10月	○10月 9日(水) がん教育に関する外部講師派遣事業 上岡教人様 越知中 13:35～15:25
11月	○11月 7日(木) 授業づくり講座(教育DX) 5校時 小学校 6年:社会 上地教諭 事後協議 小学校体育館 講話:京都教育大学 大久保紀一朗先生 ○11月22日(金) 小中合同研究発表会 西留先生招聘 公開授業 越知小 1年 算数 隅田教諭 2年 算数 内山教諭 4年 体育 柿内教諭 ※4・5・6年合同体育 5年 体育 井口教諭 6年 体育 上地教諭 越知中 1年 体育 中須教諭 2年 社会 大石教諭 3年 英語 和泉教諭 研究授業 越知小 3年 算数 池本教諭 越知中 3年 音楽 近澤教諭 研究協議 代表児童生徒も参加 研究発表 越知小 児童発表 越知中 生徒発表 西留先生講評
12月	○12月17日(火) 保健教育に関する外部講師派遣事業 高知県産婦人科医会 坂本康紀様 越知中 13:35～15:25
1月	○1月10日(金) こども園園内研修「非認知能力」オンライン ALL HEROs 中山芳一先生 9:30～12:00 講演・演習
2月	○2月予定 教育DXの視点をふまえた効果的なICT活用について 洲本市教育センター長 美濃正明先生招聘 越知小 13:30～16:30

(2) 小中学校課・中部教育事務所訪問

○小学校教科担任制・組織力向上AD訪問(中部教育事務所) *小3回、中2回

- ① 6月 5日(水) 安岡幸子アドバイザー
越知小 9:00～10:30
- ② 7月 2日(火) 岡村洋一郎アドバイザー
越知中 10:15～12:00
- ③ 9月25日(水) 安岡幸子アドバイザー
越知小 9:00～10:30
- ④ 10月25日(金) 岡村洋一郎アドバイザー
越知中 10:15～12:00
- ⑤ 2月 3日(月) 安岡幸子アドバイザー
越知小 10:30～12:00

○デジタルドリル活用実証研究事業（小中学校課）中上貴之指導主事

- ① 10月11日（金） デジタルドリル学習データ活用

○外部専門家を活用した支援体制充実事業 巡回相談 松本英彦教授、伊藤有里指導主事

- ① 7月 1日（月） 13:00～16:30 小学校6年 授業参観、校内研修、指導助言
② 11月26日（火） 13:30～16:15 小学校2年 授業参観、指導助言

○新任特別支援学級担任研修

- ① 11月27日（水） 教育センター指導主事訪問
越知小 9:25～11:15 病弱・身体虚弱学級公開授業 高橋晴香 教諭

○中学校授業改善プラン指導主事訪問（中部教育事務所）

研究授業及び研究協議、授業改善の指導助言

- ① 5月30日（木） 13:35～15:25 国語科 安井園未 教諭
11月14日（木） 9:45～11:35 国語科 安井園未 教諭
② 5月24日（金） 9:45～11:35 社会科 大石裕也 教諭
10月 1日（火） 9:45～11:35 社会科 大石裕也 教諭
③ 5月30日（木） 9:45～11:35 数学科 岡本有生 教諭
11月 1日（金） 13:35～15:25 数学科 岡本有生 教諭
④ 6月11日（火） 9:45～11:35 理科 足達伸司 教諭
9月25日（水） 13:35～15:25 理科 足達伸司 教諭
⑤ 5月29日（水） 9:45～11:35 英語科 和泉早姫 教諭
11月13日（水） 13:35～15:25 英語科 和泉早姫 教諭

○新規採用若年教員育成アドバイザー訪問（中部教育事務所）五十嵐起世アドバイザー

【小学校】 柿内創 教諭

- ① 5月13日（月） 2校時 研究授業、3校時 聞き取り
② 9月 9日（月） 2校時 研究授業、3校時 聞き取り
③ 2月18日（火） 2校時 研究授業、3校時 聞き取り

【中学校】 和泉早姫 教諭

- ① 7月 1日（月） 2校時 研究授業、3校時 聞き取り
② 10月 2日（水） 2校時 研究授業、3校時 聞き取り
③ 2月 5日（水） 2校時 研究授業、3校時 聞き取り

○新規採用養護教諭研修配置校「訪問研修」（保健体育課） 廣田志保チーフ

【中学校】 山中理代 教諭

① 11月11日（月） 9：00～12：00

○2年経験者研修若年教員育成アドバイザー訪問（教育センター） 白石寿美雄アドバイザー

【小学校】 池本玲奈 教諭

① 10月 8日（火） 2校時 参観授業、3校時 聞き取り

（3）コミュニティ・スクール

月	日	内 容
6	24	第1回コミュニティ・スクール ◆全体会 （1）会長あいさつ （2）自己紹介 （3）協議会運営にあたっての資料確認 ・越知町学校運営協議会規則 ・越知小学校/越知中学校 学校運営協議会運営細則 ・越知小学校/越知中学校 コミュニティ・スクール夢プラン （4）今年度の予定 ・年間計画 ・学校支援ボランティアについて ◆小中別分科会 1学期の様子（授業実践の報告など）、年間行事予定、学校運営や学級運営の状況報告
10	23	第2回コミュニティ・スクール ◆全体会 （1）会長より （2）地域より ◆小中別分科会 2学期の様子、学級の状態
1	23	第3回コミュニティ・スクール ◆全体会 （1）会長より （2）地域より （3）ボランティア アンケートについて ◆小中別分科会 学校評価について
2	19	第4回コミュニティ・スクール ◆全体会 （1）会長より （2）地域より ◆小中別分科会

3. 県外視察研修

○ 春日井市立小中学校視察訪問

日時：令和6年6月21日（金）10:00～16:00

訪問先：春日井市立出川小学校、春日井市立坂下中学校

※文部科学省リーディングDXスクール

目的：教育DX先進校の公開授業参観から学び、本町での授業改革に活かす

参加者：2名〔小学校長、小学校教諭1名〕

○ 横須賀市立長沢中学校視察訪問①

日時：令和6年6月28日（金）11:00～16:50

訪問先：横須賀市立長沢中学校

目的：思考力・言語活用能力を基盤とした学力向上及び学びに向かう人間性や資質・能力を育成するため、長沢中学校の授業改革や組織改革に学び、小中学校が連携した組織的な取り組みに活かす

参加者：3名〔小学校教諭2名、中学校教諭1名〕

○ 横須賀市立長沢中学校視察訪問②

日時：令和7年1月29日（水）10:00～16:40

訪問先：横須賀市立長沢中学校

参加者：3名〔中校長、小学校教諭1名、中学校教諭1名〕

○ 高岡地区市町村教育委員会連合会 学校教育部会 県外視察研修

日時：令和6年10月18日（金）13:00～15:00

訪問先：玉野市立荘内中学校

※文部科学省リーディングDXスクール

目的：教育DXの先進的取組について学び、各地域の取り組みに生かす

参加者：3名〔教育長、教育委員会事務局2名〕

○ 第111回教育委員会対象セミナー

日時：令和6年8月1日（木）11:00～15:50

訪問先：愛媛県民文化会館

目的：GIGAスクール第2期における端末更新と環境整備、1人1台端末を活用した授業改善について学ぶ

参加者：4名〔中学校教諭1名、教育委員会事務局3名〕

○ 第3回東京セミナー

日時：令和6年8月3日（土）11:30～17:00

訪問先：国立オリンピック記念青少年総合センター

目的：西留先生に関わるネットワークを構成し、日本の学校教育を未来志向で子ども主体の授業に変えていくことを目指す

参加者：3名〔小学校教諭3名〕

○ 四国中央市立川之江小学校視察訪問

日時：令和7年1月27日（月）10:30～16:30

訪問先：四国中央市立川之江小学校

※文部科学省リーディングDXスクール

目的：ICTを活用した授業研究を学び、主体的に学び合う児童生徒の育成を目指す

参加者：4名〔教育長、小学校長、小学校教諭1名、教育委員会事務局1名〕

○ 四国中央市立三島東中学校視察訪問

日時：令和7年2月12日（水）13:00～16:30

訪問先：四国中央市立三島東中学校

※文部科学省リーディングDXスクール

目的：ICTを活用した授業研究を学び、主体的に学び合う児童生徒の育成を目指す

参加者：2名〔中学校教諭1名、教育委員会事務局1名〕

4. 公開授業受け入れ・発表・受賞等

（1）受け入れ

R6.6.13 県小中学校課、県教育政策課、県生涯学習課、保健体育課、東部教育事務所、中部教育事務所、いの町立伊野小学校、いの町立川内小学校、安芸市立土居小学校、芸西村立芸西小学校、香南市立野市東小学校、佐川町教育委員会、佐川町立黒岩小学校、佐川町立斗賀野小学校、四万十町教育委員会、四万十町立昭和小学校、四万十町立田野々小学校、四万十町立東又小学校、四万十町立米奥小学校、仁淀川町教育委員会、仁淀川町立池川中学校、仁淀川町立長者小学校、仁淀川町立別府小学校、須崎市立安和小学校、須崎市立須崎小学校、須崎市立須崎中学校、田野町立田野小学校、日高村佐川町学校組合教育委員会、日高村佐川町学校組合立加茂中学校、本山町立本山小学校

R6. 9. 13 愛知教育大学大学院

R6. 11. 7 愛知教育大学、愛知教育大学大学院、県小中学校課、県教育政策課、中部教育事務所、東部教育事務所、香南市立赤岡小学校、香南市立野市東小学校、東洋町立甲浦小学校、いの町立川内小学校、佐川町教育委員会、佐川町立佐川小学校、佐川町立斗賀野小学校、四万十町教育委員会、四万十町立川口小学校、四万十町立東又小学校、四万十町立米奥小学校、仁淀川町教育委員会、仁淀川町立池川中学校、仁淀川町立別府小学校、須崎市立新庄小学校、須崎市立須崎小学校、中土佐町教育委員会、須野町教育委員会、津野町立葉山小学校、土佐市立高岡第一小学校、土佐市立高岡中学校、土佐市立蓮池小学校、梶原町立梶原中学校、日高村教育委員会、日高村立日下小学校、日高村佐川町学校組合立加茂小学校、黒潮町立佐賀小学校、高知市立横浜新町小学校、高知市立昭和小学校

R7. 2. 13 京都府教育委員会、相楽東部広域連合教育委員会、相楽東部広域連合立小中学校

(2) 本年度発表・講師等

R6. 8. 3 第3回東京セミナー
実践発表 越知小学校 井口健太郎教諭、上地平真教諭、池本玲奈教諭

R6. 11. 30 第5回授業づくり研究会 自主研修会
実践発表 越知小学校 井口健太郎教諭、上地平真教諭、池本玲奈教諭

R6. 1. 10 令和の学校教育を考える推進会議Ⅲ
実践発表 越知小学校 井口健太郎教諭

(3) 事業・受賞等

○デジタルドリル活用実証研究事業 指定校 (R5～R6) 越知小学校・越知中学校

R6. 5. 20 第3回連絡協議会 検討課題協議

R7. 1. 17 第4回連絡協議会 実践報告

○授業づくり講座 教育DX推進スクール 指定校 (R6) 越知小学校

R6. 6. 13 第1回授業研究会

R6. 11. 7 第2回授業研究会

5. 令和6年度 越知町連携教育推進委員会・各部会

組 織	活動内容・連携活動テーマ	日 程
校長園長会	各園・校の現状の共有、情報交換、県や町からの連絡検討等、園小中連携を中心となって推進	毎月 15 日前後 9 時～12 時
【知】 AI ドリル研究部会	新学習指導要領の具現化を目指した主体的・対話的で深い学びのある授業づくりの研究 ～個別最適な学びと協働的な学びを目指した取組～	5 月 1 日 16:00 1 月 14 日 16:00
【徳】 道徳・人権部会	社会の中で人としてよりよく生きていくための豊かな心をもった児童・生徒の育成、道徳科授業の充実	5 月 1 日 16:00 10 月 4 日 中公開 10 月 18 日 小公開 1 月 14 日 16:00
【体】 生活・体力向上部会	体力向上、生活習慣の確立を目指した小中連携の支援	5 月 1 日 16:00 5 月 16 日 中公開 6 月 27 日 合同体育 9 月 13 日 小公開 9 月 14 日 合同体育 1 月 14 日 16:00
【横断】 園小接続部会	園小連携・接続における連続性のある指導・支援の在り方	4 月 30 日 小公開 5 月 1 日 16:00 11 月 29 日 園公開 11 月 14 日 16:00
行事調整会	園小中委で 1 年間の行事計画を調整	4 月 10 日 15:00 1 月 22 日 15:00
事務職員連絡会	越知小中の事務関連について、委員会も入って確認・検討する	6 月 26 日 9:00 11 月 7 日 9:00 1 月 28 日 9:00
中委合同部活顧問会	バス、体育館等の割り当て確認等	4 月 5 日 10:00
学校運営協議会(CS)	学校経営を地域に開き、地域とともに歩む体制を作る	6 月 27 日 18:00 10 月 23 日 18:00 1 月 23 日 18:00 2 月 19 日 18:00

社 会 教 育

生涯学習の観点に立ち、生涯の各時期に生じる課題や社会的に要請される現代的課題の学習に取り組むとともに、地域の教育力向上や地域活動の充実及び、社会教育関係職員の資質の向上に努め、市民の生涯学習を支援していきます。

◎重点施策

施策（取組）			施策の概要
家庭教育支援の充実	1	家庭教育力の向上	保護者を対象に家庭教育講演 小中学校入学式、就学時健診、こども園の参観日 家庭教育体制づくりの支援として子育てクラブ、PTA 活動等、社会教育団体への助成及び支援等
多様な学習機会の提供	2	タイムカプセル事業	20 歳の自分あてにメッセージを書き、タイムカプセルへ収納し、「二十歳の集い」にて返還
	3	二十歳の集い事業	式典・タイムカプセルを開け、個人に色紙を返還し一言スピーチ 越知町吹奏楽団の演奏
	4	人権教育の学習	中学生から一般住民を対象に、自分の大切さとともに、他人の大切さも認める事ができ、様々な場面で考え、行動ができるようを映画上映会（カランコエの花）を実施
	5	高齢者教室	高齢者が第二の人生を安心・安全に豊かな心で生活していけるような学びを提供
	6	世代を超えた交流事業	新春囲碁将棋大会の開催（1 月） 子どもから高齢者まで、趣味を通じてふれあうことで、世代を超えた交流を提供
	7	滝上町児童交流事業	両町の児童が互いの町を訪問し、自然体験や文化体験で交流を行い見聞を深める 7 月滝上町児童来町（小 5） 2 月越知町児童滝上町へ（小 5 訪問）
	8	外国語教室	国際交流協会が主催し、外国語指導助手（ALT）及び外部講師による韓国語、英語の教室をレベルに合わせて実施
	9	笑いで元気なまちづくり事業	高知県住みます芸人の淀家萬月氏による出張落語&笑いライブ 「越知町笑いの日 2024」など笑いを通じた生きがいづくりを提供
地域コミュニティづくりの推進	10	公民館活動の充実	地域課題の解決に向け、研修会・講演会への参加 地区公民館活動が活発に行えるよう事業の支援を行う
	11	地域教育推進協議会の組織強化	地域教育推進協議会の様々な活動を通して次世代の担い手育成 世代間連携の促進
	12	地域教育力の向上	地域教育推進協議会による地域活動の充実 あいさつ運動、どろんこ運動会、仁淀川で遊ぶ大会（中止）、みんなの運動会、コミュニティースクール事業への協力など

施策（取組）			施策の概要
読書活動の推進	13	本の森図書館の充実	利用者ニーズに対応した図書の整備
			いつでも気軽に入れる、居心地の良い施設・町内施設への本の貸し出し・空間設備及びイベント等の開催による図書館の利用促進
			専門性の向上のため、職員研修を充実させ、資質の向上に努める
	14	発達時期に応じた読書活動の推進	ブックスタート事業、セカンドブック事業、サードブック事業の発達段階に応じた読書活動支援 読書活動推進員によるこども園、小学校での読み聞かせ
	15	学校図書館との連携	小・中学校の図書担当教諭及び図書支援員との定期的な連絡会
健康づくりと生涯スポーツの推進	16	総合型スポーツクラブの活性化	町広報紙での宣伝活動や、運営委員会、各種大会において現状報告を行うことで理解を仰ぎ活性化を図る
	17	スポーツ大会の開催	町民スポーツ祭、スポーツクラブカップ、スポーツ推進委員長杯の町内3大会を軸として、少年団体県大会である、少年野球の大会を開催
	18	地域交流を目指したスポーツの推進	スポーツ少年団体交流会など競技内容は違えど、運動あそびを通じ交流を図り、互いに新たな発見収穫に繋がるよう促す
	19	高知FDによるスポーツの振興	野球以外のスポーツでも講師を呼び教室を開催。野球事業としては、交流試合を実施。また、小中学校では、陸上記録会などイベント前に体育指導を実施
	20	町民総合運動場の整備	町民総合運動場の整備や修繕
文化・芸術活動の推進	21	文化推進協議会の組織強化	サークル数：14 延べ会員数：103名 四国銀行ロビー展への作品展示、サークル紹介等を掲示
	22	文化・芸能活動の推進	11月初旬に文化祭の実施 中学校の文化発表会とのコラボ開催 学校関係、病院関係、一般にも呼びかけ、絵画、手芸、書道等の作品展示を行う。各種イベント教室の実施
郷土愛の育み	23	文化財の調査と保護の推進	町指定文化財の指定 町指定文化財のパトロール
	24	文化財の活用及び伝承・継承の推進	文化財保護審議会、越知史談会等による活用、伝承等についての学習
横倉山自然の森博物館の魅力強化と活用	25	横倉山自然の森博物館の魅力強化及び活用促進	来館者数 10,000 人を目標に掲げ、各季節に企画展の開催、フォレストクラブと連携した各種観察会、その他植物観察会などを実施
			自然体験型観光に合わせ、スノーピーク等との連携を強化し、横倉山、仁淀川など自然の魅力を伝えていく
			高知みらい科学館との連携

地 域 教 育

越知町では、平成 11 年度に高知県教育委員会から地域教育指導主事（平成 17 年度まで）が派遣されるとともに、「越知町地域教育推進協議会」を発足し、越知町の子ども達の現状と子ども達を取り巻く環境について、話し合いが進められた。

その結果、先ず、希薄になりつつある地域の信頼関係を取り戻すことが第一と考え、地域ぐるみで行う「子ども達に多様な体験の場を提供できる環境づくり」をとおして、地域の人々が互いに信頼し、連帯意識をもつことができる地域づくりに取り組んでいる。

平成 17 年度をもって高知県の地域教育指導主事制度は廃止となったが、それまでの取り組みを活かしながら活動を継続し「越知の子ども達にとって最も良い環境をつくっていくために」学校・家庭・地域の連携をより一層進める活動に取り組んでいる。

令和 6 年度の取り組み

1. 地域教育推進協議会（3回開催）

第 1 回（5 月 16 日） 委員の委嘱、役員改選、令和 6 年度の取り組み方針、体制、計画、情報交換を実施。

第 2 回（11 月 7 日） 令和 6 年度の取り組み経過報告。
今後の日程、情報交換、令和 7 年度事業・予算について協議。

第 3 回（3 月中旬） 令和 6 年度の総括、情報交換、令和 7 年度の方針、取り組み計画について協議。

運営委員会（2回開催）

第 1 回（6 月 10 日） どんご運動会について協議

第 2 回（7 月 12 日） 仁淀川で遊ぼう大会について協議

2. 「あいさつ運動」 毎月 20 日の街頭指導の実施

通学する子ども達の見守りと、地域の信頼関係や連帯意識を深めることを目的とした「あいさつ運動」を今年度も毎月 20 日に役場前を中心に実施した。また、小・中学校でも児童会や生徒会が中心となってあいさつ運動を行っている。



3. どろんこ運動会 (6 月 15 日)

文徳の田んぼをお借りして令和 6 年度新たに企画した「どろんこ運動会」を開催した。当日は、子供 14 人、大人 9 人、スタッフ 15 人が参加し、綱引きやかかけっこ、ソリを使用したレースなどを全力で楽しんだ。初めて田んぼに入った子も多かったが、自然の中でどろまみれになって遊び良い経験ができました。



4. 仁淀川で遊ぼう大会 (雨天中止)

平成 14 年度から毎年、子ども達に川で遊ぶことの楽しさや、仁淀川の素晴らしさを知ってもらいたいなどの目的で川遊びを行っている。今年度は雨天により川の増水が想定されるため開催を中止した。

来年以降も子ども達に川で遊ぶことの楽しさや、仁淀川の素晴らしさを知ってもらうため、引き続き開催したい。

5. 越知町みんなの運動会（2月16日開催予定）

令和5年度から開催しており、当日は「靴とばし」など誰もが一度はやったことのある遊びや「玉入れ」や「三輪車競争」といった越知町の地区運動会で親しまれている競技を行う。



6. その他

（1）地域支援交流活動

越知中学校の生徒会が中心となり、「越知町内各地域で行われる行事に参加し、地域の方々と交流を深めるとともに、中学生の立場で地域の活性化を考える」という目的のもと、各地区の運動会等へ参加している。今年度は越知中学校吹奏楽部が各地区運動会の開会式で演奏を行った。これからも積極的に参加して行く。

- | | | | |
|-----------|----------|----------|----------|
| ・野老山地区運動会 | （10月13日） | ・横畠地区運動会 | （10月20日） |
| ・明治地区運動会 | （10月26日） | ・大桐地区運動会 | （中止） |



（2）こども園夕涼み会での周辺警備(7月6日)

夕涼み会会場周辺の安全面の見守りや、交通の整理、支援などを行った。

今後も地域教育推進協議会では、さまざまな活動をとおして、地域の教育力の向上と子ども達の成長・発達にとって、一番の基盤になる学校・家庭・地域の連携・強化を図っていきたい。

社 会 教 育 関 係 事 業

1. 越知町文化財保護審議委員会

日付	研修会及び場所	議題及び研修内容
R6. 5. 23	第 1 回越知町文化財保護審議会	(1) 委員の委嘱について (2) 会長・副会長の選任について (3) 活動計画について
R6. 5. 31	(郡)文化財保護連絡協議会 理事・役員会	(1) 令和 5 年度 事業・決算・監査報告 (2) 令和 6 年度 予算・事業計画 (3) 表彰団体の推薦について
R6. 7. 23	(郡)文化財保護連絡協議会総会	(1) 令和 5 年度 事業・決算・監査報告 (2) 令和 6 年度 予算・事業計画 講演：津野町文化財の保存と活用 現地研修：高野の舞台・津野町郷土資料館
R6. 9. 19	(郡)文化財保護連絡協議会 文化協会合同研修会	・講演：司牡丹酒造(株)竹村 昭彦 氏 ・現地研修：上町地区まち歩き
R6. 10. 18	(県)文化財保護連絡協議会総会 現場見学会	(1) 令和 5 年度活動報告及び令和 6 年度活動計画 (2) 各地区事業報告・事業計画 (3) 意見交換 (4) 現場見学会 ～土佐神社～
R6. 11. 21	聖神社 調査	砥部町文化財審議委員等の調査立会
R6. 11. 26	(郡)文化財保護連絡協議会 第 2 回研修会	・丸亀城 ・中津万象園/丸亀美術館
R6. 12. 12	女川山 防空監視哨跡調査	現地調査にて位置の特定
R7. 1. 23	(県)文化財保護連絡協議会 全体研修会	・地区報告(安田町・土佐町) ・講演：天然記念物と牧野富太郎 鴻上 泰氏
R7. 2 (予定)	令和 6 年度文化財保護管理指導事業	県指定文化財パトロール巡視 (楠神・大平)
R7. 3 (予定)	第 2 回越知町文化財保護審議会	(1) 戦争遺跡について (今成・女川)

2. 越知町PTA連合会

越知町PTA連合会 会長 米澤 紗代

越知町PTA連合会は園・小・中の町内各単位のPTA連合体として、越知町の教育力向上、子どもたちの健全な発育のために活動しています。令和6年度から、保・幼の統合によりこども園が開園しました。地域の方々のご協力をいただき、一緒に子どもたちの健全な育成を図ることに努めていきたいと思ひます。

越知町教育長表彰は、農事組合法人ヒューマンライフ土佐様が表彰されました。おめでとうございます。

令和6年度 越知町PTA連合会関連事業・活動計画

月	日	曜日	時間	名 称	場 所	R6	内 容	参加対象
5	8	水	16:00	越知町PTA連合会総会	三秀	実施	定期総会	各PTA新旧役員・教 委・来賓
			17:00	越知町PTA連合会総会・懇 親会	三秀	実施		各PTA新旧役員・教 委・来賓
	25	土	10:00	第1回高岡地区PTA連合会役 員会	津野町 葉山運動公園 総合センター	出席	定期総会について	町P会長（越知中） 事務局（越知中）
			13:30	高岡地区PTA連合会総会		出席	定期総会	町P会長（越知中） 事務局（越知中）
6	1	土	13:30	高知県PTA連合会総会	高知会館	出席	定期総会	町P会長（越知中） 事務局（越知中）
7	3	水	17:45	第1回町P連常任委員会	越知保育園	実施	年間計画	町P会長（越知中） 町単P役員 教育委員会 事務局
	27	土	10:00	第2回高岡地区PTA連合会役 員会	須崎市 市民文化会館	出席	活動計画 研修準備等	町P会長（越知中） 事務局（越知中）
			13:10	PTA教育行政教育研修会		出席	意見交換会・研修会	町P会長（越知中） 町単P役員 教育委 員会 事務局等
8	23-24	金 土	土に出 席	第71回日本PTA研究大会 （神奈川大会）	神奈川県	欠席	全大会・分科会	町P会長（越知中） 事務局（越知中） 単P役員
	25	日	13:00	高知県PTA研究大会	のいちふれあい センター	出席	実践発表・講演会	町P会長（越知中） 事務局（越知中） 単P役員
9	9	月	18:00	第2回町P連常任委員会	越知中	実施	町長・教育長懇談会 町P・委員会研修会につ いて他	町P会長（越知中） 町単P役員 教育委員会 事務局
	28	土	10:00	第4回高岡地区PTA連合会役 員会	久礼中	出席	地区P表彰・研修大会 について	町P会長（越知中） 事務局（越知中）
10	26	土	13:00	高岡地区PTA研修大会 （中土佐町大会）	中土佐町立 久礼中体育館	出席	実践発表・講演会	町P会長（越知中） 事務局（越知中） 単P役員等
11	17	日	12:00	四国PTA研究大会（徳島大 会）	藍住町総合 文化ホール	出席	講演・実践発表	町P会長（越知中） 事務局（越知中） 単P役員等
	11	月	15:30	越知町教育行政懇談会	越知町役場	実施	町長・教育長・各単P 懇談会	各PTA会長・事務 局・校長・町長・教 育長等
	24	日	13:00	越知町PTA・教育委員会合 同研修会	越知中学校	実施	講演 教育長表彰	会員等
12	14	土	13:00	土佐の子育て交流会	高知会館	出席	講演会・グループワー ク	町P会長（越知中） 事務局（越知中） 単P役員
1	24	金		広報おち原稿締め切り	各単Pから越知 中へ	実施	各園、学校	単P会長等が執筆
2	15	土	10:00	第5回高岡地区PTA連合会役 員会	久礼中	実施予定	事業報告・次年度総会	町P会長（越知中） 事務局（越知中）
3	3	月		町P新聞広報おち3月号に掲載		実施予定	第26号	
	14	金	18:00	第3回町P連常任委員会	越知中	実施予定	総括、総会の打ち合わ せ	町P会長（越知中） 町単P役員 教育委員会 事務局

3. 越知町文化推進協議会

会長 梅川 栄久 会員 103名（14サークル）

（1）主な活動

第61回目の文化祭は、11月2日から11月5日までの4日間、越知中学校&越知町ダブル文化祭として町民会館で開催しました。サークル会員をはじめ、中学生の合唱コンクールや作文発表、子ども園おちの子、小・中学校、病院施設の皆さんや、一般の方の力作が並びました。芸能部門として、文化推進協議会の寿太鼓による太鼓演奏、越知吹奏楽部・越知吹奏楽団とのコラボ演奏、吉本興業のお笑いライブ、越知町笑いの日2024として賑わいました。芸能部門以外では、コーヒー喫茶やお茶席、毎年好評のフラワーアレンジメント、ミニクリスマスツリー作り、缶バッジ作り、木工教室では、鍋敷きや貯金箱作りなどの教室も開かれました。4日間で900人近くの方に来場していただきました。

その他の行事・事業活動については下記の資料をご覧ください。

月 日	場 所	内 容
6/24(月)	町民会館	第50回総会
各サークルの活動日	町民会館等	町民会館等周辺美化活動
6/21(金)	越知町	高岡地区文化協会総会 研修会
7/6(土)	南国市	令和6年度高知県文化協会総会および文化交流会(研修会)
10/9(水)	町民会館	コスモスまつり 囲碁大会
9/19(木)	佐川町	高岡地区文化財保護連絡協議会・文化協会合同研修会
11/2(土) ～11/5(火)	町民会館 多目的運動広場	第61回 越知町文化祭&中学校文化発表会とコラボ (展示作品、コーヒー喫茶、イベント、売店等)
11/2(土) ～11/4(月)	津野町	第46回「高岡地区巡回美術展覧会」
12月5日(木)	ひまわり乳業 海洋堂	研修旅行
1/12(日)	町民会館	第46回 将棋大会(将棋サークル)
1/13(月祝)	町民会館	第44回 囲碁大会(囲碁サークル)

(2) 令和6年度 越知町文化推進協議会 [役員及びサークル一覧表]

本部役員及び理事名

役 職	氏 名	住 所
会 長	梅川 栄久	越知町
副 会 長	斎藤 政広	越知町
"	小野 浩玄	越知町
"	森下 早苗	越知町
事務局長	鍋島 久恵	越知町
会 計	井上 るみ	越知町
監 事	横山 貴志子	越知町
"	渡辺 利香	越知町
(特別職) 顧問	澤田 泰彦	越知町

加入サークル

N o	サークル名	理 事	住 所	副 理 事	住 所	会員数
1	茶道サークル	井上 和代	越知町	澤田 恒美	越知町	5
2	将棋サークル	小野 憲三	越知町	長谷川 広幸	越知町	6
3	国 生 流	大原 正枝	越知町	小田 豊子	越知町	6
4	陶芸サークル	小野 浩玄	越知町	渡辺 利香	越知町	14
5	越知史談会	斎藤 政広	越知町	宮橋 和代	越知町	16
6	不二ヨーガ愛好会	岡村 和子	仁淀川町	大野 美千子	仁淀川町	3
7	寿 太 鼓	古味 千代子	越知町	大原 梓	越知町	9
8	短歌同好会	宮橋 敏機	越知町	井上 るみ	越知町	8
9	越知ふれあい絵画サークル	都築 香代子	佐川町	矢田 偲	越知町	6
10	3B体操クラブ	門田 正子	越知町	古味 好子	越知町	9
11	龍跳書道会	横山 貴志子	越知町	梅川 栄久	越知町	8
12	越知吹奏楽団	須内 康雄	高知市	北平地 みゆき	越知町	2
13	囲碁愛好会	池野 弘文	越知町	山中 邦夫	越知町	8
14	医療生協越知班	井上 和代	越知町			3
休 止 中	詩吟あけぼの	R 6 年度活動休止				
	絵楽会	R 6 年度活動休止				
	俳句(あけぼの句会)	R 3 年度活動休止				
	高知川崎民謡会	R 3 年度活動休止				
	大正琴サークル	R 3 年度活動休止				
	フォークダンスサクラ華	R 元年度活動休止				
	日舞サークル	H 3 0 年度活動休止				
	コーラスフェリーチェ	H 2 9 年度活動休止				
	高知市民劇場を見る会	H 2 9 年度活動休止				
	軽音楽部	H 2 8 年度活動休止				
	剣詩舞	H 2 8 年度活動休止				
	ちぎり絵サークル					
	絵手紙					
	エアロビクス					
	読書会					
	越知ダンスクラブ					
	高知岳風会					
	みわの会					
合			計			103

(3) 第61回越知町文化祭

展示内容

特別企画	招待作品	3名（洋画4点・油彩画1点）		
	イベント教室	フラワーアレンジメント・缶バッジ作り ミニクリスマスツリー作り・木工教室（貯金箱、鍋敷き） ミニ四駆走行会		
文推協・個人	催し物	太鼓演奏（寿太鼓）・TSUACO ‘Sカラーセラピー 越知中学校文化発表会・越知吹奏楽部+越知吹奏楽団コラボ演奏会 越知町笑いの日2024		
	書道	20点	手芸	3点
団体・施設	短歌	16点	詩	1点
	絵画	15点	生け花（大作）	1点
	陶芸	20点	押花	3点
	生け花	8点	写真	7点
学校等	ライブラリーハウス 輝	陶芸 MARI-GA		
	グループホームやまぼうし	国際交流協会		
団体・施設	前田病院デイセンター	横倉山自然の森博物館		
	あったかふれあいセンター	越知町人権擁護委員		
	介護サービスなごみ	越知町ふれあいデッサン教室		
	山崎病院デイサービスセンター	越知町地域おこし協力隊		
	デイサービスショートステイおちあゆ	越知町文化推進協議会		
	野老山おとなの学校	飛行機愛好家		
	野老山探検隊	こだまこまちProject		
	こども園おちの子			
学校等	越知小学校			
	越知中学校			

第61回文化祭 入場者数

	11/2（土）	11/3（日）	11/4（月）	11/5（火）	合 計
	268	311	151	185	915

前年度との対比

	第57回	第58回	第59回	第60回	第61回	前年対比	前年増減率
初 日	244	247	353	322	268	△ 54	-16.8%
2日目	442	514	363	329	311	△ 18	-5.5%
3日目	126	201	222	97	151	54	55.7%
4日目					185		
合 計	812	962	938	748	915	167	22.3%

4. 高齢者学級（いきいき長生き学園）

趣 旨 目 的	高齢期にふさわしい社会的な能力を養い、自立した生活を続け、高齢社会をいきいきと生きるための知識や行動を学習することを目的とし、町内に住む高齢者たちの交流の場として実施する。			
主 催	越知町中央公民館	登録者数	高齢の町民対象	
期 間	令和6年4月～令和7年3月	開設場所	越知町中央公民館（町民会館）	
学 習 日 程	開催日	学習テーマ	学習内容・講師等	参加者
	8/23	博物館見学と寄席	社会福祉協議会（老人クラブ）と合同開催 ・自然の森博物館企画展見学と缶バッヂ作り	9人
	11/26	防災士による講演	・防災士による講演と実技 ・淀家萬月さんの落語と体操	30人
	3月予定	佐川町散策	・道の駅見学とマジックショー	
成 果 と 課 題	高齢者になっても学び続けることの楽しさと、参加者間の交流による生きがいづくりの場となるよう事業を進めていますが、昨年度からは内容と体制を変え、参加者が多く加入している老人クラブと連携し年2回研修を行うこととしています。そして参加者が楽しめ、元気が出るような講演、健康に役立つ講演、自分たちの生活地区以外の町内地区訪問など、ニーズにあった事業を展開していきたいです。			

5. 人権教育推進事業

趣 旨 目 的	すべての者が共に生きる社会の実現に向けて、学校・行政・社会教育の各部会の綿密な連携のもとに、人権を尊重する教育、啓発の推進をはかり、町民の主体的な学習意欲を高めるとともに、人権に関する研修や教育が深められるような環境作りに務める。				
事務局	越知町教育委員会・生涯学習課（越知町人権教育研究協議会）				
行 事	日 時	学習テーマ等	参加数	場 所	内容・講師等
	5月7日 (火)	上映会 映画「カランコエの花」	119名	越知中学校	講演会「LGBTQに関すること」 講師：宮田 真氏
	6月16日 (日)	人権・平和コンサート	約230名	越知小学校	人権平和コンサート 講師：Dream&Dream(弓削田 健介氏)
	8月7日	2024 人権サミット in 高吾	3名	日高村	講演会「性の多様性について」 講師：宮田 真氏
	5月14日 (火)	第1回 高知縣市町村 人権教育・啓発担当者 連絡協議会	2名	いの町	「大豊町の人権教育の取り組みについて」 発表者：大豊町教育委員会 研修指導員 畠中美保
	8月26日	第2回 高知縣市町村 人権教育・啓発担当者 研修会	1名	いの町	講演：災害と人権 グループ演習：参加型
	11月25日 (土)	越知町 PTA 連合会・教 育委員会合同研修会	約100名	越知中学校	
成果と課題	人権教育研究協議会で、設立以来行っている人権講演会は、町民全体に人権問題を啓発できる唯一の講演会となっている。今年度は、映画「カランコエの花」の上映会を行った。 上映会と講演会を実施することで、より一層理解を深めることができた。 来年度もより多くの方に参加していただけるよう、講演会の周知や声掛けを行っていく。				

越知小学校・越知中学校 人権教育実践

(1) 人権教育目標

【越知小】人権尊重の精神に徹し、人間としての豊かさと自主的態度を育成し、人権と生命を大切にしようとする実践力を持った子どもを育てる。

【越知中】人権尊重の精神を高め、自他の人権を大切にし、差別や偏見を克服できる生徒の育成

(2) 人権学習 (指導した人権課題)

【越知小】

学年	人権課題	1 学期	人権課題	2 学期	人権課題	3 学期
一 学 年	子ども	2 年生との交流【生活】 学校探検	子ども			
	高齢者		高齢者	年賀状を出そう【生活】	子ども	6 年生と思い出を作る会【特活】
	外国人	いのちの学習【生活】	外国人	外国の遊びを知ろう【生活】	外国人	外国の国のことを知ろう【生活】
	犯罪被害者等	「いかのおすし」を守ろう【生活】	災害と人権	地震火災避難訓練【学活】 防災教育学習会【特活】	女性	いのちの学習【生活】
	災害と人権	地震災害避難訓練【特活】 防災教育学習会【特活】				
二 学 年	子ども	1 年生との交流【生活】 うれしいことば【国語】	子ども	ランドセルの色は【特活】 歌うの大好き【音楽】		
			高齢者	年賀状を出そう【生活】	子ども	もうすぐ3 年生(学活) 6 年生と思い出を作る会【特活】 大きくなった自分のこと【生活】
	外国人	うたでともだちのわをひろげよう【音楽】	外国人	外国の遊びを知ろう【生活】	外国人	外国の国のことを知ろう【生活】
	犯罪被害者等	誘拐防止教室【生活】	災害と人権	地震火災避難訓練【学活】 防災教育学習会【特活】		
	災害と人権	地震災害避難訓練【特活】 防災教育学習会【特活】				
三 学 年	子ども	自分を紹介しよう【国語】			子ども	命の始まり
	外国人	英語であいさつをしよう【総合】 インターネットの使い方【総合】	高齢者	年賀状を出そう【総合】	外国人	世界の歌めぐり
	ネットによる人権侵害		子ども	男らしさ女らしさってなあに いのちのはじまり【学活】	子ども	3 年生のしめくくりをしよう【学活】
	災害と人権	地震災害避難訓練【特活】 防災教育学習会【特活】	災害と人権	地震火災避難訓練【学活】 防災教育学習会【特活】	外国人	外国の国のことを知ろう【総合】
四 学 年	外国人	英語のいろいろな言葉を覚えよう【総合】	同和問題	ごんぎつね【国語】		
			女性	大人になるってどんなこと「二次性徴」【保健】	女性	ジェンダーフリーってなあに【学活】
	災害と人権	地震災害避難訓練【特活】 防災教育学習会【特活】	高齢者	年賀状を出そう【特活】	インターネットによる人権侵害	インターネットの使い方【総合】
	インターネットによる人権侵害	インターネットの利用マナー【特活】	災害と人権	地震火災避難訓練【学活】 防災教育学習会【特活】		
			子ども	いじめ問題【学活】	子ども	育ちゆくからだとわたし【保健】
五 学 年	障害者	障害について知ろう【総合】	子ども	法やきまりを守って【道徳】	高齢者	伝承遊びコンテスト【特活】
	災害と人権	地震災害避難訓練【特活】 防災教育学習会【特活】	インターネットによる人権侵害	インターネット利用のマナーについて【総合】	インターネットによる人権侵害	ネット依存、人権侵害【総合】
			外国人	世界のいろいろな言葉で挨拶しよう【外国語】	子ども	人権教育学習会【学活】
	子ども	不安やなやみがあるとき【保健】	災害と人権	地震火災避難訓練【学活】 防災教育学習会【特活】	災害と人権	自然災害と共に生きる【理科・社会】
			高齢者	年賀状を出そう【特活】		
六 学 年	同和問題	江戸時代の身分制度【社会】	同和問題	四民平等【社会】	同和問題	憲法を暮らしに生かす「基本的人権」【社会】
	災害と人権	地震災害避難訓練【特活】 防災教育学習会【特活】			災害と人権	地球に生きる【理科】
			外国人	朝鮮合併【社会】	女性	心と体の成長【保健】 憲法を暮らしに生かす「男女平等」【社会】
	子ども	いじめやネット問題【学活】 世界の子どもたちのことをしつちゅうかえ【道徳】 世界人権宣言から学ぼう	災害と人権	地震火災避難訓練【学活】 防災教育学習会【特活】 災害が起きたとき【学活】	子ども	ユニセフ活動 子どもの権利条約【社会】 人権教育学習会【学活】
			子ども	いじめやネット問題【学活】 世界人権宣言から学ぼう【道徳】	障害者	憲法を暮らしに生かす「障害者問題」【社会】
	外国人	国際交流員の国のことを知ろう【学活】 自分の生き方を考えよう【総合】	高齢者	年賀状を出そう【学活】	HIV 感染者等	エイズってなあに エイズとたたかう少年【保健】

【越知中】

1 学年

中学校		1 学期	2 学期	3 学期
各教科	国		少年の日の思い出（子ども）	名づけられた葉（子ども）
	社	人々の生活と環境 発展途上国の都市と貧困（子ども・外国人） 世界のさまざまな地域の調査（外国人）	中世の日本と世界 鎌倉時代の女性の地位（女性） 庭園づくりに活躍した人々 中世に生きた人々（同和問題）	世界から見た日本のすがた（同和問題） 身近な地域の調査（同和問題）
	数	方程式—何個集まったかな—（子ども）		数学のレポートを書こう
	理	身近な生物の観察		地震
	音		郷土のさまざまな民謡	日本とアジアをつなぐもの
	美	身近なもののスケッチ（障がい者・生命）		
	保体		心の発達（子ども）	自己形成（子ども） 生命の誕生
	技・家			
	外		The way to feel（外国人）	A Trip to Finland（外国人）
道 徳		ばあば（高齢者）	違いを乗り越えて（外国人）	ゆうへ（災害と人権）
間 学 習 の 時 間 学 習 の 時 間 学 習 の 時 間		越知の自然の魅力を発見しよう	越知の自然の魅力を体験しよう	越知町の豊かな自然環境を未来へつなげていくために、今自分たちができること
特 別 活 動	学 級 活 動	学級開き	認め合い、支えあえる集団づくり 性的な発達への適応（女性）	たばこの害
	生徒会 活動	対面式	ボランティア活動 生徒総会	1 日体験入学
	学 校 行 事	入学式	体育祭 文化祭	卒業式 全校レク
	特 設	人権標語・作文 避難訓練（災害と人権）	防災学習（災害と人権）	

2 学年

中学校		1 学期	2 学期	3 学期
各教科	国	字のない葉書	走れメロス	わたしが一番きれいだったとき
	社	自然のもたらす災害を克服する（災害と人権） 日本の諸地域（高齢者・外国人）	近世の日本と世界 江戸時代の身分制度（同和問題） 元禄時代と暮らしの変化 学問の広がりと化政文化（同和問題）	近代の幕開け アメリカの独立革命とフランス革命（外国人・同和問題） 改革や平等を求めて 近代の日本と世界 残された差別人物から歴史を探ろう
	数		点字の仕組みを知ろう（障害者）	1970 年の大阪万博の入場者数（外国人）
	理	生命を維持するはたらき		大気中の水蒸気の変化
	音		交響曲第 5 番（外国人）	各地のさまざまな音楽・芸能
	美			社会に生きるデザイン（障害者）
	保体			自然災害に備えて
	技・家	ものづくりの工夫と進め方（障がい者）		
	外	Taste of culture（外国人）	Live Life in The Harmony（外国人）	A Gateway to Japan（外国人）
道 徳		海と空（外国人）	体験ナース	ダショー・ニシオカ（外国人）
学 習 の 時 間 学 習 の 時 間 学 習 の 時 間		福祉体験学習（障害者・高齢者） ・福祉施設の方との交流学習 ・ともに生きる社会をめざして	文化祭発表 防災学習	修学旅行準備 職場体験事前学習 ・職業調べ
特 別 活 動	学 級 活 動	学級開き	体育祭に向けて 文化祭に向けて	性教育 歯の健康
	生徒会 活動	対面式	ボランティア活動 生徒総会	1 日体験入学
	学 校 行 事	入学式	体育祭 文化祭 修学旅行	卒業式 全校レク
	特 設	人権標語・作文 避難訓練（災害と人権）	防災学習（災害と人権）	

3 学年

中学校	1 学期	2 学期	3 学期
各教科	国	敬語	故郷
	社	二度の世界大戦と日本 敗戦からの再出発 世界のなかの市民の一人として（外国人） わたしたちの暮らしと現代社会	人間を尊重する日本国憲法 わたしたちの暮らしと民主政治 ユニバーサルデザインを考える（障がい者）
	数		国際社会に生きるわたしたち（外国人） 日本の外交の今、これから（拉致問題等）
	理		生活と数学＜地球温暖化問題を関数で考えよう＞
	音		生物の成長とふえ方（女性）
	美	浮世絵から学ぶ江戸の職人技（同和問題） 自画像、今を生きるあなたへ（子ども）	アランフェス協奏曲
	保体		共に健康に生きる社会（高齢者） 性感染症とその予防/エイズ（HIV 感染者等）
	技・家		情報のに関する技術とわたしたち （インターネットによる人権侵害）
	外	Sign Languages, Not Gestures！（障がい者）	The Story of chocorate（外国人） Malala's voice for the Future（外国人）
道 徳	臓器ドナー No Charity, but a Chance	川端のある暮らし	希望（災害と人権）
間 学 習 的 時 間	職場体験に向けて ・働くことの意義	文化祭発表 ・職場体験から学んだこと	進路学習 ・入試に向けて
特 別 活 動	学 級 活 動	進路に関する理解を深めよう	男女相互の理解と協力について 性教育 夢の実現に向けて～仲間とともに～
	生徒会活動	対面式	ボランティア活動 1 日体験入学
	学 校 行 事	入学式 職場体験 修学旅行	体育祭 文化祭 卒業式 全校レク
特 設	人権標語・作文 避難訓練（災害と人権）	人権学習 防災学習（災害と人権）	

（3）教職員の人権教育研修

研修種別	研 修 内 容	実施月日	備 考
（1）校内研修	「いじめ防止プログラム」【越知小】 「子どもの人権について」「いじめの問題について」【中学校】	8 月 2 日 8 月 5 日	全教職員
（2）校外研修	小中学校人権教育主任研修【越知小】【越知中】	6 月 3 日	人権主任 全教職員
（3）事例研究	各学級において気になる児童についての交流【越知小】【越知中】	毎月～毎学期	管理職、担任、特別支援教育コーディネーター
	校内支援会【越知小】【越知中】	毎月～毎学期	全教職員
	いじめ事象・いじめ克服取組協議【越知中】	4 月	全教職員
（4）その他	いじめアンケート【越知小】【越知中】	毎学期	全教職員
	QI 分析研究会【越知小】【越知中】	8 月、1 2 月	全教職員
	学校生活アンケート【越知小】【越知中】	6 月、1 1 月	全教職員
	体罰アンケート【小学校】【越知中】	1 2 月	全教職員

（4）PTA人権教育研修

実施月日	研 修 テ ー マ	研 修 形 態	備 考
6 月 16 日	人権コンサート「いのちと夢のコンサート」	コンサート	講師：音楽家 弓削田 健介 氏
11 月 24 日	越知町 PTA 連合会・教育委員会合同研修会「身近な人だからこそ大切にしたい！ さわやかな会話の仕方」	講演、演習	講師：（株）あしあとみらい研究所 小松 亮介 氏

（5）組織としての取組【越知小・越知中共通】

委員会等名称	内 容	実施月日	備考（参加者等）
越知町連携教育推進委員会 第 1 回人権道德部会	令和 6 年度の全体計画、年間計画について	5 月 1 日	小・中学校教員
特別支援校内委員会	支援を要する生徒について、実態把握と 具体的な支援策を協議する	適宜職員会において実施	特別支援担当 全教職員 教育相談員

6. 本の森図書館

(1) 2024年の状況

1. 貸し出し人数等の変動(2024年)

月	大人				子ども				計			
	2023年 貸出者数	2024年 貸出者数	2023年 貸出冊数	2024年 貸出冊数	2023年 貸出者数	2024年 貸出者数	2023年 貸出冊数	2024年 貸出冊数	2023年 貸出者数	2024年 貸出者数	2023年 貸出冊数	2024年 貸出冊数
1	280	284	959	940	107	117	422	457	387	401	1381	1397
2	271	310	861	935	115	118	432	648	366	428	1293	1583
3	245	315	835	1017	100	145	778	698	345	460	1613	1715
4	304	309	947	1034	98	126	395	663	402	435	1342	1697
5	332	305	1117	1020	100	123	518	554	432	428	1635	1574
6	342	303	1089	1007	126	123	907	679	468	426	1996	1686
7	281	273	955	943	127	130	600	767	408	403	1555	1710
8	291	276	980	984	102	97	404	344	393	373	1384	1328
9	313	291	1086	1015	119	102	582	507	432	393	1668	1522
10	301	314	1017	928	132	144	517	550	433	458	1534	1478
11	318	332	1013	1006	132	106	824	452	450	438	1837	1458
12	287	317	906	993	176	139	527	780	463	456	1433	1773
合計	3565	3629	11765	11822	1434	1470	6906	7099	4999	5099	18671	18921

2. 利用状況

地域のコミュニティでの認知も深まりリクエストなどを承る機会が多くなりました。
季節毎のイベントに参加いただき貸出しに繋げることができました。

3. 連携体制

小・中・こども園の先生方に授業や行事にご利用いただく機会が多くありました。
町内のおかみさん会の方々とイベントを一緒にさせていただきました。

4. 図書館協議会

今年度設置され、有識者の方々にご意見を伺うことができました。

5. 課題

町内の各方面の方々との連携をとり町民の方々により充実した情報をお届けできるよう努めてまいります。

7. 二十歳の集い

趣旨 目的	二十歳を迎えられた若者達を祝い、激励し、自分の夢を実現するために努力することの大切さと、郷土を担ってゆく社会人としての自覚を促す。		
主催	越知町教育委員会・越知町	参加者数	34名
期日	令和7年1月3日（金）	実施場所	越知町民会館
内容	① 記念式典 ② 二十歳を祝う集い ☆越知吹奏楽団による演奏 ☆タイムカプセルオープン 小学校6年生の時に20歳の自分に書いたメッセージ色紙を本人に返す。 一人一言スピーチ ☆親からの「はなむけの言葉」 ③ 記念撮影		
	当日は二十歳を迎えた34名が出席し、大人の自覚を胸に新たな一歩を踏み出しました。 振り袖やスーツに身を包み、久しぶりに会う友人らと写真撮影や思い出話に花を咲かせ、旧交を温めあう様子が見られました。 式典は、小田町長から「人に感謝できる優しい人でいてください。そして輝かしい未来を築かれることを切に願っております。」と激励のメッセージが送られました。 小田議長からの祝辞の後、二十歳を代表して田野下臥さんが記念品を受け取り、二十歳の抱負を代表して古味玲旺さんが「私たちの人生は、まだ始まったばかりで、20年しか経っていません。故に未熟です。そこで、社会人生活を通じて『“自”分を“律”し、個性を輝かせ、“自”分を“立”たせた人生を送る。』、本当の“ジリツ”を追求し、より立派で誇れる自分になりましょう。」と凛々しく述べていただきました。 第2部では、越知吹奏楽団による演奏が行われ、式典を盛り上げていただきました。 また小学校6年生の時に二十歳の自分に宛てた手紙を入れたタイムカプセルの開封をし、一人一言スピーチを行いました。 記念品は、キャンプ場の整備を行い2018年に「アウトドアなまちにするぜよ！」宣言をしていることから、スノーピークかわの駅おち限定商品の「エコカップ」、北海道滝上町との児童交流事業が始まった第3期生の二十歳の方々へ北海道のハッカを使った「入浴剤」と芝桜の「お守りキーホルダー」をプレゼントしました。 最後は、藤原宏章さんによる親からの「はなむけの言葉」で式典を締めくくりました。		

8. 第44回 新春 囲碁大会・第46回 新春 将棋大会

趣旨 目的	新春恒例の行事として、町内及び県内のアマチュア愛好者の親睦と交流を深め、お互いの技術の向上を目指すことを目的とする。		
主催 協力	越知町中央公民館、越知町文化推進協議会囲碁サークル・将棋サークル 山崎病院		
囲碁	日 程	内 容	場 所
	開催日：令和7年1月13日（祝月） 受付 9:00～ 対局 9:30～16:00	競技方法 日本棋院の規程に準ずる スイス方式 五回戦打 越知方式 参加者：18人	町民会館 大ホール
将棋	開催日：令和7年1月12日（日） 受付 9:00～ 対局 9:30～17:00	競技方法 超A級・A級・B級・C級の各階級別による 予選リーグ及び決勝トーナメント方式 日本将棋連盟の規程に準ずる 参加者：66人（うち中学生以下17人）	町民会館 大ホール
成果 と 課 題	本年も昨年同様、大勢の参加により開催出来た。将棋においては66人中17人が中学生以下であり、世代間交流も図られ大いに賑わった。案内方法も往復はがきを止め、案内状のみとし、申込方法を電話・FAX・メールとした。今後はメールでの案内を増やし経費削減を目指していきたい。 将棋盤については佐川町より借用もしているが不足する懸念もあるため対局時計は少しずつ購入又は他団体からの借用も検討したい。囲碁については通年の囲碁サークルも近隣町村からの参加者もあり活動が安定しているが、参加者の高齢化が進んでいる若い世代への参加が求められている。		

9. 滝上町・越知町児童交流事業

趣旨 目的	越知町と北海道滝上町の児童が、夏と冬にお互いの町の雄大な自然のもと、体験活動を通して交流し、自分の町では経験することのできない自然に触れ、お互いの生活・文化に対する理解や協調性を育むとともに、両町の友好交流を図ることを目的としています。
内 容	<u>小学5年生同士の交流</u> ① 夏の交流 期 間 令和6年7月30日（火）～8月1日（木） 場 所 浅尾沈下橋・仁淀川・スノーピークかわ駅おち・横倉山自然の森博物館・高知城ほか 宿泊：横畠集落活動センター 参加数 滝上町小学5年生 12名 越知町小学5年生 27名 ② 冬の交流 期 間 令和7年2月5日（水）～2月7日（金） 場 所 北海道滝上町ホテル溪谷・桜ヶ丘スキー場ほか 参加数 滝上町小学5年生 12名 越知町小学5年生 28名
備 考	友好交流町である滝上町との児童交流は今年で12回目を迎えた。 夏は、滝上町の児童が来町して交流を行い、冬には、越知町の児童が滝上町を訪問し、越知では体験することのできないスキーを主としたウィンタースポーツなどを通して交流を深めている。 夏の交流は、両町の児童は本村から日の瀬までのラフティング、鰹の薫焼き体験等を行った。夜の交流会も行い、よさこいソーラン、南中ソーランを発表した。越知町の豊かな自然の中で、様々な体験をしながら思い出に残る交流ができた。 こどもたちは、2月に滝上町を訪問し再会できることをとても楽しみにしている。白銀の世界、スキーやウィンタースポーツなどの越知では体験できない経験を楽しみながら、さらなる交流を深めていきたい。

10. 地区公民館の活動

公民館名	月 日	活 動 状 況
桐見川 公民館	5/19 5/26 6/23 6/29 7/7 8/9 9/1 11/10 3/2 予定	第1回公民館運営審議会 竜王公園草刈 第1回大桐地区ペタング大会 第2回公民館運営審議会 下の谷地区七夕祭 西浦地区七夕祭 第3回公民館運営審議会 第2回大桐地区ペタング大会 第3回大桐地区ペタング大会
中大平 公民館	5/19 6/23 6/29 7/21 9/1 11/10 1/3 3/2 予定	第1回大桐地区公民館公民館運営審議会 第1回大桐地区ペタング大会 第2回大桐地区公民館運営審議会 中大平カラオケ地区 第3回大桐地区公民館運営審議会 第2回大桐地区ペタング大会 年始 春会 第1回大桐地区ペタング大会
野老山 公民館	4/8 5/13 6/3 6/16 6/30 6/18 6/25 7/1 7/6 8/5 8/23 9/16 9/29 10/7 10/12 10/13 11/8 11/23 11/30	ミニディ ミニディ・第1回公民館審議会・区長会 ミニディ 防災について、消防訓練等 公民館清掃 公民館清掃準備 公民館清掃 ミニディ カラオケ予選 ミニディ 第2回公民館審議会・区長会 敬老会 公民館清掃 ミニディ 運動会準備 運動会 こども園ピザ体験 伝承行事・イルミネーション飾り付け イルミネーション点灯式

	12/9 1/1 2/3 予定 2/23 予定 3/3 予定 3/30	ミニデイ・クリスマス会 ペタング大会 ミニデイ 第3回公民館審議会 ミニデイ はなもも祭り
明治西部 公 民 館	4月 7/6 10/26 11/4 3月 予定	第1回運営審議会 カラオケ地区予選大会 明治地区運動会 越知町文化祭ミニ四駆体験会 ゲートボール場清掃
明治東部 公 民 館	8/14 12/22	片岡盆踊り開催支援 もちつき
横畠西部 公 民 館	7/14 7/14 7/14 7/25 8/17 10/20 10/31 12/1 2/2 予定 3/13 予定	横畠プール掃除 体育館掃除 カラオケ予選会 第1回運営審議会 横畠地区盆踊り 運動会 第2回運営審議会 バードゴルフ大会 たこあげ大会&料理開発 第3回運営審議会 カローリング

1 1. 越知町 国際交流協会

趣旨 目的	国際化が著しく進展する中であって、地方の国際化や多様化する国際活動へのニーズに対応し、本町においてより一層創造的な交流活動を展開するため、各種の国際化事業を計画するとともに、町民と行政との連絡調整を図り、住民文化の向上と地域における国際化及び国際交流の推進を図る。
事務局	越知町教育委員会・生涯学習課(越知町国際交流協会) 会員数 45 人
行 事	【本年度事業】 総会 役員会 5 月 18 日(土) 13 人参加 ALT トンプソン・オスカー氏 結婚式・披露宴 6 月 2 日(日) 68 人参加 (内 国際交流協会会員 21 人) 越知町文化祭での出店(国際交流の店) 11 月 2 日(土)～3 日(日)8 人参加 // パネル展示(ALT・英会話教室等) 11 月 2 日(土)～5 日(火) おちまちそとあそび 11 月 9 日(土)～10 日(日)6 人参加 料理教室(キムチづくり) 2 月 8 日(土)12 人参加 料理教室(アメリカの料理) 3 月 9 日(日)予定 【通年事業】 外国語教室 ◎韓国語教室 初級、中級、上級 申込人数 12 人(重複者あり) ◎英会話教室 初級、中級、上級 講師:ラファティ アリース マリー、クンズ・エリック・アンドリュース 申込人数 20 人(重複者あり)
成 果 と 課 題	今年度の大きなイベントは、国際交流協会が主体となり行なった、越知町の元ALTのオスカーさんの横倉神社での神前結婚式と披露宴です。手探りではありましたが、心温まる結婚式となり、ALT のご夫妻にも大変喜ばれ、思い出深いイベントとなりました。 また、ALT 歓迎会や送別会、忘年会などの懇親会も開催しました。懇親会では、会員同士の情報交換や今後の協会の活動についても提案が出されるなど、充実した交流となりました。来年度以降も開催したいと思います。 文化祭やおちまちそとあそびでは、例年どおり出店することができました。役員や会員が積極的に、出店・販売に協力することにより、一定の収入も得られているため、今後も継続していきたいです。 2 月にキムチ作りの教室と、3 月にALT2 名による郷土料理の教室を予定しています。料理教室は募集をかけるとすぐに定員に達するなど、会員の関心も高く今後も続けて開催したいと思います。 英会話教室は、ALT2 名が、担当クラスを持ち、初級～上級の3クラスで毎週開催しています。少しずつですが、新規会員も増えてきています。韓国語教室は、講師不在のため、各クラスとも自主学習に取り組んでいます。 来年度も事業やイベント等を積極的に開催できるよう、引き続き活動を継続していきたいと思っています。

教育相談所

教育相談員 岡林 康雄

1. 設置目的及び業務

青少年の健全な育成及び児童生徒の適正な就学を図るため、学校生活、家庭生活及び地域社会における児童生徒の教育上の諸問題に係る相談に応じます。

その他、越知町教育委員会が実施する幼児及び青少年健全育成のための諸事業の指導、助言を行う。

2. 名称及び設置場所

越知町教育相談所 町民会館 2 階 越知町越知甲 2 5 6 2 番地

相談員への予約申込・連絡 (0889) 26-3400

平日 8:30～16:30

3. 相談日及び受付時間

原則として毎週、月、火、木の午前 8 時 30 分～午後 4 時 30 分まで及び水曜日の午前中
教育相談専用電話の受付は、月曜日～金曜日 午前 8 時 30 分～午後 4 時 30 分まで
(祝日、年末年始を除く)

4. 相談方法

来所相談及び電話相談（場合によっては、訪問相談も行います。）

5. 歴代相談員名

氏 名	期 間	氏 名	期 間
西 清香	昭和 51 年～昭和 53 年	斎藤 富男	平成 4 年～平成 11 年
田中 勇太郎	昭和 54 年	沢村 周造	平成 12 年
能勢 節之助	昭和 55 年～昭和 56 年	藤田 米子	平成 13 年～平成 14 年
大野 正一郎	昭和 57 年	古味 博	平成 15 年～平成 23 年 3 月
小田 幸一	昭和 58 年～昭和 59 年	藤田 一夫	平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月
千頭 文明	昭和 60 年～昭和 63 年	山本 孝宜	平成 25 年 4 月～令和 7 年 3 月
岡林 統司郎	平成元年	岡林 康雄	令和 7 年 4 月～
近沢 美和	平成 2 年～平成 3 年		

6. 主な研修及び講習

高岡地教連教育支援部会研修

令和6. 4.	第1回教育支援部会	須崎市
令和6. 7. 11	第2回教育支援部会	日高村
令和6. 9. 26	第3回教育支援部会	須崎市
令和6. 11. 31	県内視察研修	香美市
令和6. 2. 20	第4回教育支援部会	佐川町

その他講習・研修

令和6. 5. 29	第1回教育支援センター連絡協議会	オンライン会議
令和7. 2. 5	第2回教育支援センター連絡協議会	県教育センター

社 会 体 育

少子高齢化・高度情報化に伴ってスポーツを取り巻く社会環境も多様化している。健康で生きがいのある生活を営むために、生涯にわたってスポーツに親しむことが必要になっている。

文部科学省では、スポーツ基本法に基づき、令和4年度から令和8年度までの5年計画で「第3期スポーツ基本計画」を策定、「東京オリンピック・パラリンピック競技大会(東京大会)のスポーツ・レガシーの継承・発展」に資する重点施策や、新たな3つの視点、「①スポーツをつくる/はぐくむ」「②スポーツであつまり、ともに、つながる」「③スポーツに誰もがアクセスできる」を支える施策を示している。

また、高知県も令和5年度から令和9年度までの5年計画で「第3期高知県スポーツ推進計画」を策定、スポーツの楽しさや感動を共有し希望と活力のある社会の実現に取り組むこととしている。このような中、現状にあったスポーツを普及させることは、越知町全体の健康増進や生涯教育活動の発展につながると考える。

本町では、総合型地域スポーツクラブ「おちスポーツクラブ」の充実を図り、地域住民のニーズに対応した地域スポーツを構築するとともに、近隣市町村の会員を含め地域のクラブとして発展していくことが、越知町のスポーツ発展につながっていくと考えているが、年々、会員の減少傾向が続いている。

1. 具体的目標

(1) 体育施設の活用

越知町民総合運動場及び学校体育施設の効果的な活用を図る。

(2) 体制づくりと指導者育成

指導者や社会体育職員及びスポーツ推進委員等の指導技術と資質の向上を図るため様々な取組みや研修会を行う。

また、「おちスポーツクラブ」の会員増と運営の充実を図るとともに、組織の基盤強化に努める。

(3) 広報活動等によるスポーツ推進

住民に対するスポーツ推進活動として、町広報誌に各種大会や大会結果、各スポーツ団体の活動報告等を掲載し、住民の参加やスポーツの楽しさを紹介する。

2. 本町の社会体育の現状

(1) 主催(後援)行事

①スポーツ大会・招待大会(主催・主管)

「日ごろの練習の成果や体力向上、また新しい仲間づくりや大会を通じての明るい町づくりを目指す」このことを目標に【別表2】のスポーツ大会を実施した。

②高吾北社会体育大会への参加

日高・佐川・越知・仁淀川町の4町村で構成する高吾北社会体育連盟主催の大会に参加。年々参加者や参加団体の減少傾向が続いている。

③体力・運動能力テスト

成年・高齢者を対象とした体力・運動能力テストを総合運動場体育館で実施した。

④スポーツ推進委員 参照【別表 3】

生涯スポーツ推進の指導者として、スポーツ推進委員の果たす役割は、ますます重要になっている。本町では現在、12名の体制で生涯スポーツの推進にあたっている。

⑤高知ファイティングドッグスとの連携

高知ファイティングドッグスのホームタウンとして練習場の無償提供を行っている。また越知町活性化事業として、町長杯などの各種イベント、小中学校の体育授業支援などを行っている。来年度以降もホームタウンとして高知ファイティングドッグスと連携し、地域住民のニーズに対応した地域スポーツ活動を構築していく。

⑥越知中学校屋内プールの一般無料開放

7月21日(日)～8月18日(日)までの29日間、越知中学校屋内プールを一般無料開放した。
利用者数は【別表 1】のとおり。

【別表 1】越知中学校屋内プール利用者数

	町内利用者数	町外利用者数	合計	備考
H30	678	205	883	
H31	668	154	822	
R2・R3	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			
R4	525	28	553	
R5	294	69	363	※小プール開放なし
R6	229	105	334	

【別表 2】各種大会一覧表

日 付	大 会 名	種 目	場 所	備 考
6月3日	町民スポーツ祭	ゲートボール	屋内多目的運動広場	参加 13 名
6月5日		モルック		参加 18 名
6月10日		スカッシュバレー	総合運動場体育館	参加 15 名
6月11日		カローリング		参加 30 名
6月14日		バドミントン		参加 31 名
6月16日		スポーツ吹矢	町民会館	参加 13 名
6月19日		6人制バレーボール	総合運動場体育館	参加 35 名
6月20日		ソフトバレーボール		参加 28 名
10月19日～	第 44 回高知県小学生野球越知新人大会	少年野球	総合運動場グラウンド 他	計 7 日間
10月22日	体力測定		総合運動場体育館	参加 11 名
11月19日	おちスポーツクラブカップ	カローリング	総合運動場体育館	参加 30 名
11月21日		ソフトバレー		参加 19 名
11月27日		6人制バレーボール		参加 48 名
11月28日		モルック	屋内多目的広場	参加 28 名
12月1日		※カローリング・スカッシュバレー・ゲートボールはおちスポーツクラブカップ兼高吾北社会体育連盟事業	スカッシュバレー	参加 75 名
12月2日		ゲートボール	屋内多目的広場	参加 15 名
12月6日		バドミントン	総合運動場体育館	参加 18 名
12月7日		スポーツ吹矢	町民会館	参加 12 名
1月19日	第 39 回ピッタリロードレース		越知小学校	参加 164 名
3月	スポーツ推進委員長杯	ソフトバレー	総合運動場体育館	
		カローリング		
		6人制バレーボール		
		スカッシュバレー		
		バドミントン		
		スポーツ吹矢	町民会館	

【別表 3】スポーツ推進委員

氏 名	
藤原 修一（委員長）	岡村 学
西村 幸一（副委員長）	鎌倉 憲一
松井 孝之	井上 弘章
刈谷 哲平	原賀 鮎子
大原 隆典	細川 知輝
岡崎 有希子	山地 耕平

（２）おちスポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブとは、会費を主な財源に会員が自主運営するクラブのことで、年齢に関係なくいつでも、だれでも参加できるのが特徴である。入会すると社会スポーツ団体は週に２度、１回の練習につき２時間まで、少年団体に関しては練習回数、時間を問わず、施設利用料免除等、非常に恵まれた活動ができるが、平成 17 年度設立以降、年々会員数が減少傾向にあるのが実状である。

このことから、広報活動紙などで広く呼びかけ、会員数の増加と多世代・多種目でいつでもだれでも気軽に参加できるクラブとして、地域住民が気軽にスポーツができるクラブづくりをめざしている。※参照【別表３】

○おちスポーツクラブミッション

- ・みんながスポーツ、文化を楽しむ
- ・地域づくりに貢献
- ・青少年の健全な育成

①少年スポーツクラブ

学校体育とは異なり、地域の熱心な指導者のもと 8 団体が活動し、各部とも週 3～5 日程度の練習に励んでいるが、少子化問題等で子どもの数が減少し、入部者数も減少傾向となっている。

空手や柔道など近隣町村で活動が行われていないクラブもあり、町外の子供達の加入も多いが、小学生と中学生と一緒に練習しているため、一貫した指導が行われている。

②社会スポーツ団体

スポーツクラブには、町内外から 22 の団体が登録している。それぞれが計画を立てて独自に活動しているが、少年団体同様減少傾向にある。活動は主に夜間に行なわれている。

【別表３】おちスポーツクラブ会員数

クラブ名	種 目	人 数	活 動 日	場 所
少年柔道(小・中・大人)	柔道	18 人	月、火、木、金、土、日	越知中学校武道館 総合運動場武道館
少年空手道	空手道	6 人	木、金、日	総合運動場武道館
越知バッファロー	小学生野球	30 人	火、木、金、土、日	総合運動場・屋内広場
越知サッカースクール	小学生サッカー	19 人	火、水、土、日	
CFS+	小学生サッカー	7 人	月、金	
越知エンジェルス	小学生バレー	11 人	火、木、金、土、日	越知小学校体育館
KSS 愛好会	小学生バレー	5 人	火、木	総合運動場体育館
中学男子バスケットボール	バスケットボール	10 人	火・水・土	
小計		106 人		

クラブ名	種 目	人 数	活 動 日	場 所
役場・GLUCK	6人制バレー	15人	水	総合運動場体育館
越知 DEVILS	6人制バレー	5人	水	
ハングオーバー	サッカー	5人	火	総合運動場
スカッシュバレー連盟	スカッシュバレー	7人	月、金	越知小学校体育館
おちスカ		5人	木	総合運動場体育館
グランドゴルフ	グランドゴルフ	9人	月、水	屋内多目的運動広場
越知中央ゲートボール	ゲートボール	15人	月（不定期）	
バドミントン愛好会	バドミントン	10人	金	総合運動場体育館
越知ファミリー	ソフトバレー	6人	木	
越知スポーツ吹矢クラブ	スポーツ吹矢	8人	木、日	町民会館
越知体育会	屋内スポーツ	13人	月、金、土、日	総合運動場体育館
和の輪	カラーリング	9人	不定期	横畠体育館
友カラーリングクラブ	カラーリング	8人	月、木	総合運動場体育館
ピラティス	ピラティス	7人	水、金	町民会館
個人会員		2人		
小計		124人		
合計		230人	※W会員含む	

（３）施設

昭和５６年に越知町民総合運動場が完成。施設全体（体育館、グラウンド、武道場、ゲートボール場、プール）が同じ時期に建設されており、改修を終えている体育館以外の施設については対応年数も過ぎ、各施設の維持管理対策が課題となっている。プールについては、老朽化により、平成３０年度をもって、一般開放を廃止することとなった。

町民会館に隣接する屋内多目的広場は利用者が多く、グラウンドゴルフやゲートボール愛好者が利用しており、近隣町村（佐川町、仁淀川町）からの利用も多い。また、高知ファイティングドッグスや、少年サッカー・少年野球部も、雨天練習場としても利用している。

学校施設開放事業については、各小中学校の体育館など地域住民のニーズに応じて活用されている。平成２９年度から越知中学校プールの一般開放を開始したが、利用が少なく利用者向上に向けての対策が課題となっている。

なお、町民会館の屋外テニスコートにおいては、今後、施設の新たな活用方法について検討等行うことが必要となっている。

以上を踏まえ、近隣町村の生涯スポーツの場としても利用されるような運営を行うとともに、今後は多様化するニーズにあった施設整備構想および計画を検討する必要があると考えている。

横倉山自然の森博物館

1. 設立趣旨

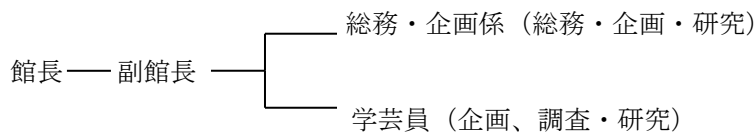
越知町のシンボルとして町民に親しまれてきた横倉山は、地質・化石、植物、歴史・伝説の点で全国的に有名な山です。特に、4億5千万年前のサンゴを中心とした化石が産出され、全国屈指の豊富な植物相を有し、日本唯一とも言われるアカガシの原生林が残っています。世界的な植物学者・牧野富太郎博士の研究のフィールドとしても知られる横倉山には、博士らの発見・命名によるコオログランなどの希少植物が自生しています。また、「安徳天皇陵墓参考地」（宮内庁所轄）や平家伝説に関する遺構もあり、見所が多く山全体が歴史とロマンに満ちた類希な存在といえます。一方、高知県の県鳥・ヤイロチョウが毎年飛来し、その美しい鳴き声が聞かれ、クマタカなどの絶滅危惧種の野生動物も生息しています。

横倉山自然の森博物館は、このような豊富な自然と、貴重な資料や歴史を内包する横倉山を保護し、確実に後世に継承していくことを主たる目的に、資料の調査・研究の下にそれらを保管・展示し、普及活動を行っていく施設として、世界的建築家・安藤忠雄氏の設計により平成9年に建設されました。

横倉山への導入施設として、また子供から大人まで横倉山を中心に地球の歴史をも学習できる社会教育施設として位置づけています。自然の宝庫横倉山から全国へ環境保護の重要性を発信し、学校との連携の下、環境教育や総合学習、生涯学習等に役立てることも当館の重要な使命の一つだと考えています。

2. 組織・運営

(1) 体制



職 名	氏 名
館 長（教育長兼務）	織田 誠
副館長（生涯学習課兼務）	大原範朗
企画係・研究係	壬生博文
総務係	山崎美幸
学芸員	谷地森秀二
学芸員	宮地 萌
受付・事務	伊藤まみ，尾崎知子

(2) 博物館協議会（年1回開催）

会 長：山本孝宜

委 員：井上 蘭・宅間一之・西森久男・前田綾子・三本健二・岡田直樹
高橋正児・小野浩玄・安藝友紀子

(3) 施設利用

〔開館時間〕 午前9時から午後5時まで（最終入館は午後4時30分）

〔休 館 日〕 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月2日）

〔入 館 料〕 大人：500円、高校・大学生：400円、小・中学生：200円

各20名以上の団体は100円引き；70歳以上の方…半額、身障者の方…無料

※企画展開催中 越知町内の小・中学生…無料

3. 活動

令和 6 年 3 月から令和 6 年 5 月まで、企画展「横倉山の自然は、いま～横倉山生物総合調査報告～」を開催した。これは当館とオフィシャルパートナー協定を結んでいる認定特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター主催による 2019 年度から 2022 年度にかけて実施した横倉山およびその周辺地域に生息する生物相を明らかにするための調査結果をポスター形式で発表したものである。調査には高知県内外の生物研究者が参加し、広範な生物分野を網羅的に調べることができた。得られた成果の中には、新種と考えられる種、四国や高知において初記録となる種などがいくつか含まれ、学術的に貴重な情報を入手することができた。今後、この調査によって得られた知見を、当館の展示や講座などを通じて順次発信していくこととしている。

7 月から 11 月にかけては、古生物復元画の第一人者である画家・イラストレーター 小田隆氏の原画を展示。美術的観点と科学的観点の両面から、絶滅した動物をよみがえらせる復元画の魅力を紹介する企画展を開催した。

また、ほぼ同時期である 9 月から 11 月にかけて、もう一つの企画展である「コウモリがいっぱい」を開催した。毎晩大量の昆虫を食べ、生態系のバランスを維持するのに重要な役割を果たしているコウモリを紹介する内容で、全国のコウモリ研究者により構成された「コウモリの会」に協力いただきながら、「世界のコウモリ・日本のコウモリ」、「最新の横倉山コウモリ」を写真や実物標本を用いて紹介した。会期中の 9 月 21 日から 22 日には、「第 28 回コウモリフェスティバル 2024 in 横倉山」を開催した。

企画展はこれらのほかに、「第 5 回越知小中学校学習発表」を開催した。

また、3 月 22 日からは越知町内の廃校となった小中学校から卒業記念集合写真を借り受け一堂に紹介する「越知の人々～卒業記念集合写真編～」を開催予定。

横倉山の知識を提供する講座「博物館教室」、横倉山の今を紹介する「自然観察会 横倉山の生きもの調べ」を昨年度から引き続き開催し、主に生物を中心に横倉山の更なる魅力を広く伝える活動を展開した。

横倉山の魅力を伝えるツールとして導入したバーチャルリアリティ体験プログラムでは、新たに「横倉山の森林」というテーマの番組を作製した。内容としては、空撮映像を基に、横倉山の植生について、宮の前公園ならびに坂折川周辺から標高が上がるにしたがって森林の様子（植生）が変わることと、それぞれの植生のその成り立ちなどについて 7 分間で紹介するものである。

龍馬パスポートと関連させた体験イベント「缶バッジづくり」はたいへん好評であったが、担当として取り組んできた地域おこし協力隊員である宮地萌の任期切れに伴い昨年度末で終了した。

横倉山自然の森博物館友の会「フォレスト・クラブ」、こうちミュージアムネットワークと積極的に連携を図り、活動の充実化とともに高知県産生物標本の調査、収集、保管、活用を図った。

令和6年度博物館活動記録 上半期（R6.4～9）

月	企画展・共催展等	博物館行事		参加・入館者数	その他
4	3/23（土）～R6.5/26（日）[1,878名] 企画展「横倉山の自然は、いま」	4/7(日)	横倉山生物総合調査ポスター内容説明会	参加者：20名	
		4/13(土)	（観察会）横倉山の生きもの調べ「スマイレの仲間たち」	参加者：10名	
5		5/5(日)	横倉山生物総合調査ポスター内容説明会	参加者：59名	
		5/18(土)	カエルのタペ	参加者：15名	
6		6/2(日)	（講座）四国の自然・横倉山の自然「四国のカエル・横倉山のカエル」	参加者：4名	6/12(水)～13(木) 越知中学校職業体験3名 (担当：宮地)
		6/16(日)	（観察会）横倉山の生きもの調べ「ヨコグラノキの花」	参加者：2名	
7	7/6（土）～11/24（日）[4,778名] 企画展「古生物復元画の世界」	7/7(日)	（講演会）特別展「洞窟に落ちた動物たち」	参加者：15名	
		7/21(日)	（観察会）横倉山の生きもの調べ「坂折川の魚」	参加者：17名	
8		8/24(土)	土の中の虫たち	参加者：14名	
		8/31(土)	ワークショップ「恐竜を描こう」	台風接近中止	
9	9/14（土）～11/4（月）[2,116名] 企画展「コウモリがいっぱい」	9/14(土)	（観察会）横倉山の生きもの調べ「ムササビとコウモリのタペ」	天候不良中止	

令和6年度博物館活動予定 下半期（R6.10～R7.3）

月	企画展・共催展	博物館行事		その他
10		10/6(日)	(講座)「愛媛県西予市の地形・地質の上で育まれた自然と文化 -四国西予ジオパークが伝えたいこと-」 参加者：14名	
		10/11(金)	開館記念日 入館料無料 入館者：74名	
		10/15(火)	臨時開館（コスモス祭り期間） 入館者：51名	
		10/20(日)	(講座) 四国の自然・横倉山の自然「仁淀川の石を磨こう」 参加者：10名	
11	↓ 9/14(土)～11/4(月) 企画展「コウモリがいっぱい」	11/3(日)	(講演会)「高知の化石から探る太古の地球」 参加者：14名	
		11/17(日)	(観察会) 横倉山の生きもの調べ「横倉山の樹木」 参加者：6名	
	↓ 7/6(土)～11/24(日) 企画展「古生物復元画の世界」			
12	12/21(土)～2/2(日) ● 企画展「第5回越知小中学校学習発表」	12/8(日)	(講座) 四国の自然・横倉山の自然「あゆの病気のお話」 参加者：17名	
		12/15(日)	(観察会) 横倉山の生きもの調べ「冬の鳥たち」 参加者：11名	
1		1/3(金)	特別開館 入館料無料 入館者：91名	1/28(火)・1/30(木)～2/1(土) 4日間 伊野商業高校生インターンシップ1名
		1/5(日)	(講座) 四国の自然・横倉山の自然「オオサンショウウオのおはなし」 参加者：19名	1/24(金)～2/6(木) 四国の山々たんね歩記展 企画課（地域おこし協力隊員）主催
		1/19(日)	(観察会) 横倉山の生きもの調べ「博物館のまわりで動物を写そう」 参加者：2名	1/26(日) お話し会（四国の山々たんね歩記展）
2		2/16(金)	(観察会) 横倉山の生きもの調べ「巣箱を使う動物たちを写そう」	
3	● 3/22(土)～5/25(日) 企画展「越知の人たち ～卒業記念集合写真編～」	3/2(土)	(講演会)「旅立ちの詩～地域おこし協力隊卒業～」	
		3/16(土)	(観察会) 横倉山の生きもの調べ「水の中の虫たち」	



3/23～5/26 企画展
「横倉山の自然は、いま」



4/7・5/5講座「横倉山生物
総合調査ポスター内容説明会」



4/13 観察会
「スマイレの仲間たち」



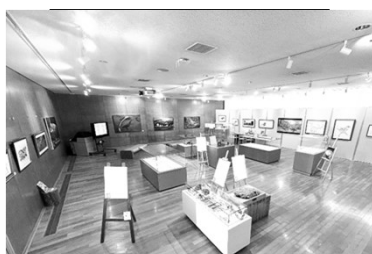
5/18 観察会
「カエルのタベ」



6/2 講座「四国のカエル
・横倉山のカエル」



（友）6/15
「仁淀川水質調査」



7/6～11/24 企画展
「古生物復元画の世界」



7/7 講演会「特別展
洞窟に落ちた動物たち」



（友）7/17
横倉山植物保護柵設置



7/21 観察会
「坂折川の魚」



8/24 観察会
「土の中の虫たち」



（友）9/1
おちぞら★夏の星観察会



9/14～11/4 企画展
「コウモリがいっぱい」



9/21・22 第28回コメリ
フェスティバル2024in横倉山



10/6 講座「愛媛県西予市の地形
・地質の上で育まれた自然と文化」



10/20 講座
「仁淀川の石を磨こう」



11/3 講演会「高知の化石
から探る太古の地球」



11/17 観察会
「横倉山の樹木」



(友) 11/23・24
奈良県視察研修1泊2日



12/8 講座
「あゆの病気のお話」



12/15 観察会
「冬の鳥たち」



12/21～2/2 企画展
「第5回越知小中学校学習発表」



(友) 1/1 「2025年の
初日の出を横倉山で」



1/5 講座
「オオサンショウウオのお話」



1/19 観察会「博物館の
まわりで動物を写そう」



(友) 1/26 「おちぞら★
冬の星観察会」

博物館行事

企画展

「横倉山の自然は、いま～横倉山生物総合調査成果報告～」

2024年3月23日(土)～2024年5月26日(日) 入場者数:1,878人
横倉山自然の森博物館と四国自然史科学研究センターが協力した「横倉山生物総合調査」の成果発表を行いました。調査した生物は植物、哺乳類、鳥類、魚類、昆虫類など多岐にわたりました。来館者へ横倉山を中心とした仁淀川中流域の最新の生物情報を提供することができました。



「古生物復元画の世界」

2024年7月6日(土)～2024年11月24日(日)

図鑑や博物館のグラフィックを数多く手がける画家・イラストレーター 小田 隆氏の原画を展示しました。四国では初の原画展となりました。

膨大な資料を元に、科学的に進められる制作プロセスを辿り、美術的観点と科学的観面の両面から、絶滅した動物をよみがえらせる復元画の魅力を紹介しました。本展を通して、地球の生み出した生命に迫る科学と、それを描き出す画家の情熱に触れていただけだと思います。



「コウモリがいっぱい」

2024年9月14日(土)～2024年11月4日(月・祝) 入場者数:2,116人
全国のコウモリ研究者が会員となっている「コウモリの会」にご協力いただいた企画展です。

毎晩大量の昆虫を食べ、生態系のバランスを維持するのに重要な役割を果たしているコウモリ。これらのコウモリについて、コウモリと人との関わり、世界のコウモリ・日本のコウモリ、最新の横倉山コウモリ情報を多くの人に知ってもらうために、写真や解説パネル、実物標本などを展示しました。



自然観察会「横倉山の生きもの調べ」

「スマレの仲間たち」

4月13日(土)〔講師:大利卓海(株式会社相愛)、参加者:10名〕

横倉山の第三駐車場から安徳水までの間で、春に見られるスマレなどの小さな花を観察しました。



「カエルのタベ」

5月18日(土)〔講師:谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者:15名〕

博物館の水庭に入って、カエルをさがしました。ニホンアマガエル、シュレーゲルアオガエル、ツチガエルを見つけられ、鳴き声の聞きくらべも行いました。



「ヨコグラノキの花」

6月16日(日)〔講師:谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者:2名〕

牧野博士が名前をつけた植物ヨコグラノキ。横倉宮の隣に今もたたずむ、博士も触れたであろうヨコグラノキに会いに行きました。今年も咲いている花を観察することができました。

「坂折川の魚」

7月21日(日)〔講師:阪本匡祥(ニッポン高度紙工業株式会社)、参加者:17名〕

仁淀川支流の坂折川で、浅瀬にすむ生きものを観察しました。長靴を履いて川に入り、小さな網で生きものを捕まえて、種類や生態について紹介しました。横倉山生物総合調査では確認できていなかったニホンイシガメが出現しました。



「土の中の虫たち」

8月24日(土)〔講師:宮地 萌(地域おこし協力隊)、参加者:14名〕

横倉山の土の中や落ち葉のすきまにいるトビムシなどの小さな生きものを観察しました。大人も子供も懸命に生き物を観察する様子が見られ、とくにカニムシの仲間が見つかった時には大いに盛り上がりました。



講座「四国の自然・横倉山の自然」

「横倉山生物総合調査ポスター内容説明会」

4月7日(日)・5月5日(日)〔講師:横倉山生物総合調査員の皆さん、参加者:79名〕

横倉山生物総合調査で分かった横倉山の生物について紹介されたポスター発表について、調査に参加した方々による詳細な説明を聞く会を行いました。調査結果に加えて、調査時の様子などについても来場者へ紹介することができ、また調査員同士の情報交流もできました。



「四国のカエル・横倉山のカエル」

6月2日(日)〔講師:谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者:4名〕

昼間の博物館の水庭で、カエルをさがしました。ニホンアマガエル、ツチガエルを見つけることができ、また高知県が注目種に指定しているアカハライモリも多くの個体を観察することができました。

「特別展 洞窟に落ちた動物たち」

7月7日(日)〔講師:森 浩嗣(佐川地質館学芸員)、参加者:15名〕

佐川町周辺の洞窟には、氷河期と暖かな時代の動物の骨が残っていて、これらを調査することで四国の動物の歴史を知ることができます。これまで行われた調査で分かったことを紹介した佐川地質館の特別展「洞窟に落ちた動物たち」(令和7年5月6日まで開催)について紹介いただきました。



越 知 町 少 年 育 成 セ ン タ ー

1. 少年育成センターの沿革と組織・運営

(1) 沿革

昭和48年度、補導育成センター開設の準備活動開始

昭和49年 7月 1日 越知町少年補導センター開設

昭和51年10月 1日 越知町少年育成センターと改称

歴代所長及び職員一覧

【昭和49年度～平成19年度分省略】

年度	所在地	所長名	兼専	職員名	兼専	補導専門職員名	婦人補導職員名
20	町民会館	山中弘孝	兼	西川光一	兼	箭野龍雄 (補導専門職員)	山中美和 (少年補導職員)
21	町民会館	山中弘孝	兼	河添りか	兼	箭野龍雄 (補導専門職員)	山中美和 (少年補導職員)
22	町民会館	北添太三	兼	河添りか	兼	安田文明 (補導専門職員)	河口 唯 (少年補導職員)
23	町民会館	高橋昌彦	兼	河添りか	兼	安田文明 (補導専門職員)	河口 唯 (少年補導職員)
24	町民会館	高橋昌彦	兼	前田桂蔵	兼	安田文明 (補導専門職員)	西村 唯 (少年補導職員)
25	町民会館	高橋昌彦	兼	前田桂蔵	兼	安田文明 (補導専門職員)	西村 唯 (少年補導職員)
26	町民会館	高橋昌彦	兼	前田桂蔵 武智久幸	兼	安田文明 (補導専門職員)	本年度より佐川署 少年補導職員配置なし
27	町民会館	上田和浩	兼	武智久幸	兼	福永教男 (補導専門職員)	配置なし
28	町民会館	上田和浩	兼	武智久幸	兼	福永教男 (補導専門職員)	配置なし
29	町民会館	谷岡可唯	兼	武智久幸	兼	福永教男 (補導専門職員)	配置なし
30	町民会館	谷岡可唯	兼	武智久幸	兼	西森昭彦 (補導専門職員)	配置なし
R1	町民会館	谷岡可唯	兼	武智久幸	兼	西森昭彦 (補導専門職員)	配置なし
R2	町民会館	谷岡可唯	兼	武智久幸	兼	西森昭彦 (補導専門職員)	配置なし
R3	町民会館	小松大幸	兼	壬生博文	兼	西森昭彦 (補導専門職員)	配置なし
R4	町民会館	小松大幸	兼	壬生博文	兼	西森昭彦 (補導専門職員)	配置なし
R5	町民会館	大原範朗	兼	壬生博文	兼	岡林康雄 (補導専門職員)	配置なし
R6	町民会館	大原範朗	兼	壬生博文	兼	岡林康雄 (補導専門職員)	配置なし

(2) 設置の概要

① 設置の目的(昭和49年6月18日、設置条例第1条)

少年問題を扱う関係機関及び団体等が、相互に緊密な連絡調整のもとに、非行化しあるいは非行化の恐れのある少年に対する補導活動、並びに子育てクラブ、子ども会等の育成活動を総合的かつ効率的に行い、もって少年の健全な育成を図るため少年育成センターを設置する。

② 設置の場所

高知県高岡郡越知町越知甲 2562 番地

越知町民会館内 TEL(0889)26-2060

(3) 組織と運営

① 職員の構成

所長 大原範朗(生涯学習課長) 副所長 壬生博文(生涯学習課補佐兼係長)

補導専門職員 岡林康雄

② 補導員 定員 30 名以内(任期 2 年間・令和 6 年度～令和 7 年度)

矢野有茶 越知小学校長	井口健太郎 越知小学校教諭	細川知輝 越知小 PTA 会長	
須内康雄 越知中学校長	岡本有生 越知中学校教諭	米澤紗代 越知中 PTA 会長	山本孝宜 越知町補導員
佐川署 刑事生活安全課長	佐川署 刑事生活安全課係長	佐川署 刑事生活安全課少年係	仲村貴介 越知町補導員
箭野正昭 越知町補導員	西森義高 越知町補導員	栗田茂樹 越知町補導員	岡林康雄 越知町補導専門職員

2. 活動方針

(1) 基本方針

少年育成センターは、関係機関・団体等と連携・協調を密にし、育成活動を効率的に行い、少年の健全育成を図る。

(2) 重点目標

① 補導活動

- イ 早期発見、早期補導の徹底 街頭補導による指導の強化に努める。
家庭・学校・関係機関との連携に努める。
継続補導・補導員相互の連携と情報交換に努める。
- ロ 非行防止活動の充実 広報活動による啓発及び相談活動の推進を図る。
- ハ 有害環境の浄化 町民への理解と協力を求める。

② 育成活動

- イ 育成活動の推進 青少年育成越知町民会議、子育てクラブ、子ども会、スポーツ少年団等の組織及び団体の育成、指導に努める。
- ロ 指導者の確保等に努める。

3. 補導活動の概要

(1) 月別（定例）夜間補導活動

育成センター補導員と佐川警察署少年係による月2回（2～3名の3グループで実施）

(2) 合同夜間補導活動

育成センター補導員、越知小・中学校教員、PTAによる合同夜間補導

<実施日時>

- | | | |
|-----------------|----------------|-----------------|
| ① 令和6年 7月20日（土） | 「文殊祭」 | 【時間】20:00～21:00 |
| | ※町補導員、学校関係者で実施 | |
| ② 令和6年 7月27日（土） | 「によどかあにばる」 | 【時間】20:00～21:00 |
| | ※町補導員、学校関係者で実施 | |
| ③ 令和6年12月 7日（土） | 「点灯式イベント補導」 | 【時間】19:30～20:00 |
| | ※町補導員3名で実施 | |
| ④ 令和7年 3月29日（土） | 「ぼんぼり桜まつり」 | 【時間】18:30～19:30 |

(3) 他の補導活動、他機関との連絡調整、研修会への参加【主に毎年実施されている】

- ① 育成センター職員と補導専門職員による登校時のあいさつ運動と下校時の巡回補導及び不審者に対する警戒活動を週4回程度実施
- ② 「越知町少年補導員連絡会」を開催し、補導活動の現況や今後の補導対策等について、補導員と佐川警察署との情報交換を行う。また、中部地区との合同の講演会を実施
- ③ 近隣市町村との育成センターとの補導状況等情報交換を行う。
- ④ 佐川地区学校警察連絡協議会総会
- ⑤ 佐川地区少年警察ボランティア協会総会（佐川地区少年補導員連絡協議会総会）
- ⑥ 佐川警察署管内被害者支援ネットワーク連絡会
- ⑦ 中部地区少年補導育成センター連絡協議会（市町村持ち回りにより年間3回実施）
- ⑧ 中部地区少年補導育成センター合同による補導活動（市町村持ち回りにより年間3回実施）
- ⑨ 中部地区少年補導育成センター、高知市少年補導センター合同補導（ハロウィン）
- ⑩ 中部地区少年補導育成センター合同によるJR列車補導活動（適宜実施）
- ⑪ 高知県少年補導育成センター連絡協議会総会
- ⑫ 高知県補導教員・補導専門職員合同連絡協議会

4. 少年補導の状況

(1) 高知県非行少年の概要(各年の1月～12月分) *確定値

行為別 年別		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
刑法犯	犯罪少年	94	78	94	104	88
	触法少年	61	50	57	58	57
	小計	155	128	151	162	145
特別法犯少年		19	33	36	30	23
ぐ犯・不良行為少年		1,689	1,374	1,569	1,405	1,509
総計		1,863	1,535	1,756	1,789	1,677

(2) 佐川警察署管内の補導状況推移(各年の1月～12月分) *確定値

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
佐川署管内	23	17	8	6	16
越知町関係	2	5	1	0	0

※令和3年度、越知町は1件のみ。個人が特定されるので警察からは補導内容は公表なし

(3) 補導・非行防止・啓発活動の概要(令和6年1月～令和6年12月末)

- ① 登校時パトローを兼ねてあいさつ運動を地域の方、児童会、生徒会、先生と行った。自主的にあいさつ運動に参加する児童・生徒も増えてきた。子ども達は、元気よくあいさつができています。下校時のパトロールにおいて不審者や問題行動を起こすものはいなかったが、イノシシの出没や犬に吠えられた場所は重点的に巡回した。また夜間補導においても子どもと遭遇することはほとんどなかった。近年、越知町少年育成センターが補導した件数は0件であるが、町外で補導された事案が1件、SNSがらみで、警察が少年補導で扱う事案も起きている。不審者情報は、近隣市町村から数件、町内では3件の情報が寄せられたが、子どもへの被害はなかった。
- ② 万引きについては、下校パトロールの際に店の協力を得て情報収集に努めているが、万引の報告はない。また、県から出された「子ども見守りプラン」に基づき、町内の店舗に「深夜徘徊・万引き防止一声運動」のポスター掲示の協力を毎年お願いしている。
- ③ 高知県地域福祉部児童家庭課が中心となり、全国展開している下記の活動を県下各地でも実施してきた。越知町でも「非行防止と有害環境浄化への啓発活動」として、期間中、パトロールの強化と啓発活動を行った。

【青少年の非行・被害防止全国強調月間 7月1日(月)～31日(木)】

【子ども・若者育成支援強調月間 11月1日(金)～30日(土)】

5. 令和6年度育成センターの主な活動・会議等

期 日	曜日	主 な 活 動 等	場 所
4 月 25 日	木	高知県補導センター連絡協議会所長会	高知市
5 月 24 日	金	第1回高知県補導育成センター連絡協議会総会	高知市
6 月 26 日	水	第1回中部地区少年補導育成センター連絡協議会	中土佐町
7 月 3 日	金	高知県少年補導育成センター連絡協議会	土佐町
7 月 13 日	木	佐川地区学校警察連絡協議会総会	佐川警察署
7 月 20 日	土	越知町「文殊祭」夜間一斉補導	越知町内
7 月 24 日	水	第1回中部地区少年補導センター合同一斉補導	佐川町
7 月 27 日	土	越知町「によどかあにばる」夜間一斉補導	宮の前公園
8 月 8 日	木	佐川地区学校警察連絡協議会総会	佐川警察署
8 月 9 日	火	中部地区合同列車及び高知市花火大会補導	高知市
8 月 28 日	水	佐川地区少年警察ボランティア協会総会	佐川警察署
9 月 20 日	水	越知町少年補導員連絡会	町民会館
10 月 24 日	木	第2回中部地区少年補導育成センター連絡協議会	津野町
11 月 8 日	金	高知県補導教員、補導専門職員連絡協議会	黒潮町
11 月 29 日	金	佐川警察署管内被害者支援ネットワーク連絡会	佐川警察署
12 月 9 日	土	イルミネーション点灯式	役場前広場
1 月 16 日	木	第2回中部地区少年補導センター合同一斉補導	日高村
月 日	月	第3回中部地区少年補導育成センター連絡協議会	梶原町
月 日	木	第3回中部地区少年補導育成センター合同一斉補導	土佐市

6. 令和6年度育成活動

(1) 越知町子育てクラブ（令和4年4月1日より越知町母親クラブから名称変更）

- ① 名称 越知町子育てクラブ（越知町母親クラブ、昭和49年結成）
- ② 目的 （規約第2条）父母等が子ども達の健康・しつけ・遊び等についてよりよい知識を学び、家庭及び地域社会において子どもの健全育成を図ることを目的とする。
- ③ 役員 会長 小田達 副会長 矢田岳 西森鈴菜 監査 井上蘭 大槻美貴
- ④ 活動方針
 - イ 子ども達の社会参加を通じて、自主・自立・協調の精神と、自分で行うべき判断力や実践力、また仲間との人間関係における責任や協力、礼儀など人としての必要不可欠な資質を養うこと
 - ロ 親同士の親睦、子ども達のふれあいを図り、社会性を伸ばす事業や地域の清掃活動などに積極的に参加し、社会的マナーを養うこと
 - ハ お年寄りとの交流や社会福祉活動に参加する等、地域社会の状況を体験して、高齢者

との交流を深め、クラブ活動としての意義を高めること

二 関係機関等（教育委員会・社会福祉協議会）の活動に積極的に参加し、より多くの体験を通して、クラブ活動本来の非行防止及び健全育成の目的に努めること

ホ 会員の拡大を図ること

⑤ 令和6年度の行事（青少年育成県民会議共催）

7月21日（日）流しそうめん in English 参加者55人
敬老福祉活動事業（ポケットティッシュの配付）

9月29日（日）バーベキュー バウムクーヘン バスツアー 参加者38人
（土佐町いしはらの里）

11月23日（土）手作りピザとペットボトルロケット 参加者32人
（野老山おとなの学校）

2月15日（土）桂浜水族館 タタキ体験 参加者42人
（桂浜水族館）

（2）子ども会

① 横畠子ども会

イ 結 成 昭和56年結成以来、毎年創意工夫、意義ある活動、内容の充実へと努力を重ねてきた。昭和61年度から、横畠小学校の児童、父母全員が加入し、文字通り校下ぐるみの会へと発展。平成15年4月横畠小学校休校に伴い、児童はそれぞれ越知小学校に編入したが、子ども会は存続することに決定し、公民館活動と連携のもと活動が続けている。

ロ 役 員 会 長 山本直人

ハ 令和6年度事業

8月17日（土）横畠地区盆踊り

10月20日（日）横畠地区民運動会

12月・1月予定 バードゴルフ大会・たこあげ大会

横畠子ども会は、毎年、子どもが減少し事業実施が難しくなっているが、今年も、子供のいる家族と協力して例年通りの行事を開催し、地域住民との交流を図った。今後も子どもが地域にいる限り、できるだけ事業を実施していこうと考えている。

② 野老山子ども会

イ 結 成 昭和58年7月結成以来、ぐるみ会やPTAとの交流の中で地域に密着した活動を進めてきた。

ロ 目 的 ・異年齢の集団活動を通じて自主・自立・協調・友情を育てる。

・「おとなの学校」や地域の高齢者との交流を深める。

・活動の計画や実施、反省の過程を通して親子の信頼関係を深める。

・住みよい地域社会を作るため、ボランティア活動に積極的に参加する。

ハ 組 織（役員） 会 長 井上昌治

二 令和6年度行事 10月13日（日）体育館で軽スポーツ運動会

11月30日（土）イルミネーション点灯式

1月 1日（水）野老山地区新年体育はじめペタンク大会

野老山子ども会は、地域住民との交流を図るため、公民館やおとなの学校の協力を得て活動を行っている。本年度は、イルミネーション点灯式を開催し、七夕づくり、運動会、芋ほり、体育はじめ、伝承行事、ひな祭り、はなもまつり等の地域の行事に参加している。子どもの数が減り、活動に参加できる家庭数が減少しているが、旧野老山小学校のグラウンドから子どもの声が消えることのないよう活動を行っている。

（３）明治地区ぐるみ会

イ 結 成 昭和５７年

ロ 目 的 青少年の健全育成を目指すとともに、地域の教育力を高め、ひいては明るく豊かな明治地区づくりに寄与することを目的とする。

ハ 事 業 前項の目的を達成するため、次の行事を行う。

- １ 明治地区ぐるみ運動会の実施
- ２ 美化運動の推進
- ３ 挨拶運動の推進
- ４ 研修会の推進
- ５ 児童・生徒・青少年の健全育成
- ６ 福祉活動
- ７ その他・本会の目的を達成するために必要な事項

二 役 員 会 長 細川知輝

副会長 岡林富士夫 栗田茂樹 仲村貴介 岡林 翠

監 事 岡林直久 中内利幸

事務局 片岡大介 岡林 牧

ホ 令和６年度事業

- ５月２７日（月） 明治地区ぐるみ会理事会・総会
- ６月２３日（日） 愛校作業
- ７月２１日（日）～８月３１日（土）夏休み中の児童・生徒に対する生活指導
- １０月１３日（日） 愛校作業
- １０月２６日（土） 第４２回明治地区ぐるみ会運動会

通 年 １ 明治地区ぐるみ会会則により

ア 青少年の健全育成及び地域の教育力向上のための事業

イ 明治地区ぐるみ会運動会の実施

ウ 環境美化運動の推進

エ 高齢者等が健康で暮らせる地域づくりの推進

オ 災害に強い地域づくりの推進

等の事業を行い、地区民一人ひとりが支え助け合い、健康で明るく安心して暮らせる地域づくりに寄与することを目的とする。

２ 明治中学校維持管理委託作業として、毎月４回、校舎や校庭の点検及び周辺の草刈作業などを行っている。

- 3 随時、機関紙「明治ぐるみ会」を発行し、地域の情報や行事予定などを住民に広報し、地域に溶け込んだ活動を行っている。

(4) 少年スポーツクラブ

越知町体育協会に所属する少年団体のスポーツクラブは、野球・バレー・柔道・空手・サッカー、中学男子バスケットボールがあり、種目ごとにそれぞれ熱意ある指導者のもとに練習に励み、各大会において好成績を残している。その活躍は広報「おち」にも掲載され、毎年町民を元気づけている。

7. 青少年育成越知町民会議

(1) 発足年月日 昭和53年3月19日

会 長 越知町長 事務局 越知町少年育成センター

(2) 目的（会則第3条）

青少年のもつ重要性に鑑み、広く町民の総意を結集し、行政施策と呼応して、次代の日本を担う青少年の健全な育成を図ることを目的とする。

(3) 会費

越知町民1世帯につき、年間200円の会費をお願いしている。

(4) 活動

① 令和6年度の主な活動・会議等

期 日	曜日	内 容	場 所
5月8日	水	第1回青少年育成高知県民会議会長・副会長会	高知市
5月14日	火	第1回青少年育成高知県民会議理事会	高知市
5月27日	月	青少年育成越知町民会議役員会	越知町役場大会議室
5月31日	金	青少年育成高知県民会議総会	高知市
6月20日	木	青少年育成越知町民会議総会	越知町民会館
7月5日	金	「青少年の非行・被害防止強調月間」総決起大会	高知市
7月中	金～	「青少年の非行・被害防止全国強調月間」	越知町(町民への啓発)
7月21日	日	越知町子育てクラブ(流しそうめん in English)	越知町民会館
9月6日	日	第46回「少年の主張」高知県大会	春野ピアステージ
9月17日	火	第2回青少年育成高知県民会議会長・副会長会	高知市
9月29日	日	越知町子育てクラブ(BBQ バウムクーヘン作り)	土佐町いしはらの里
10月11日	金	第2回青少年育成高知県民会議理事会	高知市
10月26日	土	明治地区ぐるみ会運動会	明治西部公民館
11月中	土～	「子ども・若者育成支援強調月間」	越知町(町民への啓発)
11月23日	土	越知町子育てクラブ(手作りピザとペットボトルロケット)	野老山公民館
12月5日	木	高知県民会議市町村民会議ネットワーク会	高知市
2月15日	土	越知町子育てクラブ(桂浜水族館・タタキ体験)	南国市
2月5日	水	第3回青少年育成高知県民会議会長・副会長会	高知市
2月18日	火	第3回青少年育成高知県民会議理事会	高知市

② 広報おちによる「家庭の日」標語・三行詩の掲載を行う。

③ 各種団体への活動費の助成

本町の青少年の非行防止と青少年がいかなるときでも決してくじけず、心身ともにたくましく健やかに育って欲しいという願いをこめ、下記団体に対し活動費の一部を助成

ア 越知町子育てクラブへの助成・・・1団体

イ 地区子ども会への助成・・・・・・・・2団体（①野老山子ども会 ②横畠子ども会）

ウ 少年スポーツクラブへの助成・・・7団体（①少年野球②小学生バレー③少年柔道

④少年空手 ⑤少年サッカー ⑥中学男子バスケットボール

⑦KSS 愛好会）

エ 明治地区ぐるみ会への助成

④ その他

今年度も、町民会議の『小中学生の意見発表』が好評で広報「おち」に掲載した。町民会議で発表した越知中学校2年安井こはるさんの作文は『少年の主張』高知県大会において奨励賞を受賞した。

越知町連携推進部会

令和6年度 AIドリル研究部会 活動報告

1. 今年度の連携活動テーマ

家庭学習や個別最適な学びにかかる効果的な活用研究

2. 具体的な連携活動内容

- (1) 各学年、1人のデータを見取り、その児童・生徒に対する手立てを行う。
- (2) 全体のデータを、同一学年集団の比較を行う。(上位層・中間層・下位層)

3. 組織構成

AIドリルのデータの見取り 担当学年

小5→井口 小6→池本 中1→安井 中2→大石 中3→伊藤 総括→須内

4. 活動経過

	月/日(曜)	場所	内 容
1	5/1(水)	越知小	テーマの設定、年間活動計画
2	1/14(火)	越知小	活動のまとめ

5. 成果と課題(取組評価)

成果(中学校)

- (1) 金曜に課題を配信(配信した課題と同じ範囲のテストを木曜日に実施)
→すららテストにおいては社会と数学の正答率が向上した。
- (2) 抽出した生徒のすららのテストと期末テストの結果の変容を基にした分析
→中間層に関しては、すららの正答率の変容と期末テストの点数の変容の整合性がとれなかったため、検証不能。上位層に関しては、すららの正答率の変容と期末テストの点数の変容の整合性がとれたため、すららの取組が定期テストの成果につながったと言える。
- (3) 家庭学習でスタディログを活用したデータ分析
→データ分析対象生徒(1年:Yさん 2年:Nさん 3年:Kさん)については、分析教科の定期テストの点数が向上した。

1年:Yさん…+32P 2年:Nさん…+19P 3年:Kさん…+4

- (4) 小中すらら交流
→交流の振り返りでは、「小学校の学習内容の振り返りができたのは良かった。」といった回答が多かった。

課題(中学校)

- (1) 金曜に課題を配信
木曜に配信した課題と同じ範囲のテストを実施
→社会・数学以外の教科においては、正答率はあまり向上しなかった。原因が不明で、今後の対策は要検討。

- (2) 抽出した生徒のすらの期末テストの結果の変容を基にした分析
→低位層に関しては、すらの正答率は下がっているのに、期末テストの点数も下がった。今後は、教員がついて支援をしながらできるようになったといった実感を持たせていく。
- (3) 家庭学習でスタディログを活用したデータ分析
→家庭学習に対して個人による意識の差が大きく、生徒が必要を感じていないことが顕著に表れている。今後は、学習委員会から呼びかけを継続する。
- (4) 小中すらら交流
→すらの学習に意欲的でない児童もあり、学習が進まず相乗効果が得られなかった。今後は、双方にとって効果が生み出せる手法を再度検証していく必要がある。

活用事例（小学校）

(1) 家庭学習での活用

- ア ラーニングデザイナーを使用し、学習進度に応じて復習予習の課題に計画的に取り組んだ。
- イ 社会科・理科の自主学習に取り組み、間違ったところや理解を深めたいところを自主学習ノートにまとめる主体的な姿が見られるようになった。
- ウ スタディログを活用した自己分析
中学生からスタディログの見方や、自己課題の把握の仕方をアドバイスしてもらった。小学生から中学校ではどんな学習をするのか等質問したりする姿も見られた。
- エ 11月には、中学生からアドバイスをしてもらったことを活かして、自分たちでスタディログを見て、学習内容を決定する授業を行なった。

成果（小学校）

- (1) 積極的に取り組むことができた児童は、単元テスト等の成績が上がった。
算数科では、思考力・判断力・表現力に関する力が伸びていた。社会科・理科では、知識・技能面の定着が高まった。特にAIドリルによる個別の習熟段階に応じた課題設定により、一人一人の課題に応じた学習ができる点が効果的であったと感じた。
- (2) ログを活用することによって、自分の得意分野や苦手分野を把握し、学習内容を自己決定しようとする姿が見られた。
- (3) 教員にとっても、プリントの準備と比較して圧倒的に負担感の軽減につながった。



連携担当

(部長)	伊藤 桃子	(副部長)	井口 健太郎	(書記)	池本 玲奈
(部員)	大石 裕也	安井 園未	須内 康雄	井上 桂誌	高橋 秀幸 堀野 真一

令和6年度 越知町連携教育推進委員会【徳】道徳・人権部会 活動報告

1. 今年度の連携活動テーマ

社会の中で人としてよりよく生きていくための豊かな心をもった子どもの育成
～道徳の授業を通して～

2. 具体的な連携活動内容

- ・地域人材を活かした授業を公開し、参観、事後協議を行う
- ・アンケート調査を年間2回（5・6月と12月）に実施し、生徒の変容を見る

3. 組織構成

役割分担：公開授業の案内 小学校（内山 菜摘） 中学校（岡本 有生）

4. 活動経過

月	日	曜	内 容	活動・取組	場 所
5	1	水	テーマ設定・活動計画	今年度の連携テーマ、活動内容、評価指標等について協議	越知小
10	4	金	中学校道徳公開授業	地域人材を活用した授業	越知中
10	18	金	小学校道徳公開授業	地域教材を活用した授業	越知小
1	14	火	活動のまとめ	活動内容、成果と課題等について協議	越知小

5. 成果○と課題△（取組評価）

（1）地域人材を活かした授業を公開し、参観、事後協議を行う

①小学校 地域教材を活用した公開授業を行った。

○梅ノ木川の清掃学習と繋げたことで、現地で地域の方から実際にお話を聞くことができた。

○地元の自然環境を守るために、先人たちがどのような活動をしてきたのかを知ることができる地域教材であった。実際に清掃活動をする前に道徳で学習するというカリキュラムマネジメントも組まれていた。清掃活動に向けて意識を高めるのによい機会となった。

○越知小の活動を題材にしていることで興味関心を持って授業に取り組むことができた。

△カリキュラムマネジメントをして、下学年で学習を行うようにしたい。

△本時の学びを通して、自分達から清掃活動をしたいという意見が出てくる展開、発問ができればよかった。



- ②中学校 地域人材を活用した公開授業を行った。
- 専門的な視点からの話をしてもらえたことで理解が深まり、
これからの行動をしっかりと考えることができた。
- 外部から講師が授業に入るのは、生徒たちにとっては新鮮な感じで良い。



○小学校では地域人材を十分に活用できていないので、見直すきっかけとなった。

△打合せが不十分で、スムーズに進行できない場面があった。事前に模擬授業を行い、流れを確認した方がよい。

△授業を通して、生徒が変容した姿を見ることができなかった。ねらいにどのように迫っていくのか考える必要がある。

(2) アンケート調査を年間2回(5・6月と12月)に実施し、生徒の変容を見る

①小学校での評価指標：

- ・地域や社会への興味関心における質問項目の肯定的評価70%以上
「今住んでいる地域の行事やボランティア活動に参加している」
- ・行事に向けた意欲付けを図る取組を年に1回以上取り組む

○肯定的回答をした児童が76.5%(1回目)から、77.3%(2回目)と0.8%増えた。
総合学習で地域に出て活動をしたことで、地域にも目をむける児童が増えてきたのではないかと考える。

△当項目での肯定的回答は増えていたが、同領域の「今住んでいる地域が好きである」の肯定的回答は95.6%(1回目)から90.9%(2回目)と減少していたので、地域に興味・関心を持てるような授業づくりを今後意識して行う必要があると考える。

②中学校での評価指標：

- ・自尊感情における質問項目「自分にはよいところがあると思う」の肯定群85%以上
※道徳アンケート調査2回(①9/2②12/23)で見取る

○肯定的回答をした生徒が71.6%(1回目)から、73.0%(2回目)と1.4%の上昇が見られた。道徳の授業を通して自分自身を肯定的に捉え、教職員からの声掛けや頑張ったことに対する価値づけ等の取組によるものだと考える。

△2回とも目標とする数値には12%ほど到達しておらず、自分の価値を実感できる環境を整え、ポジティブな人間関係を築き、成功体験を積んでいけるよう指導・支援を続けていく。

6. 来年度に向けて

今年度は、地域に目を向けた道徳の授業を中心にして活動を行い、お互いの様子を知ることができた。来年度は、道徳教育を通じて人権意識も併せて高めていくと共に「県民に身近な11の人権課題」について園小中で系統的な学習計画を立てることや人権学習の授業を公開し、ホームページやすぐー等で発信することなどに取り組んでいきたい。

連携担当

部長 岡本 有生 副部長 内山 菜摘 書記 壬生 博文

部員 村山 あかり、高橋 晴香、和泉 早姫、大崎 三佳、大原 真奈美、岡本 寧々、中野 聡美、堀野 真一

令和6年度 生活・体力向上部会 活動報告

1. 今年度の連携活動テーマ

体力向上、生活習慣の確立に向けた小中連携を目指して

2. 具体的な連携活動内容

- ・小中合同体育 ・小学校公開授業研
- ・小中共通の生活アンケートの実施、分析
- ・ファインディングドックスとの連携による体力向上

3. 組織構成

- ・小中合同体育：上地 柿内 中須 近澤 足立
- ・小学校公開授業研：柿内
- ・ファインディングドックスとの連携：上地 中須
- ・小中共通の生活アンケートの実施、分析：須内 高橋 山中

部長 上地 平真（小） 副部長 中須 凌（中） 書記 柿内 創（小）
 部員 高橋 初枝（小） 須内 瑠璃（小） 改田 騎隆（小） 近澤 和司（中）
 足達 伸司（小） 山中 理代（中） 箭野 安美（委） 堀野 真一（委）

4. 活動経過

月	日	曜	内 容	活動・取組	場 所
4	19	金	体力テスト測定（中）	・8種目	中学校体育館
5	1	水	年間指導計画の作成	・組織作り	小学校
5	16	木	中学校公開授業	・中2「バスケットボール」	
5	21	金	体力テスト測定（小）	・8種目	小学校体育館
6	27	木	小中合同水泳授業	・小6・中1水泳授業	中学校プール
9	13	金	小学校公開授業	・小6・中3「ハードル走」	小学校運動場
9	7日間		生活アンケート（小）	・生活リズムチェック実施	各教室
9	24	金	小中合同授業	・小6「ハードル走」	中学校
11	4日間		生活アンケート（中）	・ヘルスポイント実施	各教室
12	25	木	生活だより（小・中）	・「メディア」「睡眠」についての通信発行	小学校中学校
1	17	金	1年間の活動まとめ	・1年間の振り返り・次年度に向けて	小学校
1	19	日	体力テスト測定（小）	・8種目	小学校体育館
1	23	木	体力テスト測定（中）	・4種目	中学校体育館
1	25	土	体力テスト測定（中）	・4種目	中学校体育館

5. 成果〇と課題◆（取組評価）

（1）小中合同体育

①小中合同水泳授業（授業者：中須）

〇中学校の施設で、中学校の教員が授業を行うことで、小学生が来年度のイメージを持つことができ、中1ギャップによる不登校が少なくなると考える。また、中学生と小学生の交流で、中学校に入学後の人間関係作りが円滑になる。

◆水泳の授業に関しては、水深の調整や教員の増員等の配慮を行ったが、安全管理を徹底するためにより一層綿密な打ち合わせを行い、事故の防止に努める。



②小中合同陸上授業（授業者：上地）

〇中学生は「具体的なアドバイスをロイロノートにまとめて6年生に送る」小学生は「アドバイスをもとに動きの改善をする」というそれぞれの学年に応じたねらいをもって授業実践を行うことで、児童生徒の意欲の向上が見られた。

◆計画的な取り組みができず、単発で終わってしまった。単元を通して計画することで、児童生徒が自身の成長や変化を振り返ることができる機会を設け、主体性の向上に向けてより効果的な実践にしていきたい。



（2）その他の取組

①公開授業（中学校：2年生「バスケットボール」）

〇園小中すべての教員で参観した。その授業の中で、個別最適な学びと協働的な学びの活用場面についてchatを使用し、参観者の意見を即時共有できた。Chatを使用した授業方法や、即時共有した意見を各教科、自分の授業に活かすことができた。

◆Chatを使用した授業や、新たな授業の形を知り、より効果的な授業方法を見つけ、実践する。

②スポーツテスト

〇年度初めには体力向上を目的とし、ファイティングドッグスの方を講師に招聘して取り組んだ。また、今年度は、年度初めと年度末に2回スポーツテストを実施し、さらなる体力向上の改善に努めた。

◆今年度はスポーツテストの実施のみに留まってしまった。来年度は、結果を受けて、連携部会としての体育の授業づくりを目指していきたい。

③生活アンケート

〇生活アンケート実施後、結果について情報交換できたことで、小中共通の生活だよりを発行することができた。

◆家庭への周知が不十分だったため、取組の様子に差が見られた。小中の生活アンケートの実施時期を合わせて取り組むことで、家庭での生活リズムに対する意識向上を目指す。

④小中共通の「生活だより」の発行

〇生活アンケートの結果、課題としてあがった「睡眠」と「メディア」について、児童生徒・家庭の生活リズムに対する意識向上をねらいとして、冬休み直前に小中共通の生活だよりを発行した。

令和6年度 園小接続部会 活動報告

1. 今年度の連携活動テーマ

園小連携・接続における連続性のある指導・支援の在り方

2. 具体的な連携活動内容

- お互いの公開授業や保育を見合い、越知の子ども達の成長や課題を見る。
- 交流活動の打ち合わせ、当日の参加、振り返りを行う。
- 成果と課題の確認をして来年度に繋げる。

3. 活動経過

月	日	曜	内 容	活動・取組	場 所
4	30	火	スタートカリキュラム公開授業	1年生の公開授業参観・研究協議	小学校
5	1	水	幼小連携連絡部会①	テーマ・活動内容決めなど	小学校
6	5	水	こども園公開保育	5歳児公開保育参観・研究協議	こども園
7	29	月	園小中合同研修会	菅原裕子先生「子どもの心のコーチング」	町民会館
9	17	火	交流活動①の打ち合わせ	ねらい・日程確認・グループ決めなど	小学校
10	16	水	交流活動①・振り返り	フラフープで仲良くなろう	小学校
11	29	金	こども園公開保育	5歳児ブロック別研修会	こども園
12	2	月	交流活動②の打ち合わせ	ねらい・日程確認・グループ決めなど	小学校
12	17	火	交流活動②・振り返り	昔遊び	小学校
1	14	火	園小連携部会②	今年度の成果と課題を持ち寄る	小学校
1	29	水	交流活動③ 打ち合わせ	ねらい・日程確認・グループ決めなど	小学校
2	19	水	交流活動③・振り返り	一日入学・おもちゃフェスティバル	小学校
3	4	月	保幼小連絡会	年長児引継ぎ	小学校

4. 成果と課題（取組評価）

（1）成果

- 園児にとっては小学校に親しみを持ったり、入学後のイメージが付きやすかったりするため、準備の期間となっているように思う。
- 小学校の活動を園児に伝えることを楽しみ、見通しをもって意欲的にできた。
- 児童は交流することで、自分の成長を感じたり、お世話する等のコミュニケーションのとり方を学んだり、おもてなしをしたりする経験となり次の学年に向けての準備になっている。
- 回数を重ねるごとに相手意識をもった言動が見られ、交流活動の質の高まりを感じた。
- 交流活動での反省を活かし、子ども達に無理のない活動を決めることができた。

- ・公開保育を見に来ていただき、話をする場があったので、こども園と小学校が互いのことを知るきっかけとなった。

(2) 課題

- ・園、小学校ともそれぞれの時間がないので日程調整が難しく、去年の後追いをすること一杯で、交流活動の持ち方等についてのブラッシュアップができない。
- ・毎年の子どもの姿が違うので、課題も変わっていく。
- ・互いの行事との兼ね合いもあるため、年間計画を把握し、見通しを立てる必要がある。
- ・機材の確認をしておくこと。
- ・各活動のねらいを小学生にもしっかりと伝え、ねらいを達成できる手立てが必要。
- ・部会として目指す姿の共有や確認が必要。
- ・小学校は、部会の担当が重なることもあり負担が大きくなったり、同日開催の場合は出席できなかったりする場合もある。

(3) 来年度に向けて

- ・教育委員会は今年度、打ち合わせや振り返りに参加できていなかったもので、活動の成果や課題を知るためにもできる限り参加する。
- ・架け橋期カリキュラム作成に向けて、具体的な進め方を考えていく。

連携担当

(部長)	(副部長)	(書記)
田村 香	森 雪菜	岡林 美佳
(部員)		
矢野 有茶	隅田 澄子	西村 友宏
井手 裕子	片岡 鮎子	<役員の兼任可>

